

76  
267

商業倉庫株式會社法律顧問  
日本橋杉村倉庫部法律顧問  
神田川倉庫部法律顧問  
橫濱倉庫株式會社相談

法學士  
辯護士

花岡敏夫著

我法律上ヨリ觀タレ

# 倉庫と金融

發行所 有斐閣書房

76-267

商業倉庫株式會社法律顧問  
日本橋杉村倉庫部法律顧問  
神田川倉庫部法律顧問  
橫濱倉庫株式會社相談役

法學士  
辯護士  
花岡敏夫著

我法律上ヨリ觀タル

倉庫ト金融

明治  
40 8 19  
丙交

發行所 有斐閣書房

## 自序

余ハ一昨年ノ秋東京銀行集會所ニ於テ倉庫業者、銀行業者、荷主等ノ集會セル折ニ我法律上ヨリ觀タル倉庫貨物ニ對スル金融狀態ナル題目ニテ一席ノ講演ヲナシタルコトアリ又タ昨年夏上野精養軒ニ催セル京濱間倉庫業者懇親會ノ席上ニ於テ倉庫證券ノ規定ニ關スル疑問ナル題目ニテ卑見ヲ述ヘタルコトアルカ其後屢々此等ノ草稿ヲ公ニスベキ旨ヲ要求セラレタルモ平素雜務ニ逐ハレ其望ニ應スルヲ得ザリシハ余ニ於テモ頗ル遺憾トセリ

然ルニ今回江木法學博士ノ推薦ニヨリ直隸總督袁世凱ノ招聘ニ應シテ天津ニ赴任スルコトトナリタルヲ以テ匆卒茲ニ多少ノ増補訂正ヲ加ヘテ前講演ヲ本書第一章倉庫貨物ニ對スル金融ノ現況及ヒ第二章倉庫貨物ニ對スル金融狀態ヲ我法律上ヨリ觀察ストノ二章ト爲シ後ナル演題ヲ第三章我倉庫證券ノ規定ニ關スル疑問ト稱シ其他平素余ガ顧問ヲナセル者ノ諮問ニ應ジテ答ヘタル處ヲ輯録シテ第六章我商法ニ關シ倉庫業者ノ注意スヘキ事項及ヒ第七章倉庫證券記載事項ニ付キテノ二章トナシ尙

ホ將來我法典修正ノ參考トシテ第四章倉庫證券ニ關スル一枚證券制度ト二枚證券制度トノ意義ヲ論シテ其得失ニ及ブ第五章我商法ノ倉庫ニ關スル規定ノ缺點ナル二章ヲ其間ニ交ヘテ本書ノ態容トナシ添ユルニ附錄第一ヲ以テ同ジク法典修正ノ參考トナシ其第二ヲ以テ同ジク倉庫業者ニ對スル注意ヲ促サントシタルニアリ然レトモ固ヨリ研究ノ足ラサル處アルヲ信ス幸ニ識者ノ是正ヲ待チテ斯界ノ發達ニ資スル所アラハ余ノ本志トスル處ナリ殊ニ第三章我倉庫證券ノ規定ニ關スル疑問ノ如キハ

余ガ識者ノ明斷ヲ需ムルニ最モ急ナル處トス、  
 書中掲クル所ノ事例ハ余ガ明治三十八年頃ニ調査  
 シタルモノナルヲ以テ或ハ今日ニ至ルマデノ間變  
 更セラレタルモノアルベシ又タ本書ハ前述ノ如ク  
 演說速記ヲ更ラニ文章體ニ改メタルヲ以テ行文ノ  
 前後相重複スル處アルハ幸ニ讀者ノ諒察セラレン  
 コトヲ希フ  
 終リニ本書ヲ公ニスルニ際シ余ノ爲メニ幾多ノ材  
 料ヲ供セラレタル先輩及ビ友人諸兄ノ厚意ヲ特ニ  
 深謝シ併而余ノ淺學寡聞ナルガ爲メニ或ハ論理ノ

判定ヲ誤リ或ハ事實ノ真相ヲ謬リ因テ其材料ヲ利  
 用シ得サリシモノアラハ先輩及ビ友人諸兄ニ對シ  
 テ謝スルニ辞ナキ處ナリ

明治四拾年初夏六月

花岡敏夫識

# 我法律上ヨリ觀タル倉庫ト金融

## 目次

### 緒言 倉庫ノ觀念

### 第一章 倉庫貨物ニ對スル金融ノ現況

#### 第一節 倉庫證券ヲ發行セサル場合ニ於ケル金融狀態

(一) 寄託者名義

(二) 或銀行業者ノ保管證書ニ對スル觀察

(三) 一部出庫及辨濟期限後ノ利息取立ニ關スル取扱

#### 第二節 倉庫證券ヲ發行シタル場合ニ於ケル金融狀態

(一) 倉庫證券ニ對スル金融名義

(二) 倉庫證券ニ對スル銀行業者ノ金融方法

(イ) 銀行ハ通常預證券及質入證券ノ雙方ヲ占有ス

## 第二章 倉庫貨物ニ對スル金融状態ヲ我

### 法律上ヨリ觀察ス

第一節 保管證書ニヨル金融状態ヲ論ス

第二節 倉庫證券ニヨル金融状態ヲ論ス

(一) 預證券及質入證券ヲ銀行カ占有スルコトニ關スル法律上ノ觀察

(イ) 流質ノ意味ニ出タルモノナルカ

(ロ) 法律上無効ニ非ラサルカ

(二) 質入證券ノミナ銀行カ占有スルコトニ關スル法律上ノ觀察

(イ) 拒絕證書作成ノ煩勞

(ロ) 競賣申立ノ不利益

(三) 預證券及質入證券ノ活動

第三節 一部出庫ニ關スル金融状態ヲ論ス

第四節 辨濟期限後ノ利息取立ニ關スル金融状態ヲ論ス

## 第三章 我倉庫證券ノ規定ニ關スル疑問

第一節 我法律ハ倉庫證券ノ流質及其他ノ特約ヲ認メサ

ルカ

第二節 我法律ハ預證券ノミニヨル別種ノ質權設定ヲ認

メサルカ

第三節 質入證券ノ流通方法ヲ論ス

第四節 質入證券ノ所持人カ債務者其他ノ裏書人ニ對シ

テ償還請求權ヲ有スルハ立法上其當ヲ得サルハ、

シ

第五節 倉庫證券ニ記載ヲ要セサル先取特權ノ範圍ヲ論

シテ入庫以前ニ生シタル立替金其他ニ及ブ

## 第四章

### 倉庫證券ニ關スル一枚證券制度

四

ト二枚證券制度トノ意義ヲ論シ  
テ其得失ニ及ブ

第一節 一枚證券制度ト二枚證券制度トノ意義

附英國ノ倉庫證券制度

第二節 一枚證券制度ト二枚證券制度トノ得失

附複本制度ノ主張

## 第五章

### 我商法ノ倉庫ニ關スル規定ノ缺

點

(一) 質入證券滅失ノ場合ニ於ケル新證券交付ニ關シ要書人ノ責任關係ヲ明カニスベシ

(二) 第一ノ質權設定ニ付テハ倉庫業者ヲシテ署名セシムベシ又ダ證

券ノ移轉ハ其度毎ニ取得者ヲシテ通知セシムヘシ  
(三) 支拂拒絕證書作成ハ無用ノ手續ナリ又ダ之ヲ作成スルニモ簡單ナル方法アリ

(四) 質入證券所持人ニハ償還請求權ヲ與フルノ必要ナケン

(五) 見本抽出ノ場合ニ其數量ヲ證券ニ記入セシムベシ

(六) 保管料其他受寄物ニ關スル費用請求權ヲ出庫ノ時ニ制限スル必要ナシ

(七) 保管期間經過後迄倉庫ニ貯藏シタル貨物ハ直ニ引取義務アリトスベカラズ

(八) 倉庫證券ノ所持人ニ對シテ倉庫ノナスベキ通知事項ハ發信ト公告トナシテ重ニ行ハシムベシ

(九) 一部出庫ノ爲メニスル一部辨濟金ニ對シテハ優先權ヲ認ムヘシ  
(十) 其他ノ缺點

## 第六章

### 我商法ニ關シ倉庫業者ノ注意ス

目次

五



## へキ事項

六

- (一) 倉庫業者ハ預證券ノミヲ發行スルコトヲ得ス
- (二) 船荷證券又ハ貨物引換證ニ對シテ證券ヲ發行スルヲ得ズ
- (三) 倉庫證券記載事項ト雖モ貨物ノ性質及ヒ權利義務ノ關係ヲ定ムル爲メニ必要ナラサル場合ニハ之ヲ記載セサルモ差支ナシ
- (四) 倉庫證券ハ無記名式トナスベカラズ
- (五) 倉庫證券ニ記載スヘキ數量品質等ハ必スシモ之ヲ明示スルヲ要セス即チ其記載事項ヲ記載スルニハ相當ノ注意ヲ用ユレハ足ルベシ
- (六) 寄託貨物ノ價格ハ證券ニ記載シ得サルモ銀行及火災保險業者ニ對シテハ之ヲ保證セサルヘカラズ
- (七) 倉庫業者ハ其付スヘキ入庫貨物ニ對スル火災保險ノ性質ヲ明示スベシ
- (八) 倉庫證券ノ發行アル貨物ニ對シテハ債務者カ其證券ヲ現ニ所持セル旨ヲ債權者ニ於テ舉證セサレハ差押ヲ許スヘキモノニ非ラズ

ス

- (九) 倉庫證券ニ當會社賠償ノ責任ハ雨漏竊盜紛失ノ場合ニ限ルモノトストノ規定ハ果シテ此場合ニハ過失ナキコトヲ立證セスシテ全々責任ヲ負フノ意ナルカ
- (十) 出庫貨物ニ對スル倉庫業者ノ責任ハ本則トシテハ即時時効ナレトモ協合ニヨリ一年ヲ以テ時効トスルコトアリ又五年ヲ以テ時効トスルコトアリ
- (十一) 質入證券ノ返還ニ際シテ債權者ハ裏書讓渡ノ形式ヲ踏ムベカラズ
- (十二) 倉庫證券ニ所持人ハ當會社ノ營業規約ヲ約諾シタルモノトストノ規定ヲナスモ絶對ニ有效ナルヲ得ス

## 第七章 倉庫證券記載事項ニ付キテ

### 附 録

#### 第一 商法中倉庫ニ關スル規定修正意見

目 次

七

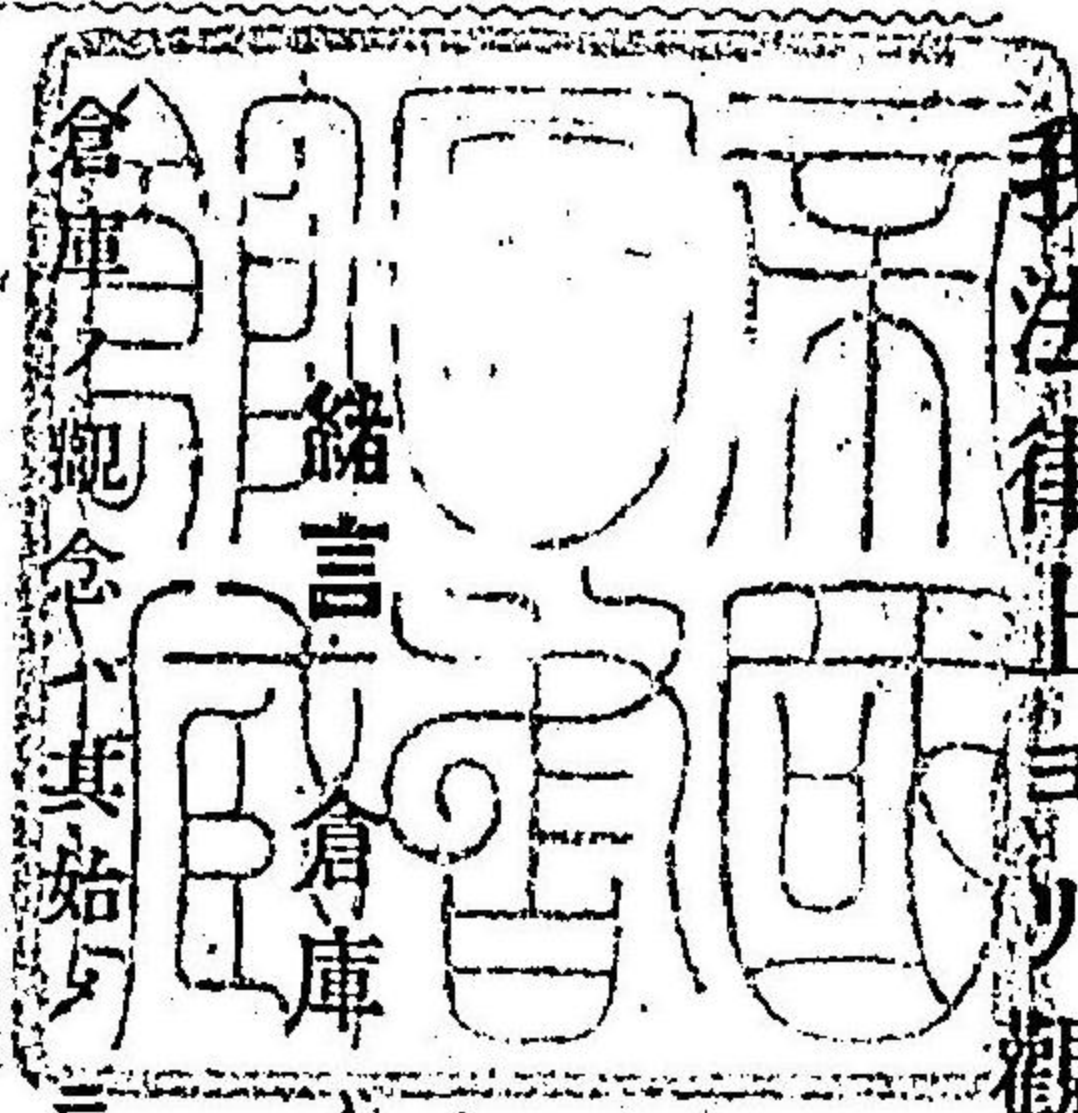
- (イ) 東京商業會議所ノ商法修正意見中倉庫ニ關スル意見
  - (ロ) 大阪商業會議所ノ發表シタル倉庫規定ニ關スル修正案
  - (ハ) 大阪商業會議所特別會員三谷軌秀氏ノ發表セラレタル倉庫證券ニ關スル修正案
- 第二 第三百三十八銀行對中外倉庫株式會社取締役各個  
人ニ對スル訴訟事件記録摘要
- (イ) 東京地方裁判所判決
  - (ロ) 控訴代理人提出ノ準備書面

# 目次

丁

## 我法律上ヨリ觀タル倉庫ト金融

法學士 花岡敏夫 著



### 緒言

倉庫ノ觀念ハ其始ニ於テハ主トシテ貨物ノ貯藏場トシテ時ノ差異ニヨ  
ル價格ノ高下ヲ利用シタルニ過ギザリシガ信用及ビ金融ノ各機關ノ發達  
スルニ從ヒ倉庫ニ對スル此觀念ハ單ニ一部分タルニ過キスシテ今日ニ至  
リテハ所有權移轉ノ爲メニスル引渡ノ勞費ヲ省クノミナラズ質權設定ノ  
作用ニヨリ金融機關トシテ法律上並ニ經濟上重要ナル關係ヲ有ス而シテ  
余ハ此ニ金融機關トシテノ倉庫ヲ法律上ヨリ觀察セント欲スルニアリ、

## 第一章 倉庫貨物ニ對スル金融ノ現況

### 第一節 倉庫議券ヲ發行セサル場合ニ於ケ

#### ル金融狀態

現今我國ニ於テ金融機關トシテ普通倉庫ガ活働ヲ爲セル狀態ハ我商法ノ規定セル倉庫證券即チ預證券及質入證券ノ發行ニ因ル場合ハ勿論ナルカ尙ホ此方法ト相對峙シテ流通ヲ目的トセサル證券ニ因リテ金融機關ノ働ヲナス場合頗ル多シ而シテ此流通ヲ目的トセサル證券ニヨル場合即チ我商法ノ倉庫證券ニ因ラスシテ金融機關トナル場合トハ倉庫カ寄託貨物ニ對シテ保管證書ノミヲ發行スル場合ヲ云フ尤モ質入證券ト相伴ハズシテ初メヨリ流通ヲ禁止シタル預證券名義ノ證書ノミヲ發行シテ此目的ニ使用スルノ例亦少ナカラズ而シテ後ニ本書第二章ノ冒頭ニ於テ論スルカ如ク余ハ之レヲモ倉庫證券ヲ發行セサル場合ナリトシテ分類スヘキモノト

信ス、此等ノ事例トシテハ澁澤倉庫ノ別扱貨物預證、商業倉庫ノ禁流通物品預證書、三井箱崎倉庫ノ禁流通預證券、東京倉庫ノ禁流通貨物預證券、橫濱中央倉庫ノ禁流通貨物預證券及ヒ大阪住友倉庫ノ禁流通保管證書等皆然リ、之レヲ要スルニ保管證書ハ其初メニ於テハ固ヨリ單ニ貨物ノ受取證ニ過ギザリシガ今日ニ至リテハ却テ本來ノ性質ヲ脱シテ金融ノ目的ニ使用セラル、場合少ナカラス是レ蓋シ銀行業者及ビ倉庫業者ガ我現行商法ニヨル倉庫證券ニ關スルニ枚證券制度ノ規定ヲ以テ不便ナリトシ且質入證券ノ裏書ヲ無用視スルニ出テタルモノニシテ假令ハ橫濱正金銀行ハ一般ニ倉庫證券ヨリモ保管證書ニ基キテ金融ヲナスヲ好ムノ風アリ又東京倉庫ト三菱銀行トノ間及ヒ三井倉庫ト三井銀行トノ間ノ如キ大銀行ニ於テモ主トシテ此保管證書ヲ以テ金融ノ目的ニ供シ商法ニ規定セル預證券及質入證券ハ唯他ノ銀行ニ對シテ金融ヲ求メントスル寄託者ノ爲メニ發行シ

居ルニ過ギサルナリ又々禁流通預證券ナルモノモ當業者ガ質權ノ裏書ヲ無用視セルガ爲メニ預證券本來ノ流通性ヲ棄テ、我商法ニヨルニ枚證券制度ニ背反セル沒主義ノ名稱ヲ虛有スルニ過キサルナリ、

### (一) 寄託者名義

前述セル橫濱正金銀行、三菱銀行、三井銀行等ニ於ケル金融ノ場合ニ付キ此等保管證書ニハ銀行ヲ以テ直接ニ寄託者名義トナスノ形式ヲ採レリ之レ別ニ特約證書ニヨリ貨物ヲ銀行ニ豫メ根抵當ニ差入レタル後ニ銀行ヲ寄託者トシテ倉庫ヨリ保管證書ヲ發行スルモノニシテ荷主ハ證券面上ニ全ク現ハレサルナリ、

此ノ如ク保管證書ヲ銀行ガ自己ノ名義ニ於テ取得シ之レニヨリテ荷主ニ對シ金融ヲ爲ス所以ハ後チニ第二章ニ於テ論スルカ如ク此等ノ大銀行ニ於テハ我商法ノ規定ノ如クンハ(一)債務者カ支拂ヲナサル場合ニ競賣ヲ申立テントスルニハ拒絕證書ノ作成ヲ必要條件トシ然モ一定ノ期日內ニ

金融ノ爲ニ保管  
證書ヲ使用スル  
ノ使益

之ヲ作製セサルベカラス(商法第三百六十九條)又々其不足額ニ付キ裏書人ニ對シテ償還請求權ヲ行使センニハ必ス二週間内ニ競賣ノ申立ヲナスコトヲ必要トシタルヲ以テ(商法第三百七十三條)反ツテ商法ノ規定セル償還請求權ヲ不便ナリトシ又(三)寄託貨物ノ一部出庫ニ付我商法ノ精神不明ナルヲ憂ヒ且ツ(四)若シ銀行ニ全部ノ占有若クハ所有權ヲ取得シタル形式ト爲シテ別ニ副證ヲ以テ流質ヲ特約セハ其貨物ヲ銀行ノ隨意ナル方法ニテ又隨意ナル時期ニ於テ賣却シ得ルノミナラス(五)他ニ尙ホ債權アルトキハ賣却殘額ヲ以テ之レニ充當シ得ルノ便アリトノ精神ニ出テタルモノナルカ如シ、

以上ノ如キ理由アルヲ以テ銀行カ自ラ寄託者トナリ倉庫ヲシテ保管證書ヲ出サシムルハ單ニ倉庫證券ニ對スル裏書手續ヲ省略シタルニ止マラスシテ各種ノ便益アルヲ以テ此保管證書ノ形式ハ今日多ク實際ニ於テ採用セラル、處ナリ、

六

(二) 或銀行業者ノ保管證書ニ對スル觀察

嘗テ余カ大阪ニ於テ鴻池銀行ノ役員ニ對シテ當地ニテハ保管證書及ヒ倉庫證券ハ如何ナル寄託者ガ如何ナル目的ニテ之レヲ區別シテ倉庫營業者ヨリ受取ルヤニ付キ意見ヲ問ヒシニ同氏ノ言フ處ニヨレハ「保管證書ヲ受取ル寄託者ハ金融ノ必要ナキ即チ資産ノ充分ナル者カ之レヲ受取り質入證券預證券ノ如キハ主トシテ金融ノ必要アル小資産家ガ請求スルモノナラン」トノ話ナリシカ如ク同地ニテハ或ハ保管證書ヲ單純ニ保管證書本來ノ意義ニ使用スルモノナランモ倉庫貨物ニ對スル經濟上ノ觀察トシテハ之レ正鵠ヲ得タルモノトハ云ヒ難カルベシ何トナレバ商賣ノ盛ナルニ從ヒ益々金融ノ必要起ルベキモノニシテ資産ノ多寡ハ金融ノ必要ト左程關係ナク唯資産ノ割合ニ充分ナル商業上ノ活動ヲ爲シ居ラザル場合ニノミ適應スベキ觀察ニ過ギスト考フ、

(三) 一部出庫及ビ辨濟期限後ノ利息取立ニ關スル取扱振

抑モ今日ニ於テ倉庫寄託貨物ニ對シテ保管證書發行ノ行ハル、所以ハ金融上ヨリ觀テ既ニ(一)ニ於テ述ベタル次第ナルガ此ニ又保管證書ニヨル金融方法ガ特ニ實際上ノ便宜ニ適ヘル所アリ之レ即チ質權ノ設定セラレタル貨物ノ一部出庫ニ關スル取扱上ノ便宜及質權ノ期限經過後ニ於ケル利息法律上ノ損害利息取立上ノ便宜之レナリトス今マ保管證書殊ニ禁流通預證券ヲ發行シタル場合ニハ證券所持人ノ轉帳スルコトナキヲ以テ一部出庫ノ際ニ於テモ銀行ト寄託者トノ間ニ於ケル對人信用問題ヲ主トセルヲ以テ銀行ハ質權ノ內入金ニ對シテ相當ノ一部出庫ノ指圖書ヲ發シテ倉庫ヲシテ一部出庫ヲ取扱ハシメ其出庫殘リノ貨物ニ對スル對物信用ノミナラス其對人信用ヲモ捕束シ得ベシ從ツテ後ニ述ブルカ如キ倉庫證券ノ轉帳スベキ場合殊ニ質入證券ト預證券トガ互ニ分離シテ轉帳ベキ場合ニ於ケルガ如ク貨物ノ一部ニ對スル轉得債權者及ビ貨物ノ一部ニ對スル轉得所有權者等ヲ見ルガ如キ複雑ナル關係ヲ生セズ常ニ原始ノ債務者ト原

始ノ債權者トノ關係ニ止マルヲ以テ債權者タル銀行ニ採リテハ最モ安全ナル金融方法ナリトセラル、又其關係ノ對人信用ヲ利用シ得ル結果トシテ辨濟期限經過スルモ別ニ特約本證ヲ差入レアル場合ニハ其遲延利息ヲ補償セシムルヲ得ベク荷主ニ於テモ亦タ辨濟期限ヲ勵行セラレ其貨物ヲ競買ニ付セラル、ヨリハ寧ロ期限ノ猶豫ヲ喜ビ債權者債務者相待ツテ此保管證書ニヨル金融方法ヲ採ル所以ナリトス、  
如此キ理由ニ基ツキ我國ニ於ケル主要ナル大銀行ヲ始メトシテ一般ノ銀行家ガ倉庫證券ニ對スル對物的信用ノミニ基ツキ金融ヲ與フルコトヲ好マズシテ對人信用ヲモ利用セントスルハ又タ相當ノ理由アルコトヲ察スベキナリ而シテ倉庫營業者トシテモ證券ノ發行ニ手數ヲ省キ得ルノミナラズ一部出庫ノ取扱上簡單ナルヲ以テ寧ロ其悅ブ所ナリトス

## 第二節 倉庫證券ヲ發行シタル場合ニ於ケル

### 金融狀態

倉庫證券ニ對スル金融名義

(一) 倉庫證券ニ對スル金融名義

我商法ニ規定セル倉庫證券即チ預證券及質入證券ニ對シテ現今銀行業者ガ爲セル金融ニ付キ其貸出名義ヲ見ルニ一様ナラス(一)先ツ銀行ハ預證券質入證券ノ雙方ニ無記名裏書ヲナサシメタル上ニテ其雙方ヲ自己ノ占有ニ取得スルノミナラス尙ホ其債務ニ相當セル約束手形ヲモ差入レシメテ手形割引ナル名稱ヲ以テ貸付ヲ爲スモノ最モ多ク(二)又タ預證券質入證券ノ雙方ヲ占有シテ貸付ナル名稱ヲ以テ金融ヲ爲シ居ルモノアリ(三)併シ大阪ニ於テハ倉庫ノ觀念大ニ發達セルヲ以テ特ニ研究ノ結果ニヤ或ル銀行ノ如キハ假令我銀行條例ニハ銀行ノ金融方法トシテ割引ト貸付トノ二項目ヲ規定セルノミナレトモ更ラニ其以外ニ證券ナル項目ヲ設ケテ倉庫證

普通ハ銀行ニテ預證券及質入證券ノ雙方ヲ占有ス

券ノ基ツク貸出ヲ報告シ居ルノ例アリ、

### (二) 倉庫證券ニ對スル銀行業者ノ金融方法

此等何レノ名義ヲ用ユルニセヨ東京ニ於ケル各銀行ニテハ金融ノ爲メニ質入證券及ヒ預證券ノ雙方ヲ銀行ニ於テ占有スルモノノミナレトモ大阪ニ於テハ質入證券ノミヲ取得シテ貸出ヲ爲セル銀行アリ之レ即チ我商法ニ規定セル精神ニ從ヘルモノナルガ嘗テ余ハ同地ニ於テ銀行カ或場合ニハ預證券及ヒ質入證券ノ雙方ヲ取得シ又他ノ場合ニハ單ニ質入證券ノミニテ金融ヲ爲スノ差別アルハ何ニテ標準トセルカトノ問ヒヲナシタルニ或銀行家ハ答ヘテ「判然タル區別ヲ立ツルヲ得サルモ通常信用ノ厚キモノニ對シテハ單ニ質入證券ノミヲ差入レシメ信用ノ比較的乏シキモノニハ成ルヘク反對ノ依頼ナキ限リハ兩證券ヲ銀行ニ差入レシムル方針ナリ」ト謂ヒシガ併シ余ヲ以テ見ルニ此方針モ實ハ餘リ安心ノ出來得ル方法ニハ非ラサルベシ即チ信用ノ厚キモノハ預證券ニヨリ又他ニモ金融ノ途ヲ講

シ得ルヲ以テ信用ハ却テ過度ニ渉ルノ結果トナルベク要スルニ此ノ如キ  
差別ハ實ハ頗ル曖昧ナル標準ニ外ナラズト信ズ、

而シテ銀行業者ガ貸出ノ爲メニ預證券及ビ質入證券ノ雙方ヲ取得スルハ  
其理由スル處ハ先キニ保管證書ヲ取得スル理由トシテ述ベタル所ト大體  
ニ於テ相等シク從ツテ債權者トシテ務メテ安全ヲ望ム處ヨリシテ東京ニ  
於テハ銀行業者ガ質入證券ノミヲ以テ金融ヲ與フルノ例ヲ聞キタルコト  
ナキモ大阪ニ於テハ質入證券ノミニ對シテモ金融ヲ與ヘ我商法ノ精神ニ  
近キ事例アルハ蓋シ其基ツク所ハ大阪ニ於テハ法律上ノ智識アル壯年者  
ガ銀行ノ支配人等ノ地位ヲ占ムルモノ多キガ爲メ隨ツテ商法ノ精神ニ注  
意セシモノナラシガ殊ニ明治三十七年夏頃證券及ビ質入證券ノ雙方ヲ取  
得シテ貸出ヲ爲シタルモ辨濟セザルニヨリ預證券ノ所持人トシテ其貨物  
ノ任意賣却ヲナシ其賣却代金ニ對シテ質權者トシテ優先權ヲ主張シテ訴  
訟ヲ提起シタルガ其判決ニ依レバ預證券及ビ質入證券ノ雙方ニ單ニ讓渡

裏書ヲナシテ之ヲ債權者ニ交付スルモ當事者間ニ於テハ預證券讓渡ノ真  
意ナキモノトシテ預證券讓渡ナル効力ヲ生セズ從ツテ銀行ハ占有ヲ取得  
シ得ザルヲ以テ民法上ノ質權ヲモ有セズ殊ニ又質入證券ノ裏書ニ讓渡裏  
書ヲナシテ交付スルモ商法ニヨル寄託物ニ對スル質權ノ設定トナルヲ得  
ズトノ理由ヲ以テ全然敗訴セリ固ヨリ如此キ判決理由アリタルハ或ハ債  
權者ニ於テ債務不履行ニヨル流質契約即チ證券讓渡ノ方法ニ關シテ商慣  
習ノ立證足ラサリシガ爲メ預證券ノ讓渡裏書ヲ以テ當事者ノ真意ニ出テ  
タルモノニ非ラズトシテ判定セラレタル所ナランガ(註一參照)余ノ意見ト  
シテモ後ニ第三章第一節流質論ニ於テ論ズルカ如ク如此キハ不完全ナル  
流質トシテ同ジク無効說ヲ主張セント欲ス但民法上ノ質權ナシトノ議論  
ハ余ノ反對セントスル所ナリ然レトモ兎ニ角此判決以來商法ノ精神ニ反  
セル金融方法ハ危險ナリトノ念慮ヲ抱カシムルニ至リタルガ如シ之レ同  
地方ニ於テ質入證券ノミヲ以テ金融ヲ與フルノ傾向ヲ嵩メタル一原因ト



ナリシコトニ付キ確カナル影響アリト信ズ

註一、

判決

大阪府堺市市ノ町西一丁

控訴人 屑田セイ

同市車ノ町東一丁

被控訴人 矢倉龜二郎

右當事者間ノ別除權請求事件ノ控訴ニ付判決スルコト左ノ如シ

主文

本件控訴ハ之ヲ棄却ス訴訟費用ハ控訴人ノ負擔トス

事實

控訴人ハ原判決ヲ廢棄シ被控訴人ハ肥後樽丸三百五十九ニ對シ控訴人ノ別除權ヲ確認スベシトノ判決ヲ求メ被控訴人ハ主文ノ如キ判決ヲ求メタ

リ而シテ事實上ノ供述ハ控訴人ニ於テ明治三十六年三月二十九日矢倉龜二郎ヨリ同日振出同年七月三十一日満期日ナル額面金七百圓ノ約束手形ノ振出ヲ受ケ之ト同時ニ龜二郎ガ堺倉庫株式會社ノ寄託シタル本訴物件ハ預證券並質入證券ハ裏書讓渡ヲ受ケ該證券ヲ取得シタルモ龜二郎ニ於テ前顯手形ノ満期日ニ手形金額ヲ支拂ヒタルトキハ控訴人ヨリ龜二郎ニ裏書讓渡ヲ爲ス可ク若シ期日ニ支拂ハザレバ證券表示ノ物件ヲ賣却シ代金額ニ達スル迄手形金額ヲ減殺スベキコトヲ約シタル旨ハ陳述ヲナシ暗ニ流質契約ヲ爲シタルモノ、如キ趣旨ヲ附加シタルモ其大要原判決ノ事實摘示ニ異ナラズ被控訴人ノ供述ハ全ク原判決ノ事實摘示ト同一ナルヲ以テ茲ニ之ヲ引用ス

理由

商法第三百六十三條ニハ寄託物ニ關スル處分ハ其證券ヲ以テスルニアラザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズト規定シアリ故ニ寄託物ヲ讓渡シ又ハ質入セ

一六  
ントスルトキハ必ズ證券ヲ以テセザルベカラズ而シテ其讓渡又ハ質入ハ  
證券ノ裏書ニ依テ爲スベキモノタルコトハ商法第三百六十四條ノ規定ス  
ル所ナレバ寄託物ニ質權ヲ設定セントスル場合ニハ商法第三百六十七條  
ハ規定ニ依ルニアラザレハ法律上其質權ハ成立ヲ認ムベカラズ故ニ本件  
ノ如キ讓渡裏書ヲ爲シタル質入證券及預證券ヲ交付シテ之ヲ手形ノ擔保  
ニ供シタル場合ニハ證券ヲ以テ設定シタル質權ニアラザルコトハ固ヨリ  
明カナルモ此ノ如キ場合ニハ尙民法上ノ質權トシテハ成立セザルモノト  
論定セザルベカラズ民法第三百四十四條質權ノ設定ハ債權者ニ其目的物  
ノ引渡ヲナスニ因テ其效力ヲ生ズトアリテ質權ニハ物ノ占有ヲ要素トナ  
スベキモノナレバ若シ其要素ヲ缺クトキハ質權ナル物權ノ成立セザル事  
ハ論ヲ俟タズ今讓渡裏書ヲ爲シタル證券ヲ交付シタルトキハ其寄託物ノ  
所有權ヲ移轉スルノ効力ヲ生ズル結果其占有モ證券所持人ニアルモノト  
スベキハ當然ノ筋合ナレバ讓渡ノ裏書ヲ爲シテ交付シタル以上ハ物ノ占

有ナシト云フコトヲ得ザルモノ、如シト雖ドモ其占有タル讓渡ニ依テ所  
有權ヲ取得シタル結果ニ外ナラザレバ若シ其讓渡裏書ニシテ當事者ハ眞  
意ニ出タルモノハ非ズトセバ當事者間ニ在テハ効力ヲ生ゼズ已ニ讓渡ハ  
効力ナシトセバ其占有ハ存在ヲ認ムベカラザルコトモ亦自然ノ結果ナリ  
ト謂ハザルベカラズ左レバ本件ノ如キ讓渡裏書ヲ爲シナガラ讓渡スルノ  
意思ナクシテ之ニ因リテ質權ヲ設定シタル場合ニハ其證券所持人タル控  
訴人ハ其寄託物ナル本訴物件ヲ占有スルモノト云フヲ得ザレバ民法上ノ  
質權トシテモ到底成立スベキモノニアラズ要スルニ控訴人ハ本訴物件ニ  
對シ質權ヲ有セザルニ依リ之ニ基ク本訴請求ハ採用スルコトヲ得ズ因テ  
主文ノ如ク判決ス

明治三十七年六月十八日

大阪控訴院民事第二部

(三) 一部出庫及ヒ辨濟期限後ノ利息取立ニ關スル取扱振

今日銀行業者ノ倉庫寄託貨物ニ對スル取扱即チ倉庫ト金融トノ關係ニ於テ最モ注目スヘキモノハ質權ノ設定シアル場合ニ於ケル一部出庫ノ手續及ヒ質權辨濟期限後ニ於ケル利息取立ノ方法はナリ、

質權ノ設定シアル寄託貨物ノ一部出庫カ複雑ナル問題ヲ生スルハ其質權カ倉庫證券ニヨリテ設定セラレタル場合ナリ即チ債務者寄託者又ハ預證券轉得者ガ擔保セラレタル債務ノ僅カニ一部分ヲ提供シ之レニヨリテ寄託貨物ノ一部ヲ出庫スル方法ニ付今日銀行業者間ニ於ケル取扱振リヲ見ルニ先キニ述ヘタルガ如ク銀行ガ金融ヲ爲スニ當リ擔保ノ爲メニ質入證券ノミヲ占有スル場合ト質入證券及ヒ預證券ノ雙方ヲ占有スル場合トアリ而シテ銀行ガ此二個ノ證券ヲ取得シ居ル時ハ先キニ述ヘタル保管證書ニヨル一部出庫ノ場合ト等シク出庫請求者ハ債務ノ一部分ヲ銀行ニ提供シ之レニヨリテ銀行ヨリ倉庫ニ對スル一部質權解除ニヨル一部出庫傳票ヲ受取り倉庫營業者ハ此傳票ニ從ツテ出庫スルヲ通常トス此場合ニ銀行

銀行カ預證券ト  
質入證券ト  
占有ノ一  
部出庫

ハ其占有セル證券ニ出庫部分ヲ必ス記入シ置カハ倉庫營業者ノ爲メニ安全ナルモ銀行ハ一々之レガ記入ヲ爲スノ勞ヲ取ルヤ否ヤハ倉庫營業者ノ爲メニ憂フベキ所ニシテ若シ萬ニ故意又ハ過失ニヨリ一部出庫ヲ爲シ乍相當ノ記入ヲナサスシテ銀行ガ其證券ヲ更ラニ他人ニ讓渡シタル場合(我商法ハ證券ノ輾轉スヘキコトヲ本來ノ性質トセルヲ以テ此問題ハ倉庫營業者ノ危憂スル處トナルヘシ)ニハ常ニ倉庫營業者ニ於テ其責任ヲ負ハサルヘカラサルニ至ルヘシ尤モ東京ニ於ケル各倉庫及銀行ノ取扱手續トシテハ倉庫證券ノ裏書移轉ヲ實際ニ程ント想像シ居ラサル結果トシテ倉庫ハ銀行ヲ信用シ一部出庫ノ場合ニ於テ其事項ヲ證券ニ記入セシムヘキコトニ關シテ特約シ居ラサルモ京阪地方ニ於テハ之ニ對シテ相當ノ方法ヲ設ケントシテ大阪ノ第一銀行支店等ニテハ倉庫ト銀行トノ間ニ豫メ特約書ヲ作り置キ一部出庫ヲ爲シタル場合ニハ預證券及ヒ質入證券ヲ銀行ヨリ倉庫ニ持參セシメ以テ倉庫營業者ヲシテ一部出庫ノ事實ヲ記入シ得ルノ

(一)一部出庫記  
入ノ爲メノ呈示

(一)一部出庫アリシトキニ禁流トナスノ例アリ

方法ヲ設ケタリ而シテ此記入ノ爲メニスル呈示ノ義務及ヒ若シ之ヲ呈示セサル場合ニハ之レガ爲メニ起リタル損害ノ賠償ヲ特約シ居レリ又神戸地方ニ於テハ倉庫ノ銀行ニ對スル勢力尙ホ一步ヲ進メ居ルガ爲メニ第一回ノ一部出庫アリシトキハ銀行ヲシテ直チニ倉庫證券ヲ持參セシメ此レニ禁流通ノ判ヲ押シテ證券ノ轉帳ヲ防グコトヲ特約シ居ルノ事例アリトス註(二)

銀行カ質入證券ノミヲ占有スル場合ノ一部出庫

此ノ如ク一部出庫ニ關スル取扱振リトシテハ倉庫ト銀行トノ間ニ於ケル特約ニ種々アレトモ第一回ノ一部出庫以後ハ直チニ證券ヲ禁流通ト爲スハ我商法ノ精神ヨリ云ハ、頗ル苛酷ナルカ如シト雖モ固ヨリ常ニ必ラスシモ之レヲ實行セスシテ萬一ノ場合ニ備フルモノトセハ敢テ不可ナカルベシ殊ニ此方法ガ同時ニ債務者ニ關スル對人信用ヲ利用シ得セシムルノ便宜アルコトハ後ニ第二章第四節ニ於テ述ブル處ナリトス、  
次ニ銀行ガ質入證券ノミヲ占有スル場合ニハ一部出庫ヲ求ムル寄託者又

寄託者カ直接ニ倉庫ニ來リテ一部出庫ヲ求ムル場合

ハ預證券ノ所持人ハ先ツ銀行ニ於テ一部出庫ノ指圖書ヲ得之レト其預證券トヲ倉庫ニ呈示シテ預證券ニ一部出庫ノ度毎ニ其旨ヲ記入スルノ外ニ既ニ前述シタルカ如ク銀行ヲシテ其占有セル質入證券ニ對シテ一部出庫ヲ記入セシムルノ例ト又質入證券ノ轉帳ヲ全ク禁止スルノ例トアリ而シテ此等ノ手續ニ關スル特約ハ先キニ銀行カ預證券及ヒ質入證券ノ雙方ヲ占有スル場合ニ關シテ述ヘタル處ト敢テ異ル所ナシ、  
此ニ又タ前述ノ如ク寄託者ハ先ツ銀行ニ對シテ一部出庫ニ關スル入金ヲ爲シテ一部出庫指圖書又ハ一部質權解除通知書ヲ請求シタル後更ラニ倉庫ニ赴クガ如キ無用ノ時間トヲ省カンガ爲メニ直接ニ倉庫ニ赴キ一部ノ入金ヲナシテ直チニ出庫スルノ便ナルヲ思フ而シテ此便宜ニ應スルガ爲メニ實際上倉庫ガ直接ニ其金ヲ受取リテ一部出庫ノ求メニ應シ居ルナリ註(三)而シテ法律上此場合ニ倉庫ガ一部出庫ニ關シテ直接ニ取扱ヒ得ルカ爲メニハ銀行ノ代理トシテ倉庫ト銀行トノ間ニ豫メ特約シ置クノ

必要アリヤ否ヤ又タ此直接ニ倉庫ニ對シテ寄託者ガ一部出庫ヲ求ムルハ  
債權ノ辨濟說ニヨルベキモノナリヤ或ハ供託トシテ見ルベキモノナリヤ  
ノ問題ハ後ニ第二章法律論ニ於テ之ヲ論スヘキヲ以テ此ニハ單ニ直接ニ  
倉庫カ出庫手續ヲナセル二三ノ事例ヲ示スニ止メントス、

註(二) 今大阪倉庫ノ取扱ヘル一部辨濟金取扱規定ヲ見ルニ左ノ如シ

第十條 質權者ガ一部出庫指圖書ヲ發行シタル場合ニハ占有スル證券ハ之ニ其一部出  
庫ニ對スル當會社ノ證印ヲ受ケサル間ハ之ヲ讓渡シ裏書又ハ質入スルコトヲ得ス  
質權者ガ前項ノ規定ニ違反シタルカ爲メ當會社ニ損害ヲ生シタル時ハ質權者ニ於テ  
其損害ヲ賠償スル責ニ任スベシ

又タ兵庫倉庫ノ質入貨物内出手續約定書ヲ見ルニ左ノ如シ

第二條 預證券ノ所持人ガ質入貨物ノ内出手續求スルトキハ銀行ハ内入金ヲ受取リ乙  
號書式ノ内渡請求書ヲ預證券ノ所持人ニ交付スベシ  
其第一回内出手場合ニ於テハ銀行ハ質入證券ヲ倉庫會社ニ送りテ之レニ裏書讓渡禁  
止ノ記入ヲ求ムベシ

第三條 預證券ノ所持人カ前條ノ内渡請求書ヲ倉庫會社ニ持參スルトキハ倉庫會社ハ

預證券ノ裏面内出記載ノ欄内ニ各事項ヲ記入セシメ前記ノ請求書ニ引合セテ貨物出  
庫ノ手續ヲナスヘシ其第一回内出手場合ニ於テ預證券ニ裏書讓渡シテ禁止スル旨ヲ  
記入スルモノトス

又タ住友倉庫カ一部出庫ニ關シ取引銀行トノ間ニ結ヒタル特約ヲ見ル  
ニ左ノ如シ

第一條 甲ガ其貸金ノ擔保トシテ乙發行ノ預證券及質入證券ヲ併セテ占有スル場合ニ  
於テ貸金ノ一部辨濟ニ依リ該證券記載ノ貨物ノ内出手要スル時ハ甲ハ寄託者又ハ其  
裏書讓受人ヲシテ證券ノ裏面ニ内出ヲ記載シ署名捺印セシメタル後別紙様式ノ内渡  
シ依頼書ヲ内出裏書人ニ交付シ之ト引換ニ乙ニ内出請求セシムベシ

第二條 甲ハ内渡依頼書ヲ發行シタルトキハ甲ハ内渡依頼書ニ記載セル番號ノ預證券  
及質入證券ヲ併セテ占有シ且ツ證券ノ裏書ニ寄託者又ハ裏書讓受人カ内出記載ヲナ  
シ署名捺印セルコトヲ乙ニ對シ保證スベシ

第三條 甲ハ内渡依頼書ヲ發行シタル後預證券及質入證券ヲ乙ニ呈示シ内出記載ニ  
ツキ乙ノ證印ヲ受クベシ

乙ヨリ前項ノ規定ト同一ノ目的ヲ以テ預證券及質入證券ノ呈示ヲ求メタルトキハ甲  
ハ直チニ之レカ呈示ヲナスベシ

直接ニ倉庫カ一  
部出庫ニ對スル  
内入金ヲ受領シ  
テ取扱フ事例

二四  
第四條 甲ハ第三條第一項ニ定メタル手續ヲ經タル後ニアラサレハ其所持セル預證券  
及質入證券ヲ第三者ニ轉付セサルベシ  
第五條 當事者ノ一方が其義務ノ履行ヲ怠リタルタメ生シタル損害ハ他ノ一方ニ對シ  
之ヲ賠償スル責ニ任スルモノトス

註三) 次キニ倉庫ガ質權ノ設定シアル貨物ニ對シテ直接ニ内入金ヲ受  
取リテ出庫ヲナスノ例ニ付テ見ルニ商業倉庫ガ川崎銀行第百銀行十五  
銀行等トノ間ニ爲ス特約ニ於テ直接ニ寄託者ガ倉庫ニ來リテ質入貨物  
ノ内出ヲナス條項ハ左ノ如シ

第參 倉庫ハ債務者ヨリ寄託物ノ一部又ハ全部引出ノ要求ヲ受ケタル時ハ銀行ノ質權  
設定通知書ニ基キ相當ノ金額ヲ受取り貨物出庫ノ手續ヲ爲スベシ云々

又タ大阪倉庫ガ一部辨濟金取扱規定ヲ以テ直接ニ寄託者カ倉庫ニ來リ  
テ質入貨物ノ内出ヲナス條項ハ左ノ如シ

第二條 預證券ノ所持人が質權設定後證券ト共ニ當會社カ相當ト認メタル債權ノ一部  
辨濟金ヲ當會社ニ提供シテ寄託物ノ一部出庫ヲ求メラレタルトキハ債權ノ辨濟期前

ト雖モ當會社ハ預證券ハ出庫關内ニ其金額ヲ記入シ證印ハ上其一部ノ寄託物ヲ返還  
スベシ

前項ノ辨濟金ハ當會社質權者ニ代リ受入レタルモノニ付債務者ハ當會社カ之ヲ受入  
レタルトキニ於テ當然質權者ニ對スル辨濟ヲ了リタルモノトス

此ニ辨濟期限後ニ於ケル損害利息ノ取立ニ關シテ一言センニ倉庫證券ノ  
我國現時ニ於ケル狀況トシテハ質權設定以後寄託者ハ假ヒ預證券ヲ占有  
シタリトスルモ其證券ヲ他ニ轉帳スルガ如キコト程ント之レナルヘク  
又タ保管期間ヲ經過ズルモ所持人トシテ直チニ倉庫證券ノ書替ヲ請求ス  
ルモノヲ見サルナリ勿論多クノ倉庫會社ノ規定トシテハ皆保管期間經過  
後ニ證券更新ノ手續ヲ踏マズシテ出庫セザルトキハ二倍ノ保管料ヲ申受  
ケ且場合ニヨリ商法第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ處分スルコトアルベシ  
等ノ規定ヲ設クルモ此唯タ萬一ノ場合ニ備フルノミニシテ未嘗テ此主旨  
ヲ屬行シタルノ事例ハ余ノ聞カサル處ナリ蓋質權設定以後預證券ノ裏書

預證券及質入  
證券銀行ニ交付  
スルハ根拠當主  
義ニシテ辨濟期  
限後セル損害利  
息ヲ取立ツルニ  
便ナリトス

轉帳セサルハ若其證券ヲ他ニ轉帳セハ寄託者又ハ預證券所持人ハ一方ニ營業上ノ秘密ナル利息ノ割合其他價格等ヲ他人ニ知ラル、ノ不利益アルノミナラズ銀行トシテハ單ニ質入證券上ノ權利ニ依頼スヘキヲ以テ期限後ハ約定利率ヲ請求シ得サルヲ恐レテ期限ヲ勵行スルニ至ルベキヲ以テ商品ノ如キ時期ニヨリテ價格ノ變動著ルシキモノハ其價值ヲ失フニ至ルベク從ツテ又タ預證券ノ讓渡ハ獨リ銀行ノ悅ハサルノミナラス割合ニ所持人トシテモ悅ハシカラサルベシ故ニ寄託者トシテモ自己ノ利益上預證券ヲ質權設定後ニ於テ讓渡スルガ如キコトヲ爲ササルノミナラズ之ヲモ質權者ニ交付シテ質權辨濟期限經過後ニモ尙ホ約定利息ヲ取立ツルヲ得セシメ以テ質權者ヲ務メテ満足セシメナルベク多クノ金融ヲ求ムルニ如カストナス所以ナリ又倉庫トシテモ實際ノ取扱上一々保管期限ニ至リテ證券ヲ更新スルハ頗ル手數ヲ勞スル處ニシテ區々タル書替料ノ如キハ寧ロ喜バザル處ナルノミナラズ銀行ノ債權ヲナルベク害セサル方針ニ出テ

倉庫證券ノ更新  
ハ實際ニ於テ行  
ヒ居ラズ

今日預證券ノ轉帳ナキ現況ノ下ニ於テハ保管期限後ト雖モ其儘證券ヲ更新セズシテ使用セル次第ナリ然ルニ若シ寄託者ニシテ預證券ヲ分離シテ轉帳センカ必ラズ倉庫業者ハ此二倍ノ保管料ノ取立ヲ勵行スルニ至ルベシ、  
如此ニシテ債權者タル銀行ニ預證券及ビ質入證券ヲ交付シ別ニ特約證券差入レテ金融ヲ求ムルコトハ約束手形タル主債務ノ爲メニ根抵當トシテ倉庫證券ヲ交付シ且擔保差入證券ヲ以テ辨濟期限後ノ損害利息ヲモ豫定スルモノニシテ保管證書ヲ用ユル場合ト等シク二枚證券トシテノ倉庫證券本來ノ作用ヲ過半ハ沒却セルモノト云フベシ然レトモ余ハ之ヲ以テ金融上倉庫證券ヲ二枚證券本來ノ主旨ニ從ツテ活用スルニ優リタル方法ト信ズルコトハ後ニ本書第二章第二節同第四節及ビ第四章ニ於テ論ゼント欲ス、

## 第二章 倉庫貨物ニ對スル金融狀態ヲ 我法律上ヨリ觀察ス

既ニ第一章ニ於テ我國ニ於ケル普通倉庫貨物ニ對スル金融ノ現況ヲ述ベタルガ如ク保管證書ニヨリテ金融ヲ爲ス場合ト倉庫證券ニヨリテ金融ヲ爲ス場合トアリ從ツテ之レニ對スル法律上ノ觀察ハ又タ自ラ差異セザルヲ得ズ而シテ又タ預證券ニ裏書ヲ禁止シテ發行スルコトハ我商法第三百六十四條ニ於テ認メラル、處ナルヲ以テ禁流通預證券ナル形式ハ商法上倉庫證券タル性質ヲ失ハシムルモノニ非ラザルモ今日行ハル、禁流通預證券ハ質入證券ト相伴ハシメザル精神ニ出テタルヲ以テ我商法ニ所謂倉庫證券ニアラズシテ此場合ハ保管證書ニ關スル法律論ノ内ニ包含セラルベキモノナリト信ズ、

蓋シ如此禁流通預證券ノ今日多數ニ行ハル、所以ハ我商法實施以前ヨリ

施行セラル、保税倉庫法ガ倉庫證券ノ一枚證券制度ヲ採用シタルニヨルモノニシテ二枚證券制度ヲ採用セル我商法ノ下ニ支配セラルベキ普通倉庫ノ取扱ニ於テモ當業者ハ尙ホ一枚證券制度ノ便宜ヲ忘レサルニ因レルナリ、



### 第一節 保管證書ニヨル金融狀態ヲ論ス

既ニ述ベタルガ如ク保管證書ヲ發行スルトキニ其寄託者名義ヲ或ハ寄託主自身トナス場合或ハ銀行ヲ直接ニ名義人トナス場合トノ二種アレトモ其何レタルヲ問ハス倉庫證券ニヨリテ寄託物ノ所有權ヲ轉帳シ得ルモノニ比シテ對物信用ノ範圍ヲ其債權額ニ制限セラレザルノ便宜ト質權貨物ノ一部出庫ノ便宜トニ考量シテ保管證書ニヨル取扱振ハ今日ニ於テモ尙ホ廣ク實際上ニ行ハレ居ルモ若シ寄託者本人名義ノ保管證書ニテハ債權者ノ爲メニハ全ク何等物權上ノ效力ヲ生セス唯債務者ニ對シテ事實上ノ留置權アルノミナリ又タ銀行ヲ以テ直接ニ保管證書ノ寄託者名義トナス金融方法ハ所謂貨物ノ無條件交付ニシテ或ハ荷主ガ銀行ヲ信ジテ此形式ヲ承認スルモノト謂ハ、表面上ノ理山ハ辯解シ得ルモ法律上ヨリ言ハ、荷主ハ銀行ノ爲メニ奴隸扱ヒニセラル、モノタルノミナラズ元來當事者

保管證書ニヨル  
金融ノ不便

間ノ意思ニ於テモ銀行自身ノ占有物ト信シタルノミニシテ根抵當ニ差入レタルモノナリ故ニ其貨物ノ處分權者トシテ銀行ガ其貨物ヲ處分センニハ特ニ契約本證ヲ以テ流質契約ナルコトヲ證明セサルベカラズ又タ銀行ガ有價證券ニ非ラサル有體動産ノ占有ヲ自カラ取得シテ根抵當トナスハ倉庫證券制度ノ認めラル、今日ニ於テハ頗ル變則ノコトニシテ裁判所ハ或ハ第三者保護ノ爲メニ如此キ取引ハ單ニ保管證書ナル紙片ヲ留置スルコトヲ目的トシタルモノト見ルコトナシトセズ從ツテ銀行ノ爲メニモ萬全ノ策ニアラザルベシ現ニ余ガ訴訟トシテ取扱ヒタル荷爲替運送事件ニ於テ裁判所ハ我商法ノ精神ハ銀行ガ貨物引換證ヲ以テ金融ヲナスモノニシテ銀行自身ガ貨物ヲ取得シテ後チ運送ヲ託スルモノニ非ラズトノ普通ノ狀態ヲ以テ豫斷ヲ抱クガ故ニ銀行ガ一旦貨物ヲ占取シ自カラ運送契約ヲ結ビ荷送人トナルコトノ事例ヲ法廷ニテ説明シタルモ裁判所ハ容易ニ此事實ヲ信ゼサリシコトアリシハ當業者ニ於テモ豫ジメ注意スベキ必要

アリトス、

加之保管證書ニヨル金融ハ或ル場合ニ於テハ銀行業者ニ對シテ不利益ヲ與フルコトアルベシ若シ預證券若クハ質入證券ヲ以テセバ法律ノ規定ニヨリ物權的效力ヲ取得シ得ルガ故ニ其證券記載ノ文言ヲ信シテ倉庫ニ對抗スルヲ得レトモ商法ノ所謂倉庫證券ニ非ラザル保管證書ヲ取得シタル債權者ハ單ニ債權的效力ヲ得ルニ過キズ即チ實際ノ事實ニ遡リテ其權利ヲ取得スルニ止マレリ嘗テ或ル荷主カ橫濱正金銀行ニ羅紗ヲ以テ金融ヲ求メタリシガ正金銀行ハ例ノ如ク銀行ノ寄託者名義ヲ以テ橫濱ノ中央倉庫ノ發行シタル保管證書ヲ所持シタルガ期限ヲ過キ辨濟ナキヲ以テ正金銀行ハ中央倉庫ニ對シ保管證書ニ記載セル品目通りノ貨物ノ引渡ヲ請求シタリ然ルニ其寄託貨物ハ初メヨリヅツクニシテ羅紗ニアラサリシカハ羅紗ノ引渡ニ應スルヲ得ストノ争ヒ起リ荷主本人ニ寄託貨物ノ品目ヲ尋ネタルニ荷主ハ金融ニ窮シタルヲ以テヅツクヲ羅紗トシテ預ケタルナリ

ト云ヘリ此場合ニ若シ倉庫證券ナル物權的效力ヲ有スル證券ヲ銀行ニ於テ取得セシモノナラバ假令其實際ノ寄託貨物ノ如何ニ關セス倉庫ハ證券面ノ記載ニ基キテ引渡ニ應スベキ義務アレトモ保管證書ニテハ物權的效力ヲ有セサルヲ以テ假令其證書ノ寄託カ羅紗トアルモ之レガ爲メニ羅紗ヲ引渡スベキ義務ヲ生セス唯故意若クハ過失ヲ以テ誤記ヲナシタル立證アリシ場合ニ限り損害賠償ノ責任アルノミナリト信ス之レ亦タ物權的效力ヲ有セサル保管證書ノ不便ナル處ト考フ(第六章五參照)要之銀行業者ト雖トモ單ニ保管證書ニノミ依ルヲ得サルベク殊ニ將來ニ於テ一方ニ荷主ノ銀行ニ對スル勢力ヲ増進スルト同時ニ又タ倉庫證券ハ寄託物ニ對スル倉庫業者ノ保證證書タル價值ヲ認メ預證券ヲ信用シテ直チニ賣買讓渡ヲ爲スノ便ヲ確信スルニ至ラバ倉庫證券ニヨル取扱振ハ保管證書ノ取扱振ヲ排除スルニ至ルヲ斷言シ得ベシト信ス、

### 第二節 倉庫證券ニヨル金融状態ヲ論ス

(一) 預證券及ビ質入證券ヲ銀行ガ占有スルコトニ關スル法律上ノ觀察、  
 既ニ前章第二節ニ述ベタルガ如ク今日多數ノ銀行ニ於テハ質權設定ノ爲  
 メニ預證券及質入證券ノ雙方ヲ占有スレトモ此取扱振ハ現行法ノ上ヨリ  
 觀レハ頗ル過酷ニシテ恰モ高利貸ガ二重ノ證文ヲ取ルト同一ナルガ如キ  
 觀アリテ法律ノ精神ヲ無視シ只徒ニ債權者ノ安心ヲ求メントスルモノナ  
 レトモ此ノ如キ法律ノ想像セザル取扱振リハ之ヲ慣習ナリトシテ其存在  
 ヲ裁判官ニ對シテ認メシムルコト難キノミナラズ反ツテ裁判官ニ對シテ  
 心證ヲ害スル所以ニシテ意外ノ不利益ヲ蒙ルコトナシトセズ既ニ前章ニ  
 於テ述ベタルガ如ク明治三十七年大阪控訴院ニ於ケル倉庫證券ニ關スル  
 判決ニ於テ質權事項ノ記入ナキヲ以テ債權者ハ質入證券ノ正當ナル所持  
 人ト云フヲ得ヌ又預證券ノ裏書取得者ニモアラズ從ツテ所有權讓渡トナ

質權設定ノ爲メ  
 ニ單純ニ預證券  
 ヲ取得スルハ何  
 テノ意義ナモ有  
 セサルベシ

ラサルヲ以テ適法ニ占有ヲ得タルモノニアラズシテ民法上ノ質權モ成立  
 セストノ判決理由ナリシガ固ヨリ此判決ハ不完全ナラント考フルモ之レ  
 一方ニ於テ商慣習ノ立證足ラサルト同時ニ法律カ普通ニ想像シタル状態  
 ヲ無視スルノ結果或ハ意外ナル判決ヲ受クルコトアルハ亦タ已ムヲ得ザ  
 ル次第ナリト云フベシ(註一、參照)但質權設定ノ爲メニ裏書アル預證券ヲモ  
 交付スルハ商慣習上流質ノ特約ナリト立證シ得レバ法律上或ハ有效ナラ  
 シモ然シ斯如ク質權者ニ於テ質權設定ノ爲メニ預證券ヲモ取得スルコト  
 ハ我法律ガ二枚證券制度ヲ認メテ質入ト所有權移轉トヲ特ニ區別シタル  
 精神ヨリ見テ單純ナル預證券ノ交付ヲ直チニ流質特約ナリトハ裁判官ニ  
 於テモ容易ニ認メ難キ處ナリト信ス、

註今マ羅馬法ニ於ケル質權制度ノ發達ヲ見ルニ昔時ニ於テハ「アイトウシア」ナル質權法

ヲ以テ貨物ノ所有權ヲ債務者ヨリ離シテ直ニ債權者ニ移シ(唯債權ノ辨濟ニヨリテ取  
 戻スコトヲ得ルナリ)外面上所有權移轉ノ形式ヲ以テ質權ヲ設定シタルガ其後羅馬ノ  
 盛時ニ至リテ「パケヌ」トテ今日普通ノ質權方法發達セリ又々近世歐洲大陸立法ノ模

範トナリシ佛國法ニテハ流質ヲ禁シタルガ然シ英國及ヒ其法律系統ニ屬スル各國ニ於テハ現時ニテモ此ノイデオロギヲ以テ質權ノ一方法トナシ居レル事實アリ故ニ單純ナル預證券ノ裏書交付ヲ以テ一概ニ之ヲ適法ナル質權方法ニアラズトシテ法律上排斥スベカラズト雖モ當事者ニ於テ如此實權方法ヲ以テ流質ニ關スル商慣習ナリトシテ立證セサル限リハ其成立ヲ主張シ難シト信ス殊ニ我法律ハ商行為ニ付テモ流質ヲ本則トシテ認メタルニ非サルヲ以テ單純ナル預證券ノ裏書交付ハ流質ト等シキ所有權ノ處分ナトラサルヘク別ニ特約證ノ契約ヲ待ツテ初メテ流質タルコトヲ立證シ得ルモノト信ス

(二) 質入證券ノミヲ銀行ガ占有スルコトニ關スル法律上ノ觀察

次ニ銀行カ質入證券一枚ノミヲ取得シテ金融ヲ爲スハ我商法ノ本來ノ主旨ナレトモ併シ我商法ノ規定ハ頗ル不便ニシテ先ツ預證券ノ所持人カ支拂ヲ爲サ、ルトキハ競賣ヲ申立テ、之ヲ取立テサルヘカラス而シテ競賣ノ申立ヲナスニハ拒絕證書ヲ滿期日又ハ其後二日內ニ作成セサルヘカラス又タ競賣代金ニテ不足額アルトキニ償還請求權ヲ行使センニハ其拒絕證書作成ノ日ヨリ二週間內ニ競賣ヲ請求セサル可カラズ殊ニ我商法ハ此

償還請求權ヲ行使スルニハ一定ノ期日內ニ競賣ヲ申立テサルヘカラス

倉庫證券ニ對シテ手形ノ拒絕證書作成ヲ準用シタルハ不當ナリ

達執行ヲシテ倉庫貨物ヲ競賣セシムルハ不便ナリ

拒絕證書ノ作成ニ付テハ手形ニ關スル規定ヲ準用セルヲ以テ(商法第三百六十八條)證券面ニ記載シアル總テノ内容ヲ執達吏或ハ公證人ヲシテ書カシメザルベカラス(商法第五百十五條)然ルニ倉庫證券ハ手形ト異ナリ其内容即チ證券面ニ記載セラレタル事項頗ル多クシテ手形ノ如キ振出地振出人支拂地及ビ金額ノミナル簡單ノ文言ニ止マラズシテ到底手形ノ拒絕書ヲ作成スルトハ同一ノ勞ニアラサルノミナラズ然カモ倉庫證券ニ於テハ通常各品各品質ニ付一通宛ヲ作成スルヲ以テ一時ニ幾十枚モ拒絕證書ヲ作成スル必要起リテ今日ノ活潑ナル取引ニ應スルコトヲ得ザルハ恐ラク商法起草者ノ豫想セサリシ處ナラント信ズ次ニ又タ競賣法ニヨリ競賣セシムルトキハ其價格ヲ頗ル減少スベキヲ以テ債權者ハ勿論債務者モ不利益ヲ蒙ルニ至ルベシ故ニ拒絕證書作成ノ不便ト一定ノ期日內ニ於ケル競賣ノ不利益トニ關シ頗ル不便アルヲ以テ我商法ノ規定ハ銀行業者ノ悅ハザル處ニシテ從ツテ又タ債務者ノ苦痛ヲ感ズル所ナリ、

而シテ拒絕證書作成ナル觀念ハ既ニ手形ニ關スル法理論トシテモ其要不要ヲ論スル學者アル處ニシテ之レヲ倉庫證券ノ場合ニ準用セシメタルハ空ク机上ノ空論ナルノミナラス商品ハ其價額ニ付時ニヨリテ高低アルヲ以テ手形ノ如キ一定ノ金額ヲ目的トスルモノト同一視スヘカラサルナリ又普通競賣ノ不利益ナルコトハ敢テ論スルヲ待タサルモ此點ハ後ニ論スル處ノ流質ハ有效ナリトノ問題ニヨリテ其一半ヲ除却シ得ヘク殊ニ近々倉庫業者ノ建議ヲ容レテ政府ニ於テモ法律ヲ改正シ倉庫業者ヲシテ特別ニ委託競賣ヲ取扱ハシムルノ制度ヲ採ラントスルモノアルヲ以テ此ニハ唯々我國現時ノ競賣制度ナル執達吏ノ手ヲ經由スベキ競賣ハ實際ニ於テ荷主ノ爲メニ又々直接ニ銀行業者ノ爲メニ不利益ナル制度タルコトヲ斷言スルニ止ムベシ、

(三) 預證券及質入證券ノ活働

要之我銀行商法ノ精神ノ如ク銀行カ質入證券ノミヲ占有シテ金融ヲ與フ

ルハ固ヨリ不可ナリシトスルモ現行倉庫法規定中拒絕證書作製ノ制度ヲ廢止シ又々倉庫業者ヲシテ汎ク競賣ヲ取扱ハシメ尙ホ本書第三章第一節ニ論スルカ如ク倉庫證券ニ流質文言ヲ記入スルニ至ラハ最モ完全ニ近カルヘシト信スルノミナラス將來ニ於テ一般ニ商人預證券ノ取扱ニ馴ル、ニ至ラハ之ヲ以テ貨物ニ對スル倉庫業者ノ保證アルモノトシテ益々商業社會ニ重視セララル、ニ至ルヘキヲ確信スル處ナリ而シテ預證券ノ記載事項ニヨル保證ハ我商法第三百六十二條ノ結果トシテ絶對ノ效力ヲ有スルモノニシテ例ヒ故意ハ勿論過失ナシトテ倉庫業者ハ其責ヲ免カル、ヲ得サルカ故ニ商業取引ニ於テハ頗ル便益ヲ與フルモノト信ス、

### 第三節 一部出庫ニ關スル金融狀態

ヲ論ズ

(一部出庫ニ關スル辨濟說及ヒ供託說)

前章ニ於テ述ヘタルカ如ク一部出庫ノ問題ハ倉庫ニ於ケル取扱トシテハ實際ニ於テ最も重要ナル問題ヲ惹起スノミナラス我商法ノ規定トシテハ全ク明文ヲ缺ケルヲ以テ疑問ノ生スル處ナリ故ニ特ニ節ヲ設ケテ此ニ之ヲ論セント欲ス

先ツ我商法ノ精神トシテ質權設定以後ニ倉庫證券ヲ其儘更新セズシテ一部出庫ヲナシ得ルコトヲ汎ク認メタルモノナルヤ否ヤハ疑問タルベシ即チ我商法第三百七十七條但書ニヨレハ一部出庫云々トノ文字アレトモ余ノ考フル處ヲ以テスレハ我商法ニ於ケル一部出庫ナルモノハ單ニ商法第三百六十一條ニ規定セル預證券及ビ質入證券ノ雙方ヲ所持セル貨物所有者ガ倉庫業

質權設定後ニ於テハ一部出庫ハ我商法ノ初メヨリ豫想シタルモノニ非ラス

者ニ對シ寄託物ヲ分割シテ出庫請求ヲナス場合カ若ハ初メヨリ倉庫證券ノ發行ナク從テ未タ質權ノ設定ナキ貨物ヲ一部出庫スル場合カノ何レカニ該當スル者ニ過キスト信ス即チ今日一部出庫トシテノ實際取扱手續ナル質入證券ノ裏書交付以後ニ於テ倉庫證券記載貨物ノ一部ヲ出庫シテ其儘其旨ヲ證券裏面ニ記載シ居ルカ如キ取扱ハ商法ノ想像セザリシモノト信ス何ントナレハ一旦倉庫證券ヲ發行シテ其證券ニ一部出庫ヲ記入スルノミヲ以テ出庫シ得ベシトセバ少クトモ商法第三百六十條及第三百七十一條等カ倉庫業者ノ商業帳簿ニ其移動其他ノ記入ヲ命セラレハ首尾一貫セサルナリ即チ我商法ハ證券ノ發行(第三百六十條及ヒ再發行第三百六十六條)ニ付テノミ倉庫業者ヲシテ特ニ記載スルノ責任アラシメ乍ラ其以外ニハ寄託貨物ノ移動ヲ明カニセサルモ可ナリトセルニ對シテ考フルモ倉庫業者ノ帳簿上一部出庫ノ關係ヲ明確ニセントスル精神ナキヲ知り得レハナリ、

註ニサツク氏獨逸新商法論ニ左ノ一節アリ

讓渡及ビ質入ハ常ニ倉庫證券ノ關スル倉庫品全體ニカ、ル若シ寄託者ガ只一部ノ讓渡又ハ一部ノ質入レヲ爲サント欲スルトキハ倉庫持主ニ倉庫證券ヲ返還シ貨物ノ其部分ニ關スル別證書ヲ交付セシムベシ而シテ倉庫持主ガ之レヲナスト否トハ勿論其任意タリ

我商法ノ下ニ於テモ一部出庫ヲ得ヘシ

然リト雖モ質入證券ニヨリテ質權ヲ設定シタル以後ニ於ケル一部出庫ハ假令我商法起草者ガ想像シタル本來ノ主旨ニアラサルヲ以テ之ニ關スル規定ヲ缺ケルモ法律上差支ナキ限リハ實際ノ便宜ニ從ヒテ之レヲ行フハ毫モ差支ヘナキ處ナリト信ス、  
借テ余ガ前ニ述ベタルガ如キ狀態ヲ以テ銀行ハ倉庫證券ニ對シテ質權者トシテ金融ヲ與ヘ其質權設定以後ニ於テモ貨物ノ一部出庫ヲナシ居ル取扱振ニ於テ銀行ト倉庫トノ間ニ特約ヲ設ケテ其一部出庫ヲ證券ニ記入スルモノトセハ寄託者又ハ預證券ノ所持人カ質權者タル銀行ノ一部質權解除通知書又ハ一部出庫指圖書ヲ持參シ來ラハ之カ出庫ヲナスハ固ヨリ差

一部出庫ハ辨濟カラス

支ナキコトナルガ此ニ直接ニ債權額一部金額ヲ以テ倉庫ニ來リテ出庫ヲ求ムルモノニ對シテ各倉庫ノ採レル方針ニ供託説ト辨濟説トノ二派アリ即チ一部ノ個數ニ相當スル金額ヲ供託セハ出庫ノ請求ヲ爲シ得ルトノ説ト又相當金額ヲ供託スルモ出庫請求ヲ爲シ得スシテ單ニ債權者ノ承諾ニヨル辨濟ヲ以テスルノ外ナシトノ説是ナリ而シテ今日多數ノ倉庫業者ノ預證券及ビ質入證券ヲ見ルニ供託説ヲ採ルモノ多キガ如キモ余ハ供託説ヲ誤ナリト信ズ何トナレハ供託ナルコトハ法律カ過失ナキ債務者ニ責任ヲ免カレシムル方法トシテ特ニ規定シタルモノニシテ假令商法第三百八十條ニ全部ノ金額ニ對シテハ供託ナルコトヲ認メアルモ之レヲ以テ一部出庫ノ爲メニスル一部ノ金額ノ供託ヲ爲シ得ルモノト類推スルハ誤解ナリ特別ノ規定ナケレバ民法ニ規定セサル債務ノ消滅方法ヲ行フコトヲ得サルノミナラス元來質權ノ目的物ハ債權全額ニ付テノ擔保物ニシテ法律上不可分ナリ故ニ倉庫業者ガ猥リニ質權者ノ承諾ナクシテ又ハ承諾ヲ豫

想シテ質權ノ目的物ヲ處分スルハ不法ナリト信ス、

又タ商法第三百六十六條ニハ倉庫證券滅失ノ場合ニ關シ特例トシテ相當ノ擔保ヲ供スレバ更ニ其證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得トアリテ此場合ニハ同一貨物ニ對シテ二枚ノ物權的證券ガ同一ノ性質ヲ有スルニ至ルベキコトアリ得ルヲ理由トシテ倉庫貨物ニ對シテハ當事者ニ損害ヲ與ヘサル限リハ立法上之ヲ認容スヘキモノナリト主張スルモノアラシム之レ滅失ノ如キ特別ノ場合ニ制限シタル例外規定ニシテ之レヲ漫リニ擴張類推セントスルハ徒ラニ目前ノ便宜論ヲ主張スルニ過キザルナリ、  
尙ホ實際上ノ取扱ヲ見ルニ相當ノ金額ヲ供託セハ相當ノ内出ヲ爲シ得ル旨ヲ豫メ倉庫證券ニ記載シ置クモノ少ナカラズ此場合ニ於テ質入證券ノ所持人タル銀行ハ此記載ヲ知レルモノナルヲ以テ之レニ對抗スルヲ得ベシト主張スルモノアラシム然シ乍ラ之ヲ實際上ヨリ見ルニ相當ナル供託金ナルヤ否ヤヲ倉庫ニ判定セシムルハ債權者ニ對シテ危險ノ恐レアルベ

シ又タ個數ニ付テハ免ニ角同個數ノ内ニテモ良品ノミヲ出庫シテ劣等品ヲ殘スノ恐レアルガ故ニ債權者ニ採リテハ危險アルノミナラズ若シ質權ノ目的ノ一部分ヲ金錢ニ換ヘシ場合ニ其換ヘラレタル金錢ニ對シテモ尙ホ債權者ハ先取特權ヲ有セサレバ質權者ノ爲メニ危險アルベシ然ルニ先取特權ハ物權ニシテ法律ノ明文ヲ待タザレバ設定スルコトヲ得ザルヲ以テ債權者トシテハ質權ノ擔保物ガ換リタル金錢ニ對シテ當然ニ先取特權ヲ主張スルコトヲ得ス(民法第三百四條參照)之レ同條ニ所謂拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲シタルモノト云フヲ得サレバナリ故ニ余ハ公ノ秩序ヨリ見テ又タ當事者ノ意思ヨリ見テモ質權者ニ對シテ是等ノ危險ヲ與フベキ一部供託ナルコトヲ他ニ何等ノ特約ナキニ係ハラズ倉庫業者ニ證券記載事項當然ノ結果トシテ取扱ヒ得ル權限アリト云フヲ得スト信ズ特ニ倉庫業者トシテハ德義上如此キ專横ナル處置ヲナスベカラザルハ云フ迄モナキコトナリ以上ノ如キ理論上ノ不能ト實際上ノ不便トアルヲ以テ一部供託



說ハ到底之ヲ採用スルヲ得ス唯一部辨濟說即チ債權者タル銀行ト債務者タル寄託者又ハ預證券ノ轉得者トノ間ニ辨濟ヲ爲シテ一部出庫ヲ爲スノ外ナカルベシ

一部出庫ニ關シテ供託主義ヲ採ルル事例

註四、今大阪住友倉庫ガ銀行トノ間ニ爲ス特約ヲ見ルニ供託主義ヲ採用セリ即チ

大阪住友倉庫發行預證券ノ所持人供託金ヲナシテ寄託物ノ一部又ハ全部ノ返還ヲ請求スルコトニ關シ某銀行ト大坂住友倉庫トノ間ニ左ノ事項ヲ約定ス  
一 銀行ガ倉庫發行預證券ノ第一質權者タル場合ニ於テハ預證券所持人ヨリ寄託物ノ一部又ハ全部ノ返還ヲ請求スル際倉庫ノ受入ルベキ供託金ハ倉庫ヨリ全部銀行ニ別段預金トシテ預入ルモトス  
但便宜ノタメ預證券所持人チシテ直チニ銀行ニ持參セシメ預入レハ手續ヲ爲サシムルコトヲ得

二 前項但書ニヨリ預證券所持人供託金ヲ銀行ニ預入レタルトキハ銀行ハ別紙書式ノ供託金受入通知書ヲ預證券所持人ニ交付シテ倉庫ニ持參セシメ出庫ノ手續ヲナサシムルモノトス但預證券所持人ノ供託トシテ預ケ入ルヘキ金額ハ一部出庫ノ場合ニ於テ

ハ寄託物全個數ノ債權額ニ對スル平均率ニ依リ申出個數ニ相當スル金額ヨリ少キコトヲ得サルモノトス

三 以下略ス

又夕橫濱中央倉庫ノ倉庫證券モ供託主義ヲ採用セリ

五寄託物ノ一部ヲ受取ラント欲スル人ハ預證券買入證券面ノ内受取欄内ニ掲載シタル要件ヲ記入調印ノ上當會社ノ認印ヲ得テ寄託物返還ヲ受クルコトヲ得ベシ但買入證券ハ買入ノ爲メ第三者ノ手ニアリテ内受取記入ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テハ其個數ニ應ジ全部ノ平均率以上ニ相當スル元利金ヲ當會社ニ供託スベシ

又夕神戸棧橋倉庫ノ證券ニモ特約ヲ要セザルコトヲ明示セリ

一 預證券所持人ハ買入證券ニ記載シタル債務ノ辨濟期前ト雖モ相當ノ供託金ヲナストキハ寄託物ノ全部又ハ一部ノ出庫ヲ爲スコトヲ得ベシ

二 第一質權者ニ於テ前項ノ出庫ヲ禁セントスル場合ニハ其旨ヲ兩證券ノ裏面ニ記載スベシ

又夕神戸ノ兵庫倉庫ノ倉庫證券モ供託主義ヲ採用セリ

三 預證券ノ所持人ハ買入證券ニ記載シタル債權ノ辨濟期前ト雖モ相當ノ供託金ヲナス時ハ寄託物ノ全部又ハ一部ノ出庫ヲナスコトヲ得ベシ但シ質權者ニ於テ一部出庫ヲ

禁スル場合ニ於テハ豫テ證券裏面ニ内出ヲ禁スル旨ヲ記載スベシ  
又タ其文字ノ用例漠然タル處アレトモ東京ノ商業倉庫ノ倉庫證券モ供  
託主義ヲ採レルモノト云フヘシ

四預證券所持人ニ於テ寄託物ノ一部ヲ内出セントスルトキハ其割合ニ應スル保管料立  
換金並ニ費用ヲ支拂ヒ預證券及ビ質入證券裏面ノ内受取欄内ニ掲載シタル要件ヲ記  
入シテ調印シ當會社之認印ヲ得テ寄託物ノ引渡ヲ受クルヲ得ヘシ

又タ杉村倉庫ノ倉庫證券モ供託主義ヲ採用セリ

五預證券所持人ハ質權設定後證券ニ記載シタル辨濟期前ト雖モ當倉庫ニ相當ノ金額ヲ  
供託シ寄託物ノ全部又ハ一部ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

註(五) 濫倉庫ノ倉庫證券ニハ倉庫ハ銀行ノ代理人トシテ一部辨濟ヲ承  
認スルノ主旨ヲ現ハセリ

七寄託物ニ對シテハ質權ヲ有スルモノト當倉庫部トノ特約ニ因リ當倉庫部カ質權ノ取  
立委任ヲ承諾シタル場合ニ債務者が當倉庫部ニ對シ債務ノ一部又ハ全部ノ辨濟ヲ爲  
ストキハ其質權ノ目的タル寄託物ノ一部又ハ全部ノ出庫ヲ請求スルコトヲ得

又タ大阪倉庫ノ倉庫證券モ辨濟説ヲ採用セリ

一部出庫ニ關シ  
テ辨濟説ヲ採  
ル事例

一部出庫ニ關ス  
ル辨濟説ノ取扱  
手續

五當會社ハ質權者ト特約アル場合ニ限リ預證券所持人カ質權設定後預證券ト共ニ當會  
社カ相當ト認ムル一部辨濟金ヲ提供シ又ハ質權者ノ指圖書ヲ持參シ寄託物ノ一部出  
庫ヲ求めラルルトキハ質權ノ辨濟期前ト雖モ當會社ハ寄託物ノ一部返還ヲ爲スベシ  
前項ノ一部辨濟金ハ當會社ニ於テ質權者ニ代リ辨濟トシテ受取リタルモノナレハ質  
入證券ト引換ニ其所持人ニ交付スベシ

此一部辨濟ニ關シテハ倉庫營業者カ銀行即債權者ノ代理人トシテ幾干ノ  
内金ニ對シテ幾干ノ一部出庫即チ担保物拋棄ヲ爲シテ可ナルヤヲ承認シ  
得ルノ權限ヲ特約シ置クヲ債務者即チ貨物所有者ノ爲メニ便宜ナリトス  
即チ銀行ガ倉庫業者ヲ信シテ豫シメ之レト總括的契約ヲ以テ此認定ヲナ  
シ得ヘキ代理權ヲ付與スルヲ最モ便宜ナリトス殊ニ此總括的契約ハ成ル  
ベク豫メ質入證券カ交付セラルヘキ又ハ轉帳スルコトアルベキ總テノ銀  
行ト倉庫業者トノ間ニ一般ノ場合ニ付キ特約シ置クヲ便宜ナリト信ズ嘗  
テ東京商業會議所ガ商法改正案ヲ提出シテ質入證券ヲ取得シタルモノハ  
常ニ倉庫ニ知通スベキ義務アラシメ以テ債務者ハ倉庫一趣カハ質權者ノ

誰タルヲ直ニ知ルコトヲ得テ一部辨濟ノ上出庫ヲナスノ便宜アラシムヘシトノ理由ヲ付シタルガ蓋シ質入證券ノ轉帳ハ余ガ後ニ述ブルガ如ク實際ニ於テハ程ント空想ニ過キザルコト、考フレドモ尙ホ倉庫業者ニシテ質權者ヲ代理シ得ルコトヲ特約シ置カバ質權設定以後ニ於テ出庫請求ヲナサントスル貨物所有者ノ爲メニハ最モ便宜トスル處ナルベシ又實際ニ於テ倉庫トシテモ充分ノ働キヲナサント欲セハ銀行ニ對シテ斯邊ノ信用ヲ有セサルヘカラス、

然シ質入證券ノ轉帳ナルコトハ實際ニ於テ極メテ稀ナル事實ナルノミナラズ一部出庫アリシ後ニ萬一質入證券ノ轉帳スルコトアラバ徒ラニ複雑ノ關係ヲ生スルヲ以テ第一回ノ一部出庫アリシトキハ質入證券ノ裏書ヲ全ク禁止スルハ今日ニ於ケル最モ適當ノ方法ニシテ又々金融機關ノ整頓セル我國ノ今日ニ於テハ債權者タル銀行ガ不融通ノ擔保物ナリトシテ不満足ヲ唱フルモノナシト信ズ(註二)。

第一ノ質權設定  
シアル質入證券  
ノ裏書禁止

辨濟ニヨリサ  
ラシムルノ部  
庫上ノ一部  
ラシムル部  
カ

尤モ或ル倉庫ニテハ此認定權ニ關スル總括的特約ニ基ツカスシテ一部ノ金額ヲ提供セシメテ一部出庫ヲ取扱ヒ居レトモ之レ萬一質權者ヨリ故障アリシトキハ倉庫ガ其殘額ヲ立替ヘ以テ形式上我商法第三百八十條ノ全部供託ノ事實ニ假裝セントノ決心ニ出テタルモノナルヤモ知レサレトモ斯ノ如キハ唯銀行ガ默許セルニ過キスシテ若シ之ヲ猥リニ行フトキハ倉庫業者ハ他人ノ爲メニ委託ヲ受ケタル貨物ヲ猥リニ處分スルコト、ナルヘシ今例トスル所ハ倉庫ニ關スルモノニアラサレトモ今日運送業者間ニ於テハ競争甚タシキ結果貨物引換證ノ呈示ナクシテ荷受主ニ猥リニ荷爲替貨物ノ出庫ヲナズガ如キ不法ナル行爲ヲ聞クコトアルカ他日倉庫業者ノ競争甚タシキニ至ラバ倉庫ニ關シテモ或ハ起ルヘキ弊害ナラント思ハル故ニ此特約ナキ場合ニ倉庫カ一部出庫ヲナスハ質權者タルベキ銀行ニ於テ嚴格ニ注意スベキ所ナリト信ズ、

此ニ更ラニ問題トスヘキハ前記各倉庫證券ノ内註五ノ濫澤倉庫及ヒ大阪

倉庫證券ニ一部  
出庫ノ取扱權ヲ  
倉庫ニ一任スル  
旨ヲ初メヨリ記  
入スルモ絕對ニ  
有效ナリト云フ  
ヲ得ズ

倉庫證券ニ一部  
出庫ニ關スル部  
定テ全ク設ケサ  
ル事例

一部出庫ニ關シ  
特約ナキトシ  
特約ナキトシ  
倉庫ニ一任セシ  
ルノ事例

倉庫ヲ除ク以外ハ皆一部出庫ニ付キ特約ナクトモ其相當ナル辨濟ナリヤ  
否ヤヲ認定スルノ權限ヲ倉庫ニ與ヘシムルカ如キ文言ヲ倉庫證券ノ約款  
中ニ記載セルガ若シ此文言ヲ法律上有效ナリトセバ此レ斯ノ如キ認定權  
ヲ付與スヘキ質權者ニ對シテノミ裏書スヘキコトヲ條件トシタル特種ノ  
裏書制限規定トナルベシ然レトモ實際ニ於テ質權者タル銀行ハ此條件ニ  
服從シテ絕對ニ倉庫ニ一部出庫ヲ委任スル意思ヲ以テ質權ヲ設定シタル  
モノトハ見難カルベシ從ツテ此條項ハ法律上無効ナルベシ尤モ實際ノ取  
扱ニ於テハ倉庫ト銀行トノ間ニ豫メ此特約ナクシテ一部出庫ヲナスモノ  
ハ惡意ノ外ハ恐ラク其例ナカルヘシト信ス、  
又タ三井倉庫ノ倉庫證券及ビ住友倉庫ノ倉庫證券ニハ一部出庫ニ關シテ  
全ク何等ノ約款ヲモ規定シ居ラサルナリ然シ實際ニ於テハ此等ノ兩倉庫  
ニ於テモ倉庫證券ノ所持人ニ對シテ一部出庫ヲ爲シ居ルニモ拘ラス之レ  
ヲ規定セサルハ其精神トシテ一般ニハ一部出庫ヲ認メス唯タ銀行ト倉庫

トノ間ニ特約關係アルモノニ限り隨時之レガ取扱ヲ爲シ居ルニ外ナラサ  
ルベシ、

註(六)東京倉庫ノ倉庫證券ハ文字ノ用例頗ル漠然タル處アレトモ豫メ其  
辨濟金ノ割合ヲ協定シ置カシムルコトヲ本則トセリ即チ特約主  
義ト特種ノ裏書制限主義トノ混合ナリ、

六寄託物ニ對シ質權ヲ設定シタル場合ニ於テハ質權者及ヒ質權設定者ハ一部出庫ノ禁  
止若クハ一部出庫ニ對スル供託金ノ割合ヲ協定シテ之レヲ預證券及ヒ質入證券ニ記  
入スベシ當會社ハ其預證券ニ記載シタル條件ニ從ツテ之ヲ取扱フベシ  
預證券ニ前項ノ記載ナキトキハ當會社ハ其實入當時ノ總個數ヲ以テ債權全額ヲ除シ  
タル一個平均ノ割合ニヨリ其出庫個數ニ相當スル債權額及ヒ之ニ對スル辨濟期マテ  
ノ利息ヲ計算シ之ヲ當會社ニ供託セシムベシ  
前二項ニヨリ供託ヲ受ケタル金額ハ質入證券所持人ニ代リ辨濟トシテ之ヲ受領シ質  
入證券ト引換ニ之ヲ所持人ニ拂渡スベシ

保管證書ヲ以テ  
根拠トナス  
合ノ期限後ノ利息  
取立

#### 第四節 質權辨濟期限後ノ利息取立ニ關スル金

五四

##### 融状態ヲ論ス

次キニ質權辨濟期限後ノ利息取立ニ關シテ一言センニ倉庫貨物ニ對スル質權者トシテ銀行ノ地位ハ利息ノ取立ヲ以テ唯一ノ目的トナスガ故ニ質權者ヨリ見レバ本題ハ最も重要ノ點ナレトモ法律論トシテハ比較的單純ナリ即チ先ツ荷主本人名義ノ保管證書ヲ擔保トシテ貸出ヲナストキハ留置權ヲモ生セサルナリ之レ此場合ニハ保管證書ハ物權的效力ヲ有セザルヲ以テ例令保管證書ヲ占有スルモ其貨物ノ占有ヲ生セザレバナリ唯タ債權者ガ其倉庫ト特約ヲナシテ同一保管證書ノ再發行若クハ寄託物ノ引渡ヲナサシメザル間ハ寄託物ヲ留置シ得ルノ狀況ニアリ得ベシト云フニ過ギス固ヨリ質權ノ設定ニ非ラサルヲ以テ法律上引渡拒絕ノ對抗力スラモ有セサルカ故ニ期限後ノ利息取立ノ如キハ全ク法律上ノ權利トシテ論スル

ニ足ラサルナリ又タ銀行ヲシテ直接ニ保管證書ノ寄託名義人トナスハ當事者ノ真意ニ於テハ銀行ニ所有權ヲ移轉シタルモノニ非ラザレドモ別ニ作製セル擔保差入證ノ主旨ニヨリテ質權設定及ビ期限後ノ利息ニ付テ特約シ得ルヲ以テ債務者以外ニ其所有權ヲ主張スル者ノ顯ハレザル限リハ安全ニシテ前述セシガ如ク今日三井銀行三菱銀行橫濱正金銀行等ハ實際ニ於テ之ヲ使用シ之レニヨリテ根抵當ノ働キヲ爲サシメテ質權辨濟期限後ニ至ルモ引續キ約定利息ノ支拂ヲナサハトキハ何時マデモ其證書自體ヲ占有シ若クハ其證書ヲ行使シテ貨物ヲ受取り之ヲ賣却シテ其代金ヲ占有シ得ルヲ以テ約定期限後ニ至ルモ質債權者ハ約定利息ノ取立ヲナスコト容易ナリ然ルニ今倉庫證券ヲ發行シタル場合ニ普通ニハ銀行ハ預證券ト質入證券トノ雙方ヲ取得セザレバ其貨物ニ對スル所有權ヲ主張シ得ザルヲ以テ若シ前述セルガ如キ期限後ノ損害利息ニ關シテ保管證書ニヨリテ違セルト同一ノ目的ヲ達セント欲セバ質權者ハ特約證ヲ以テ期限後

質權設定ノ際  
庫證券ニ期限  
定シ損害利息ヲ  
付シ置クベシ  
特後

ノ遅延利息ヲ豫定シ尙ホ擔保トシテ預證券ヲモ裏書讓渡セシメテ取得スルカ若クハ質權設定以後ハ預證券ノ裏書ヲ禁止スルヲ以テ相當ノ手段ト信ズレドモ斯ノ如キハ我商法カ質入證券ト預證券トヲ區別シテ二枚證券トナシタル主旨ヲ没却スルモノニシテ假ヒ法律上公益ニ反セザルモノトスルモ全ク二枚證券ノ價值ヲ經濟上認めザルモノナリ故ニ此點ハ後章ニ一枚證券制度ト二枚證券制度トノ得失ヲ論ズルノ際ニ尙ホ詳説セント欲スルモ然シ最モ適當ナルコトハ質權設定ノ場合ニ預證券及質入證券ノ雙方ニ辨濟期限後ノ遅延利息ヲモ豫定シテ記入シ置カハ斯如キ特約證ノ必要ナキヲ得ヘク從ツテ之ヲ以テ相當ノ方法ナリト信ズ、

### 第三章 我倉庫證券ノ規定ニ關スル疑問

余ハ既ニ第一章及第二章ヲ以テ倉庫貨物ニ對スル金融ノ現況ヲ述ヘ同時ニ今日我國ニ於テ銀行業者倉庫業者及ビ荷主等ガ實際ノ取扱上遭遇セル種々ノ不便ヲ述ベタルヲ以テ本章ニ於テハ之ヲ避クベキ方法其他ニ付主要ナル法律問題ヲ論究セント欲ス固ヨリ我商法ノ缺點ニシテ解釋上之ヲ如何トモ爲シ難キモノハ一括シテ後ニ章ヲ改メ第五章トシテ述ブル所アラントス、

#### 第一節 我法律ハ倉庫證券ノ流質及ヒ其他ノ

##### 特約ヲ認めザルカ

我法律ガ若シ倉庫證券ニヨル流質契約即チ質權設定行爲又ハ債務ノ辨濟期前ノ契約ヲ以テセル質物ノ所有權移轉其他ノ處分ヲ認ムルモノトセバ

今日銀行業者及ビ荷主ガ實際ニ遭遇セル不便即チ辨濟期限ノ相當ナル猶豫及ビ期限後ノ利息取立及ビ保管證書ヲ使用シテ流質契約ノ實アラシムルガ如キ質權設定行爲ノ變體ハ大概之ヲ除クヲ得テ當業者ニ便益ヲ與ヘ得ルコト大ナリト信ズ、

此議論ガ有効ニ行ハレ得ルヤ否ヤハ我商法第三百六十三條ノ解釋如何ニヨリテ岐レ來ル所ナリト考フ而シテ此商法第三百六十三條ニハ預證券及ビ質入證券ヲ作リタルトキハ寄託物ニ關スル處分ハ其證券ヲ以テスルニ非ラザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズトノ規定アリ或學者ハ之ヲ解釋シテ寄託物ヲ讓渡スルニハ預證券ニ依ラザルベカラズ寄託物ヲ質入スルニハ質入證券ニ依ラザル可カラズトノ見解ヲ以テ我商法ガ二枚證券制度ヲ採用シタルハ流質ノ如キ質權設定行爲ヲ以テ辨濟期限前ニ當事者ノ合意ニヨリ質入證券ノ處分ト同時ニ預證券ノ條件付處分ヲナサントスルコトハ法律ノ禁止スル處ナリト主張セルモ此見解ハ日本商法ガ模倣シタル所ノ佛蘭

倉庫證券ニヨリ  
流質ヲ無効ナリ  
トスル根據

西法ノ解釋トシテハ誠ニ至當ナルコトニシテ又タ議論トシテモ我商法ノ解釋上一個ノ有力ナル意見ト考フ殊ニ我商法第三百六十九條同第三百七十條ヲ參照セバ質入證券ノ所持人ガ其權利ヲ實行セントセバ必ず競賣セザル可カラザルガ如キヲ以テ一層其感ヲ深カラシムレドモ余ハ此商法第三百六十三條ヲ以テ寄託物ノ讓渡及ヒ質入ノ方法ヲ限定シタルモノニ非ラズシテ唯ダ寄託物ト證券トヲ分離シテ權利關係ヲ論セバ徒ラニ權利關係ノ複雜ヲ生ズルノ害アルモ利ナキヲ以テ寄託物ニ關スル權利ノ處分ト證券ニ關スル處分トヲ同一體ナラシムベキコトノ精神ニ外ナラズト信ズ敢テ預證券ヲ以テ必ず讓渡ニ使用スベク質入證券ヲ以テ必ず流質ヲ意味セザル質入ニ使用セザル可カラズト爲シタルモノニ非ラズト解釋スベキヲ適法ノ解釋ナリト信ズ固ヨリ我立法者ノ起草當時ニ於ケル精神トシテハ果シテ何レニ屬セシヤハ頗ル疑ヒアルノミナラズ法文ノ體裁トシテハ佛蘭西法ニ寧ロ倣ヒタルモノナリ然レトモ佛蘭西法ノ解釋ハ之ヲ我商

余ハ倉庫證券ニ  
流質ヲ有效ニ  
入シ得ヘシト  
信記

ノ解釋ニ適用ス可カラズト信ズ而シテ余ガ此意見ヲ主張スルニ於テ根據  
トスル所ハ我民法ハ流質ヲ禁ジ居レドモ我商法ハ之ヲ許シタルコトヲ其  
根據トスルモノニシテ此規定ノ爲メニ日本ノ商法ハ其母法タル佛蘭西ノ  
法律ト解釋ノ根底ヲ異ニスルニ至レリト信ズ何トナレバ佛蘭西ニテハ絶  
對ニ流質ヲ禁止スルノ精神ヨリシテ質入シタル殘額ヲ以テ讓渡ノ目的ヲ  
特ニ達セシメントシタレドモ我商法ニ於テ既ニ流質ヲ認メタル以上ハ流  
質ヲ許サル精神ニ出デタル佛蘭西法ノ解釋ヲ以テ強テ文字ニ拘泥シテ  
我商法ノ解釋ヲ窮屈ナラシムベキ理由ナシト信ズ殊ニ我商法ガ根本ノ思  
想ヲ覆シタル以上ハ敢テ枝葉ノ文字ニ拘泥シテ經濟社會ノ現況ヲ拘束ス  
ベキ理由ナカルベシト信ズ然ルニ又タ反對論者ハ解釋ヲ助クル一理由ト  
シテ商法第三百六十七條ヲ援用シ同條ニハ質入證券ニ第一ノ質入裏書ヲ  
爲スニハ債權額其利息及ビ辨濟期ヲ記載スルコトヲ要ストアリテ質權ノ  
效力トシテ所有權ヲ債權者ガ漫リニ拘束スベカラズトナシ我商法ハ倉庫

今日行ハル、流  
質ノ方法三種ア  
リルカ如シ

貨物ノ流質ナルコトヲ豫想セザルモノナリト主張センモ本條ニ對スル余  
ノ意見トシテハ第三百六十七條ハ勿論又タ商法第三百六十九條及ビ同第  
三百七十條ハ皆ナ之レ普通ニ質入證券ヲ以テ質入スル方法ヲ規定シタル  
モノニ過ギズシテ之レガ爲メニ我商法ノ特ニ認メタル商法上ノ流質ヲ倉  
庫貨物ニ付キ禁止スルノ精神ハ無論アリ得ヘカラズト信ズ、  
之ヲ要スルニ余ハ我商法ノ下ニ於テハ倉庫證券ニ流質文句ヲ有效ニ記入  
シ得ルモノト信ズ而シテ流質ノ方法トシテハ之ヲ證券上ニ特約記入スル  
ノ必要アリ然ルニ今日實際ニ於ケル取扱ヲ見ルハ擔保品差入證ニ添ヘ  
テ證券ノ裏面ニ捺印シタル預證券及ビ質入證券ノ雙方ヲ銀行ニ交付シテ  
流質契約ヲナセドモ如此キハ擔保差入證ノ效力ニ過ギズシテ質入證券ヲ  
全ク死物視モルモノナリ若シ擔保差入證ナクンバ註一ニ掲ゲタル大阪控  
訴院ノ判決ノ如ク全ク無意味ニ終ルベシ蓋シ流質契約ハ質權設定ノ一種  
ナレドモ假ヒ商法上ニ於テモ質權設定ノ普通ナル方法ニ非ラズ況ンヤ二



流質契約ヲ認ム  
ルトキハ佛國主  
義ハ化シテ英國主  
義トナルベシ

枚證券制度ヲ採用シテ所有權ノ處分ト質權ノ設定トヲ區別シタルコトノ精神ヨリ見テ質權設定行爲ヲ以テ單ニ捺印セル預證券ト質入證券トヲ二枚共交付シタルコトヲ以テ商法上流質ガ行ハレ得ル商慣習アリト云フハ假ヒ不法ニアラズトスルモ質權設定方法トシテ不完全ナルノミナラス又現行法ノ精神ヲ無視シテ質入證券ヲ活用セザルモノト云フベシ故ニ若シ流質契約ヲ適法ニ締結センニハ質入證券ノミヲ以テ足レルモ當事者ハ特ニ流質ヲ爲ス旨ヲ質權事項中ニ明瞭ニ表示セザレバ曖昧タルヲ免ガレズ而シテ質入證券ノミヲ以テ獨立シテ流質ヲ特約シ得ルニ至ラバ我質入證券ハ英國倉庫證券制度ニ於ケル「ワラント」ノ性質ニ符合シ預證券ハ「ウエートノート」ノ性質ニ符合シ來ルベシ即チ我商法ハ佛國主義ニ倣ヒテ倉庫證券制度ヲ規定シタルモノナルガ我國ニ於テハ流質契約ヲ認ムル結果反ツテ英國主義ニ倣フヲ適法ニシテ且ツ尤モ便宜ナリトセル旨ヲ此ニ明言シ置カント欲ス而シテ英國主義及ビ佛國主義ニ付テハ後ニ第四章ニ於テ

詳述セント欲ス

若シ夫レ倉庫證券上ニ初メヨリ流質ヲ記載シ置カバ銀行ノ爲メニハ頗ル便宜ナレトモ初メヨリ流質ノ文言アル倉庫證券ヲ發行スルハ我現行商法ニヨル倉庫業者トシテハ寧ロ干渉ニ過ギタル文言ナルヲ以テ銀行業者ハ質權設定ニ際シ債務者ニ對シ此權利ヲ保全スルガ爲メニ其流質契約ナル旨ヲ證券ニ明記スルコトヲ以テ相當ノ取扱振ナリト信ズ、

註商法上流質ヲ認メタルハ我商法ノ英斷ニシテ獨逸新商法スラモ尙ホ沿革ニ支配セラレ民法第一二三四及ヒ同第一二二八條ノ豫告期間ヲ單ニ一週間ニ短縮シタルニ過キスシテ流質契約ノ主義ヲ採用シ得ザリシ次第ナリ(獨逸商法第三六八條第一項)故ニ我商法ノ倉庫證券ヲ論セントスル者ハ須ラク先ツ此點ニ着眼シテ論及スベク又其論及ノ結果英國ノ倉庫證券制度ハ最モ實際ニ於テ便宜ニ適ヘルコトヲ發見スヘキナリ(第四章第一節及ヒ第二節參照)

## 第二節 我法律ハ預證券ノミニ依ル別種ノ

### 質權設定ヲ認メサルカ

既ニ第一章第二節ニ於テ述ベタルカ如ク今日倉庫證券ニ對スル銀行業者ノ金融方法トシテハ通常預證券及ビ質入證券ノ雙方ヲ擔保ニ差入レシメ又タ稀ニハ質入證券ノミヲ占有スルモノアレトモ其預證券ヲ以テ別ニ金融ノ爲メニ擔保ニ差入ル、コトハ從來アマリ耳ニセサルコトナリ然シ將來倉庫證券ノ取扱ニ馴ル、ニ從ヒテ早晚必スヤ起ルベキ問題ナラント信ス。

此點ニ付テモ消極論者ハ商法第三百六十三條ノ解釋ニ基ツキ且其母法タル佛蘭西法ノ精神ニヨリテ質入ハ必ラズ質入證券ニヨルヘク預證券ヲ以テ別種ノ質入ノ目的ニ供スルヲ得スト云ハンモ余ハ元來我商法第三百六十三條ヲ以テ證券上ノ權利ト寄託貨物ニ關スル權利トフ相一致セシムル

趣旨ヲ現ハスニ過キサル意味ニ解釋シテ差支ナキノト信ス從ツテ之ヲ以テ質入ノ方法ヲ特ニ質入證券ニヨルモノノミニ制限シタリト爲サバ徒ラニ外國法ノ意ヲ迎ヘテ法ヲ死物視スルモノト云フベシ之レ余カ質入證券ニヨリ質權ヲ設定シタル後ニ預證券ノミニヨリテ留置權ヨリ一步ヲ進メタル別種ノ質權設定ヲモ法律上有效ニ成立セシメ得ベキモノナリト解釋セント欲スル所ナリ、

元來預證券ニヨル如此キ別種ノ質權ナルモノハ我立法者ノ豫想セサリシ處ナルヲ以テ之ヲ實行セントスル場合ニ今日ニテハ直接ニ貨物ノ競賣ヲ申立テ得ヘキ法文ヲ欠缺ス從ツテ余ノ意見トシテハ質入證券所持人ノ競賣ノ結果ヲ待タサルヘカラスト信ス且一般債權者ニ對シ優先權ヲ主張セシニハ民法第三百四條ノ主旨ニ從ヒ目的物ノ競賣代金拂渡以前ニ特ニ差押ヲナシ置カサルヘカラサルナリ然シ立法論トシテハ此證券ニヨル別種ノ質權者ニモ商法第三百六十九條ニ倣ヒ辨濟期限後一定ノ期日ヲ經過シ

タルトキハ寄託貨物ノ競賣ヲ申立ツルヲ得セシムルハ尙ホ之レ不動産ノ  
二番抵當權者ニ競賣申立權ヲ與フルト同一ノ理由ニシテ實際上毫モ弊害  
ナシト信ズ、

質入證券ノ所持  
人ハ占有ヲ取得  
スルモノニ非ラザ  
ズ

余ハ此ニ預證券ニヨル別種ノ質權ノ性質及ビ質入證券ニヨル質權ノ性質  
ニ付キテ一言セント欲ス彼ノ引渡證券トシテノ倉庫證券論ノ著者コスタ  
ネツキー氏ハ同書第三編ニ於テ質入證券ノ所持人ハ預證券ノ所持人ヨリ  
占有ヲ承繼スルモノナリト論シテ質入證券被裏書人ノ權利ヲ動産質ナリ  
ト見タルモ此占有承繼論ハ法理ノ正鵠ヲ得タルモノニ非ラスト考ヘラル  
ハノミナラス若シ同氏ノ意見ノ如ク質入證券ノ移轉ハ占有承繼ヲ生スル  
モノナリトテ論結セハ既ニ質入證券ノ讓渡ニヨリ其占有ヲ讓渡シタル預  
證券所持人ガ其質權設定後ノ預證券ニヨリ亦タ質權ヲ設定シ得トノ同氏  
ノ議論ハ之レ己レノ有セサル占有ヲ尙ホ再ヒ他人ニ承繼セシムルヲ得ト  
云フニ至ルヘク明ラカニ矛盾セリト信ス但シ同氏ハ此預證券ニヨル別種

ノ質權ノ性質ニ付テハ別ニ論究シ居ラサルヲ以テ或ハ此場合ヲ權利質ナ  
リトシテ辨明セントスルモノナルカ其意不明ナリ而シテ余ハ預證券ニヨ  
ル別種ノ質權設定ハ或ハ動産質ナランモ質入證券ニヨル質權設定ハ權利  
質ニモ動産質ニモアラスシテ法定ノ特種ノ擔保權ナリト云ハント欲ス之  
レ蓋シ質入證券ハ假ヒ質權的效力ヲ有スルモ債權證書タルヲ以テ其取得  
ハ占有ノ繼承ヲ生セスト信スレハナリ又タ預證券ニヨル別種ノ質權ハ商  
法第三百六十五條ヲ以テ讓渡ノ場合ニ限ラス汎ク占有移轉ノ場合ニモ類  
推シ得ヘシトセハ動産質ナリト論ジ得ベケンモ然ラサル限リハ之ヲ權利  
質トシテ論スルヲ相當トス而シテ固ヨリ法律上特定ノ形式ヲ有セサルヲ  
以テ若シ之ヲ權利質トシテ論スヘキモノトセバ從ツテ其設定方法トシテ  
ハ指圖式ナルトキハ質入裏書ニヨルヘク(民法第三百六十六條)又タ記名式  
ナルトキハ倉庫ニ對シテ質權設定ノ通知ヲ發スルコトヲ必要トスベシ(民  
法第三百六十四條)然レトモ立法論トシテハ之ヲ動産質トシテ特定スルヲ

註七 「コスタネツキ」氏ノ倉庫證券論ニ曰ク

預證券ハ總テ可能的ノ目的ニ使用セラル、有價證券トシテ效力ヲ有シ質入證券ハ唯々質入目的ノミニ限ラレタル有價證券トシテ效力ヲ有スルモノナリトノ論結ニ至ラサルヲ得ス云々(中略)

若シ倉庫預證券ハ倉庫質入證券ナル特種ノ有價證券ニ對シテハ實際或ル一般ノモノトシテ現ハル、モノトセバ從ツテ倉庫預證券ハ總テノ權利行為ニ應用セラレ得ルモノタルコト論ヲ待タズ故ニ彼ノ質入證券ノ爲メニ全ク特定セラレタル質入行為ニモ使用セラレザルベカラズ而シテ此際兩證券ニヨリテ別々ニ生シタル質入行為間ニ起リ得ル衝突ハ單ニ質入證券ニヨリテ生シタル質權ハ優先權アリトノ意義ニ從ツテ之ヲ裁定スベキナリ現ニ法律ハ特ニ質入證券ヲ造出セリト雖モ是ヲ以テ直チニ他ノ方法ニヨリ質入ヲ排斥セント欲スルニアラズ法律ハ之レニヨリテ唯々特別ニ優先ノ性質ヲ有スル質權ヲ存在セシメント欲スルナリ云々(中略)

而シテ爰ニ述ベタル所ハ實際多數ノ學者ノ唱道スル所ナリ尤モ是等ノ著述者ハ唯々或ル例外ノ場合ニノミ能ク法律規定ノ明確ナル文句ヲ論據トナスヲ得ルノミ例ヘバ千八百七十七年「ブレーメン」國法律第四條ノ如キ然リトス曰ク「質入濟ミヲ記載スル倉庫證券ノ讓渡アリタルモ之レガ爲メニ質入證券所持人ニ屬スル動産質權ハ無効トナ

ルモノニアラズ質入證券ヲ以テ設定セシ質權ハ悉ラクハ質入濟ミヲ記載スル倉庫證券ヲ以テ質入取引ヲナシタルニヨリテ生シタル質權ニ對シテ優先權ヲ有ス」ト然レトモ此種ノ法律上ノ規定ハ必要ト認メラズ預證券ヲ以テ質入スルヲ許スコトハ是等規定ナキモ亦タ能ク學者ノ辯護スル所ナリ唯々二三ノ例ヲ引用センガ爲メ佛國ニ關シテハ「デュープロン」及「ビ」ガ「オースティン」氏ノ意見ヲ獨逸ニ關シテハ「ハツヘンブルヒ」氏ノ立法論ヲ澳國ニ關シテハ「アドレル」氏ノ説ヲ聽クベシ皆之ヲ是認シテ更ラニ疑フ所ナシ殊ニ此等ノ諸氏ハ此種ノ質入取引ハ全ク獨立ノ經濟上ノ任務ヲ有スル權利行為ナリト認メ以テ益々之ヲ是認シ辯護セリ「デュープロン」氏ハ此經濟上ノ任務ハ殘價ノ質入ナリト謂ヒ又「オースティン」氏ハ説明シテ曰ク「一般ニ普通ノ貸付者ナル銀行家ハ單ニ寄託商品ノ純價格ノ四分ノ三ヲ限度トシテノミ質入證券ニ貸出チナスモノナリ然ラハ寄託者ニハ其自由處分ニ屬スル四分ノ一ヲ殘スベシ而シテ若シ寄託者が質名義ノ裏書ヲ以テ此殘四分ノ一ニ等シキ金額ニ對シ預證券ノ取引ヲ爲ストセバ小資本家ハ此自由ナル四分一ニ就テ恰好ノ投資口ヲ見出スコト、ナルナリ」ト次ニ此點ニ關シテ「アドレル」氏曰ク「預證券ヲ以テ設定セシ質權ヲ人及ビ物ニ從ツテ區別スルコトハ直接ニ此預證券ニ職由スヘカラズ故ニ此別々ニスル形式ハ貸越約束ヲ有スル貨物擔保ニ對シ及ビ交互計算ノ基礎トシテ質入證券ヲ利用スルコトニ對シテ適當ナリ云々(中略)

尤モ他ノ方面ニ於テ是等ノ議論ニ對シ全ク反對トナキニアラザルハ看過スベカラズ  
レガシカトシ氏曰ク質入證券ノ裏書ハ倉庫ニ寄託セシ貨物商品ニ質權ヲ設定スル唯  
一ノ方法ナリト又佛國ノ裁判所判決ニ於テ同氏ト同一ノ見解ヲ下シ其理由トシテ千  
八百五十八年ノ法律ハ特別法ナリ此特別ハ如何ニシテ倉庫ニ寄託セシ商品ニ質權ヲ  
設シ得ルカチ嚴格ノ方法ヲ以テ指示セリ何人モ他ノ方法ヲ以テ質權設定ヲ爲シ得サ  
ルナリト言ヘリ此判決ハ明確ニ斯ク主張セリ而シテ「ブランダ」氏ハ佛國ニ對シテ殆ン  
ト之下同一ノ意見ヲ述ヘタリ同氏ノ意見ニ從ヘバ「アドレル」氏ガ預證券ノ質入ニヨリ  
テ質權ヲ取得スト云ヘルハ誤解ニシテ佛國倉庫法第二十五條ハ「アドレル」氏ノ意見ニ  
反シテ嚴然ト「動産質」ノ設定ハ「中畧裏書セラレタル質入證券」ノ交付ヲ必要トスト  
是等ノ駁撃其他之レニ類似セルモノニ對シテ前ニ掲ケタル辯護論ノ代表者ハ防禦シ  
テ謂ヘラク當該ノ法律規定ガ有スル限定的性質ハ之ヲ明瞭ニ證明スルヲ得ス又預證  
券ニ就テ之ヲ觀ルニ所有權取得ヲ爲シ得ルノ加數中ニハ又質權取得ノ減數ヲモ包含  
セザルベカラズ云々

### 第三節 質入證券ノ流通方法ヲ論ズ

吾人ハ既ニ先キニ述べタルガ如ク我國ニ於ケル商取引ノ現況トシテハ質  
權者カ質入證券ヲ更ラニ流通セシムルガ如キ實例ヲ聞カザルノミナラズ  
理論上ヨリ考ヘテモ之ヲ流通セシムルコトノ可否ハ頗ル重大ノ問題ナル  
ヲ以テ後ニ第四章ニ於テ之ヲ詳論センモ然シ既ニ現行法ハ其規定ニ於テ  
質入證券ノ流通及ビ轉讓ヲ目的トシタルヲ以テ此ニ簡單ニ其流通方法ヲ  
論ズルヲ以テ相當ナリト信ズ

質入證券ニヨル質權ノ流通形式トシテ最も重要ナルハ質權ノ讓渡ナリト  
ス而シテ質權ノ讓渡ハ其效力トシテ讓渡人ハ讓受人ニ對シテ主タル債權  
ノ正當ナルコト及ビ質權設定ノ正當ナルコトニ對スル責任ヲ生ス若シ質  
權ヲ更ラニ讓渡シタルトキハ第一ノ質權者ハ其關係ヨリ脫離スヘク唯我  
商法ニテハ償還義務ヲ認メアルナリ(第三百七十二條)次ギニ又夕質權流通

ノ第二ノ方法トシテハ轉質是ナリ此轉質ノ法理上ノ性質ニ付テハ種々ノ意見アレトモ要スルニ轉質入者即チ第一ノ質權者ガ取得セシ權利ノ範圍内ニ於テ質入セラル、モノナルコトハ斷言シ得ベシ而シテ「クラインツバツ」氏ハ「轉質權者ニ質入セラル、ニ當リテソレニ對スル金額ハ第一ノ質權者ニ對シテ負フ所ノ金額ヨリモ多額ナリト假定センカ轉質權者ハ第一ノ債務者ニ對シテハ其直接ノ債權者ニ給付スベキモノヨリモ多額ノ金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ズ又轉質權者ハ前債權ノ滿期以前ニ於テ其質權ヲ行使スルコトヲ得ズシテ前債權ノ期限ハ轉質權者ニ對シテモ亦標準トナルモノナリ」ト論ジテ轉質權ノ設定セラル、債權ハ第一ノ質權ノ設定セラル、債權ヨリモ多額ナルコトヲ得レトモ唯其多額ノ債權ヲ原始債務者ニ對シテ請求スルヲ得ズトナスモノナレドモ「ニツベル」氏ハ一步ヲ進メテ轉質權ノ設定セラル、債權ハ第一ノ質權ノ設定セラル、債權ヨリモ多額ナルコトヲ得ストセリ即チ其論スル處ヲ見ルニ例ヘバ甲者アリ乙者ヨ

リ一千八百三十二年一月一日ニ支拂フベキ「一百」フローンノ債務ニ對シテ質物ヲ得タリ此場合ニ於テ甲者ハ此質物ヲ第三者例ヘバ丙者ニ同シク一千八百三十二年一月一日滿期ノ「一百」フローンノ債權ノ爲メニ更ラニ質入ヲ爲スコトヲ得而シテ又此金額ヨリモ少額ナル又ハ一千八百三十二年一月一日以後ニ支拂フベキ債權ニ對シテ更ラニ質入ヲ爲スコトヲ得レドモ此金額ヨリ多額ナル又ハ此期限ヨリ以前ヲ期限トスル債權ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得ズ」ト謂ヘリ、

而シテ余ノ意見トシテハ第二以後ノ轉質權ニヨリテ擔保セラルベキ債權ノ範圍ヲ如何ナル範圍トナスベキカニ付キ立法問題トシテハ之レヲ「ニツベル」氏ノ所說ノ如ク原始債權ノ範圍ニ制限スルモ敢テ差支ナカルベシト考フレドモ如此特別ノ規定ヲ設ケザル限リハ法理論トシテハ必ズシモ總テノ態様ニ於テ原始債權ノ範圍ニ限ルベキ性質ナク唯原始債務者ニ對シテ對抗權ナキニ過ギスト信ズ即チ近時松波博士ノ著ハシタル日本商法論

(同書六六一頁)ニ掲載セラル、左ノ議論ハ法律上全ク不必要ノ注意ト信ズ  
 何トナレバ假ヒ第二以下ノ質權ノ擔保セラルベキ債權ヲ原始質權ノ擔保  
 セラルベキ債權ヨリ大ナラシムルモ轉質ノ性質上第一ノ質權ノ範圍内ニ  
 於テスヘキモノナルヲ以テ之レヲ以テ直接ノ債務者以外ニハ原始債務者  
 ハ勿論其他ノ債務者ニモ對抗シ得ベキ理由ナク殊ニ第二以下ノ質債權ニ  
 於テ債權額ヲ記載セサレバ假ヒ別ニ特約證書ニヨリ直接ノ當事者間ニ於  
 テハ其質權ハ固ヨリ有效ナランモ第三者ニ對スル關係トシテハ之レ債權  
 ノ對抗要素ヲ缺クモノニシテ法律上無効ノ記載ニ過ギズ故ニ後ノ裏書ニ  
 ヨリテ何等ノ債務ヲ負フコトナキモノナリ、

註、第一質入ノ債權額ハ證券面ヨリ明カナリ第二以下ハ之ヲ記載ス  
 ルヲ要セサルヲ以テ不明ナリ隨テ第二ノ債權ハ百圓ナルニ第三ノ  
 債權ハ二百圓ナルコトアラン此場合ニハ第三ノ債權者ハ總テノ裏  
 書人ニ對シテ二百圓マテヲ請求シ得ルナリ故ニ質入證券ノ裏書人

ハ直接ニハ少額ノ債務ヲ負フニ止マルニ後ノ裏書ニヨリテ巨額ノ  
 債務ヲ負フコトナルヲ以テ宜シク裏書ノ際ニ自己ノ債務額ヲ記載  
 シ其以上ノ責ニ任セザル旨ヲ示スベシ質入證券ハ手形ノ如ク嚴格  
 ナラザルヲ以テ此記載ハ有效ナリ第一ノ質入裏書ニ債權額ヲ記載  
 セシムルニ止メスシテ第二以下ノ質入ニ於テモ之レヲ記載セシム  
 ベシト云フハ專ラ此點ヲ顧慮シタルナリ云々

#### 第四節

質入證券ノ所持人ハ先ツ寄託物ニ

付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アルトキ

ハ債務者其他ノ裏書人ニ對シテ償

還請求權アリトシタルハ立法上不

當ト云フベシ

本節ハ固ト次章ナル我商法ノ缺點中ニ於テ論ズルヲ相當ト信シタレトモ其論及スル所ハ枝葉ナルガ如クニシテ實ハ我商法ノ主義ヲ根本ヨリ非難スルモノナルヲ以テ此ニ之ヲ論シタルノミナラス我商法第三百七十二條ニ所謂「債務者」ナル文字及「其他ノ裏書人」ナル文字ハ解釋上多少疑問トナルヲ以テ此ニ特ニ之ヲ論ゼントスルナリ、

抑モ我商法第三百七十二條ガ質入證券ノ所持人ヲシテ先ツ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケシメ以テ對物信用ノ便ヲ與ヘ尙ホ不足アルトキハ債務者其他

償還請求ハ先ツ  
質入證券ノ所持人  
及裏書人ニ及  
ハシムヘシ

ノ裏書人ニ對シテ其不足額ヲ請求スルコトヲ得セシメ以テ對人信用ヲモ利用セシメントシタルハ固ヨリ其精神ニ於テ不可ナキモ其對人信用ノ爲メニ不足額賠償ノ責任ヲ負ハシメラレタル債務者殊ニ其他ノ裏書人ナルモノハ果シテ不足額ニ付キ責任ヲ負フコトヲ以テ立法上至當トスヘキカ、否ナ余ハ之ニ反對シテ假令對人信用ノ爲メナリトテ預證券ノ現所持人ヲ以テ先ツ第一ノ責任者トシ更ラニ第二ノ責任者トシテ預證券ノ各裏書人ニ及バントスルモノナリ即チ我現行商法ニ規定セル債務者及ヒ其他ノ質入證券ノ裏書人ノ如キハ法律上對人信用ニ關スル責任ヲシテ最モ薄カラシムヘキモノナリト信ス何ントナレハ預證券ノ最後ノ所持人ハ其證券ノ記載ヲ見テ質權事項ヲ承諾シタル上ニテ其預證券ヲ取得シタルモノナルヲ以テ自己カ辨濟ヲ爲サ、ルカ爲メニ質入證券所持人ガ質權ヲ行使シテ其寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケ得サル不足額ノ償還請求義務ニ對シテ自ラ第一次ニ當然ニ責任ヲ負フヘキモノニシテ之レニ次キテ預證券ノ各裏書



償還義務ニ付テハ質權設定ノ後預置シテ重カクシテ責任ヲ負ハルモノトシテ

七八  
人ニ其責任ヲ及スヘキモノト信ス何ントナレハ此等ノ者ハ既ニ其寄託物ノ所有權ヲ他人ニ讓渡シタルヲ以テ直接ニ其寄託物ニ對スル利害ノ關係ヲ離レ己レノ欲スル所ニ從ヒテハ如何トモ爲スヲ得サル境遇ニアルモノナルヲ以テ其間ニ責任上差等アルヘキナリ只立法論トシテハ故意ニ辨濟資力ナキ預證券ノ最後ノ所持人ノ顯ハルハ防クカ爲メニ預證券ノ所持人ト其裏書人トヲ同一視スルハ敢テ差支ヘナシト信スレトモ我商法カ質入證券ノ其後ノ各裏書人(即チ權利ノ讓渡人)ヲ以テ質權設定者ナル主債務者ト同一ノ責任ニ問ヒタルハ徒ラニ質入證券ノ流通ヲ計ランカ爲メニ出テタル佛蘭西法系ノ立法例ニ倣ヒタルモノニシテ既ニ自己ニ貨物ノ所有處分權ナキ質入證券裏書人ニ對シテ償還義務ヲ負ハシムルハ過酷ナルヘシ、  
余ガ此ニ特ニ注意セント欲スルハ手形ハ一定ノ金額ヲ目的トスルヲ以テ裏書人ハ何人モ其金額ノ範圍ニ於テ責任ヲ負ヒタルコトヲ自確スヘキヲ

倉庫證券上ノ質權者論ニ於テハ手形ノ如キニ定メタル金額ヲ目的トスルモノヘカト區別スルモノトシテ

當然トスレトモ倉庫證券ニ於テハ貨物ノ如キ時期ニヨリテ價格ニ變動アルモノヲ目的物トセルガ故ニ處分權ノ存在スルモノニ最モ大ナル責任ヲ負ハシムヘキナリ即チ手形ト同一視スベカラサルコトヲ此ニ明言セント欲ス而シテ預證券ノ最後ノ所持人ハ爲替手形ノ引受人ト同一ノ地位ニアリテ其債務ヲ負擔スヘキコトヲ自確セルモノト見テ差支ナシト信ス(附録大阪商業會議所修正案及三谷帆秀君意見參照)  
以上ノ次第ナルヲ以テ余ハ我商法第三百七十二條カ預證券ノ裏書人ニモ負ハシメサリシ責任(償還義務)ヲ質入證券ノ裏書人ニ負ハシメタル精神ヲ解スルニ困シムモノナリ蓋シ此等ノ責任ヲ規定シタルハ沿革上佛國倉庫法(千八百五十八年發布)ガ質入證券ノ流通ヲ一方ニ獎勵スルト同時ニ其裏書ノ責任ヲ重カラシメテ其確實ナルコトヲ保證セシメントシタル政策上ノ規定ニ濫賜セルモノニ外ナラスト信ズ  
此ニ余ハ一言セント欲スルモノアリ即チ今日倉庫證券ノ二枚制度ヲ主張

質權者保護主義  
ニ尖スルトキハ  
質取引ヲ妨ク  
ルニ至ルヘシ

スル論者ハ必スヤ二枚證券タル質入證券ガ其効力ヲ充分ニ發揚シ得ルハ  
物上保證ト對人保證トヲ兼有スルニアリト云ハンモ假令對人保證ニ付  
テハ前述ノ如ク立法者ト意見ヲ異ニスル處アレトモ如斯ハ元ト枝葉ノコ  
トニシテ余ト全ク經濟上ノ着眼ヲ異ニセルモノナリ漫リニ對人保證ヲ過  
重ニスルハ無益且ツ有害ナリト信ス何ントナレハ漫リニ償還義務ノ責任  
ヲ重カラシムルハ反ツテ質入證券處持人ヲ疑惑セシメテ質入證券ノ流通  
轉輾ヲ妨クルモノニシテ所謂角ヲ矯メテ牛ヲ殺スモノナリ而シテ償還請  
求權ヲ重視スルハ之レ絶對ニ辨濟期限ノ猶豫ヲ與ヘサルモノニシテ且ツ  
競賣ヲ濫リニ獎勵スルモノト云フヘクシテ斯如キハ各當事者ノ喜ハサル  
處ナルノミナラス國家經濟上頗ル寒心スヘキコトナリ識者須ク佛國ニ於  
ケル二枚證券制度ノ發達ニ鑑ミタル後ニ其立法ノ大本ヲ論スヘシ故ニ余  
ハ「ガーライス」氏ノ如キ反對論アレトモ「コスタネツキ」氏等ノ後援ヲ以テ  
〔註八〕經濟上ノ見地ヨリ責任ヲ單ニ預證券ノ最後ノ所持人ニ止メ償還請求權

(注意) 若シ預  
證券ノ所持人ヲ預  
セハ今日責任者ト  
カ預證券マテテ  
モ占取スル取テ  
振ニ根本的取テ  
壞テ來スヘシ破

ヲ廢止スヘキモノト信ス而シテ万一最後ノ所持人ノミニテハ危險ナリト  
セハ或ハ禁流通トナシテ對人信用ヲ保護スルカ或ハ流質制度ヲ以テ對物  
信用ヲ保護スルヲ相當ト信ス然シ現行法ハ後ニ第六章(四)ニ於テ論スルカ  
如ク未タ倉庫證券ノ無記名式ヲ認メサルヲ以テ其精神ヨリセバ寄託者即  
チ第一ノ裏書人(我商法ノ所謂債務者)ノミニ對シテハ償還義務ヲ免レシメ  
サルヲ相當ナリト主張スル餘地アレトモ尙ホ此場合ニモ倉庫證券ノ第一  
裏書人ヲ以テ特定ノ金額ヲ目的トスル手形ノ裏書人ト同一ノ地位ニアリ  
トシテ論スルノ不當ナルヲ記憶セサルヘカラズ(附錄大阪商業會議所發表  
倉庫規定修正意見及三谷軌秀氏意見參照但此等ノ意見ハ債務者ニ換ユル  
ニ預證券ノ所持人ヲ以テシ乍ラ尙ホ其他ノ裏書人ニ對スル償還義務ヲモ  
認メ居ルナリ

〔註八〕「ガーライス」氏ハ余ノ意見ト異ナリテ對人信用ヲ重ンゼントセリ即  
チ其說ク處ニヨレバ

償還請求権ナクシテハ「ブローラント」ノ流通範圍極メテ狹隘ナルモノナリ唯ダ償還請求権アルガ爲メニ「ブローラント」ハ能ク質契約ノ遲鈍ナル證書以上ノ働キヲ爲スモノナリ……故ニ「ブローラント」ヲシテ十分ニ其取引ヲ擴張セシメンガ爲メニハ對人的保證ナクシテ單ニ物權的保證ノミニテハ到底考フベカラズ又タ全ク其目的ヲ達スルコト能ハザルナリ云々

又タ「コスタネツキ」氏ハ償還請求權說ニ反對シテ其著書ニ左ノ如ク論セリ

手形上ノ償還請求權ハ手形法一般ノ性質ニ適當シ極メテ嚴重ニ形成セラレシモノニシテ元來質入證券ニ就キテ生スヘキ目的以上ニ出テタルモノナリト雖モ然カモ之レヲ質入證券ニ應用セシナリ云々  
又「バイエルデル」氏曰質入證券ノ被裏書人ニ償還請求權ヲ付與スルトキハ是レ即チ……質入證券ニ與フルニ其性質及ビ其本體ニ背馳スルノ規定ヲ以テスルモノナリ又タ「ヘヒト」氏曰「今尙ホ人ノ慨嘆スル所ハ佛國ニ於ケル「ブローラント」制度ノ採用ガ貨物ノ順序正シキ流通ヲ大ニ進捗スルコトヲ得ズシテ寧ロ之ヲ阻礙セシニ在リ「中界」ブローラントハ貨物信用取引ヲ促スノ制度タル性質殊ニ貨物信用ヲ促スヲ以テ其本旨トスナ有シ此性質ハ立法ノ方針ヲ定メシモノニシテ「中界」從ツテ當時成ルベク手形

法上ノ慣例ヲ爰ニ應用シテ外見上「ブローラント」證券ニ適合スルノ要素ヲ採用セント勉メタリシモ却ツテ此要素ハ幾分ハ大ニ有害ニシテ且ツ「ブローラント」ノ發達ヲ妨害セシモノナリシナリ「中界」手形同様ノ責任ハ其結果驚クベキモノニシテ此責任アルガ爲メ「ブローラント」ノ流通ヲ妨害セリト

### 第五節 倉庫證券ニ記載ヲ要セザル先取特

權ノ範圍ヲ論ジテ入庫以前ニ生ジタル立替金其他ニ及ブ

次ニ預證券所持人及ビ質入證券所持人ニ對シテ倉庫ハ證券ニ記載ナキ場合ニ保管料其他保管ニ關スル費用租税及ビ立替金ヲ對抗シ得ルヤ否ヤ即チ此等ノモノニ付倉庫ニ先取特權ヲ主張スル權利アリヤニ關スル問題ナルガ我商法第三百七十條ニヨレハ無論之レニ對抗シ得ベキ筈ナレドモ併シ保管ニ關スル費用租税及ビ立替金保管料ハ證券記載事項ナルヲ以テ此ニ論セスヲ證券ニ記載セサルモ倉庫業者ガ證券所持人ニ對抗シ得ヘシト

セバ證券ヲ取得スル者ノ地位ヨリ見レバ頗ル危険ニシテ又々法律トシテモ第三取得者タル證券ノ所持人ニ對シテナルベク多クノ保護ヲ講ゼサル可カラズ即チ現ニ我商法ガ第三百六十二條ヲ以テ寄託ニ關スル事項ハ倉庫營業者ト所持人トノ間ニ於テハ其證券ノ定ムル所ニヨルト規定シタル精神ニモ反スベク唯々強テ辯解セバ第三百六十二條ハ寄託ニ關スル事項トアルヲ以テ此等ノ事項ハ寄託事項ニアラズト云ハンモ立法者ニ於テ證券ノ流通轉帳ヲ望マハ須ラク證券ノ第三取得者ニ對シテ證券ニ顯ハレサル負擔ヲ課スヘカラス尙ホ此點ニ關シテ獨逸ノ商法學者中ニモ獨逸ノ商法法典ニ之レヲ證券ノ記載事項トシテ規定セザリシガ爲メニ議論アリ「スタウブ」氏ハ立替金ノ如キモノハ證券ニ明示シアラザレバ質權者ニ對スルヲ得スト論ジ「コサツク」氏等ハ質權ノ留保ナルモノハ之ヲ證券ニ記載セザルモ第三者ニ對抗スルヲ得ベク立替金ナル費目ヲ豫メ設ケ置カサルモ保管中ニ生シタル費用ハ當然留保スルコトハ自明ノ理ニシテ尙ホ又々倉庫

業者ノ此先取特權ナルモノヲ狹義ニ解釋セバ實際ニ左程ノ弊害ナシト論シ居レトモ余ハ嚴格ナル法理論トシテハ當事者間ノ關係ナル先取特權ヨリモ善意ノ第三者ヲ保護スヘキモノトシテ「スタウブ」氏ノ説ヲ正當ト信ズ殊ニ若シ或論者ノ如ク質入證券ノ取得者ヲ以テ動産質ナリトセハ倉庫業者ノ有スル此等ノ先取特權ハ動産保存ノ先取特權ナルヲ以テ民法上動産質ヨリモ其效力薄弱ナリト云ハサルヲ得サルコト、ナリテ「民法第三百三十四條」民法ノ規定ニ照ラスモ其主義一貫セサルヘシ「尤モ余ハ質入證券取得者ヲ動産質者ト見サルコトハ既ニ述ヘタル處ナリ然シ立法上ノ議論トシテハ此先取特權ヲ認メサレバ倉庫業者ハ之レガ立替ヲ一時タリトモ爲スコトヲ全ク拒ムニ至ルノ結果寄託貨物ヲナルヘク庫出セント欲スベク或ハ寄託貨物保存ニ必要ナル費用ヲ支出セザルニ至ルベシ故ニ此ノ如キ規定ヲ設クルハ經濟上ノ必要アルベシ而シテ此規定ハ公益上之ヲ設ケタル例外規定ナルヲ以テナルベク狹義ニ解釋セザルベ

カラズ從ツテ保管期間中ニ寄託者ガ庫移ヲ請求シタルガ爲メニ特ニ生ジ  
タル費用ノ如キハ證券取得者ニ對シテ先取特權ヲ主張シ得ザルモノト信  
ズ況ンヤ入庫以前ノ運賃若クハ庫入費用等ノ如キハ豫メ其旨ヲ證券ニ記  
載セサルハ先取特權ヲ有セザルコト云フマテモナシト信ズ然ルニ獨逸商  
法第四百二十條ハ此先取特權ニ相當スベキ規定ナルニ同條ニハ運送賃及  
ビ租税ノ立替金トアリテ一見此等ノ費用ヲモ包含スベキカ如ク引イテ我  
商法ノ解釋上疑問ヲ生スルノ恐レアラシム余ハ斷然此疑問ヲ排除セント  
欲ス蓋シ我商法ハ其規定ノ大部分ヲ獨逸商法ニ採リタルモ倉庫業ニ關ス  
ル規定ハ佛國ノ立法例ニ倣ヒタルモノニシテ全ク其規定ノ主旨ヲ異ニシ  
特ニ獨逸商法ノ倉庫ニ關スル規定ハ一枚證券制度ニシテ我國ノ如キ二枚  
證券制度ニ非ラザルノミナラズ獨逸商法ノ倉庫規定ヲ見ルニ倉庫證券ノ  
裏書移轉ハ寧ロ本則ニ非ラズシテ唯最後ノ一ヶ條タル第四百二十四條ニ  
其裏書移轉ノ效力ニ付規定セルノミナリ故ニ裏書移轉ヲ以テ本則トセサ

ル即チ倉庫證券ノ記名式ヲ本則トスル獨逸商法ヨリ見ルトキハ倉庫業者  
ノ先取特權ヲ擴張スルモ左程不便ヲ與ヘサルベキモ我商法ノ如キ倉庫證  
券ノ裏書移轉ヲ本則トスル立法例ニ於テハ當事者間ノ關係ナル先取特權  
ヨリモ一層倉庫證券ノ轉得者保護ノ爲メヨリシテ特ニ之ヲ狭義ニ且ツ嚴  
格ニ解釋スベキモノト信ズ  
而シテ余ガ此問題ヲ特ニ論セントスルハ今日我國倉庫業者ノ普通ノ取扱  
振ニ於テハ入庫以前ノ運賃ヲ一時倉庫業者ニ於テ立替ヘ以テ入庫貨物ノ  
吸收ヲ計レルノ状態アルヲ憂フルカ爲メニシテ蓋シ米穀等ノ如キ貨物ニ  
付テハ入庫以前ノ立替金頗ル多ク之ヲ以テ我商法第三百七十條ニ認メタ  
ル倉庫業者ノ有スヘキ先取特權アル立替金トナサバ法文ノ主旨ヲ誤マル  
モノト信シタルヲ以テ之ヲ注意セント欲スルナリ、  
尙ホ一言スヘキハ入庫以前ニ生ジタル運賃及ヒ立替金ハ運送人ノ手ヲ離  
テ既ニ荷主ノ名義ニテ保管セラル、ニ至リテハ運送人ト雖モ先取特權ヲ

有スヘキモノニ非ラス(民法第三百十八條)又タ入庫以前ノ立替金ガ假ヒ動  
産保存ノ費用ナリシトスルモ既ニ倉庫證券ノ移轉シタル後ハ債務者ノ財  
産ニ非ラサルカ故ニ之レ亦タ倉庫業者ト雖モ先取特權ヲ有スヘキモノニ  
非ラズ故ニ入庫以前ノ運賃及立替金ニ付第三者ニ對抗センニハ之レカ對  
抗ヲ要求スル旨ヲ豫メ證券上ニ明示セサルヘカラスト信ス既チ運賃及立  
替金ナルカ故ニ對抗力アルニ非ラスシテ對抗力アラシムル旨ヲ記載シタ  
ルカ故ニ對抗力アルモノナリ。

(註)コサツク氏獨逸新商法論ニ左ノ二節リ

「一切ノ倉庫持主必スシモ指圖式倉庫證券ヲ作成スル權ヲ有スルニ非  
ラス其之レアルハ之ヲ作成スヘキ國家ノ委任ヲ受ケタル者ニ限ル(商  
第六三條)  
指圖式倉庫證券ノ作成ニ付キ從來國家ノ委任アリシコトノ甚タ稀ナ  
ルハ世人ノ能ク知了スル所ナリ例令バ「ブレメン」ニ於テハ其地ノ倉庫

會社ニ「ハンブルグ」ニ於テハ其地ノ自由港倉庫會社ニ與ヘラレタリ、  
「記名式倉庫證券ハ現今ニ於テハ指圖式倉庫證券ニ比シ遙カニ能ク行  
ハル(以下略ス)

記名式倉庫證券ハ指圖式ナラザル點ニ於テ指圖式倉庫證券ト異ナル  
故ニ倉庫品ノ返還ハ特ニ證券ニ記載シタル受取人又ハ其讓受人ニ之  
ヲ爲スベク特ニ證券ニ記載シタル受取人又ハ其被裏書人ニ爲スヲ得  
ズ、

### 第四章 倉庫證券ニ關スル一枚證券制度

ト二枚證券制度トノ意義ヲ論ジ  
テ其得失ニ及ブ

#### 第一節 一枚證券制度ト二枚證券制度トノ意義

倉庫證券ガ有價證券トシテ殊ニ物權的引渡證券トシテノ一般ノ性質ヲ有  
スルハ勿論ナルガ他ノ物權的引渡證券タル貨物引換證及ビ船荷證券ハ各  
國法制與モニ皆ナ一枚證券制度ヲ以テ其作用ヲナサシムルモノナルニ倉  
庫證券ノミニ關シテハ特ニ立法上所謂一枚證券制度ト二枚證券制度トノ  
二主義ニ岐レ居ルナリ而シテ英吉利ヲ始メトシテ亞米利加西班牙和蘭等  
ハ一枚證券制度ヲ採用シ二枚證券制度ノ立法例ハ佛蘭西ヲ始メトシテ伊  
太利白耳義匈牙利葡萄牙及ビ奧地利等之レニ屬ス又々獨逸ノ商法ハ一枚

倉庫證券制度ニ  
關スル立法例

區別ノ標準

證券ノ制度ヲ採レルモ併シ各聯邦ノ自由ニ任セテ其邦内ニ於テ二枚證券  
制度ヲ採ルコトヲ禁ゼザルヲ以テ獨逸帝國ノ内アルサスロートリンゲン  
及ビブレメンニ於テハ法律ノ規定上二枚證券制度ヲ採用シタルコトアル  
モ現時ニ於テハ實際上質入證券ヲ發行シ居ラサルナリ(コサツク氏獨逸新  
商法論參照)

此一枚證券制度及ビ二枚證券制度ヲ區別スル標準ハ決シテ其發行スル證  
券ノ數ニヨルモノニ非ラスシテ讓渡及ビ質入ヲ爲スニ當リ初メヨリ證券  
ノ目的ヲ特定シテ預證券及ビ質入證券ヲ發行スルモノヲ法律上ノ二枚證  
券制度ト稱シ一枚ノ證券ヲ以テ質入ニモ讓渡ニモ使用シ得ルモノヲ一枚  
證券制度ト稱ス而シテ絕對ニ證券ノ發行ヲ一枚ニ止ムル場合ニハ其性質  
及ビ作用ニ於テ他ノ物權的引渡證券ト異ナル所ナキヲ以テ此ニ之ヲ縷述  
セズ唯英米ニ於ケル一枚證券制度ニ關シテハ特ニ述ブベキモノアリ  
英吉利亞米利加等ニ於テモ固ヨリ寄託貨物ニ對シ證券ヲ二枚發行スルコ

英國ノ倉庫證券  
制度

第四章 倉庫證券ニ關スル一枚證券制度ト二枚證券制度トノ意義ヲ論ジテ其  
得失ニ及ブ

トアリ然レトモ之レ單ニ證券ノ數ガ二枚ナルノミニシテ一枚ノ證券ヲ以テ質入ニモ讓渡ニモ使用シ得ベキ性質ヲ有スルナリ今少シク英國ノ制度ニ付テ説明センニ先ツ貨物ヲ預ル場合ニ日本ノ各倉庫會社ニ於テ單純ナル保管證書ヲ發行スルト等シク「ドック、タリー」ト稱スル受取證ヲ交付スルコトアレトモ讓渡及ヒ金融ノ目的ニ使用スル爲メニ「ワーラント」ト稱スル證券的券ヲ發行シ此「ワーラント」ハ以テ質入ヲモ讓渡ノ目的ヲモ達スルコトヲ得而シテ「ワーラント」ヲ以テ一方ニ金融ノ目的ヲ計ル場合ニハ金融ハ大抵貨物ノ價格ノ三分ノ二若クハ四分ノ三位ニシテ残りノ三分ノ一若クハ四分ノ一ノ範圍ニ對シテハ之レヲ手附トシテ貨物ノ賣買ヲ爲スモノ多シ而シテ此三分ノ一若クハ四分ノ一ノ範圍ニ於テ殘ルベキ價格ヲ有シタルモノヲ賣買ノ手附ニ供スル目的ニテ「ウエートノート」ナルモノヲ倉庫ニ請求シ置キ手附トシテ代價ノ一部ヲ受取リタルトキニ之ヲ買主ニ交付ス故ニ「ウエートノート」ノ所持人ハ「ワーラント」ノ所持人「ワーラント」ヲ

ニテ質入ニ供シタル場合カ有セル債權ヲ辨濟期迄ニ辨濟シテ此二種ノ證券ヲ同時ニ呈示セザレハ全ク無効ニ歸シ其權利ヲ失フヘシ而シテ此場合ニ「ワーラント」ヲ所持セル質權者ハ其擔保タル「ワーラント」ヲ公賣ニ付シ其債權ヲ全フスルコトヲ得又「ワーラント」ニヨリ未タ質權ノ設定ナク寄託者ノ手ニ存スルトキハ手附ノ無効トナルニヨリ寄託者ニ於テ其貨物ノ完全ナル所有權ヲ取得スルナリ  
上述ノ次第ナルヲ以テ特ニ注意スベキハ英國ニ於ケル證券二枚ノ發行ハ一ツハ買主ヲ保護スルカ爲メニ特ニ手附ニ對シテ一個ノ物權的證券ヲ發行スルコト及ヒニ「ワーラント」ニヨリテ流質ヲ認ムルニアリ尙ホ英吉利ニ於テ實際ノ取扱上「ワーラント」ヲ以テ金融ヲ爲ス場合モ所有權ノ讓渡時爲ス場合ト同一ノ仕方ニテ證券ニハ白地裏書ヲナスノミニシテ尙ホ擔保差入書トモ云フベキ所謂「レター、オフ、ハイボテケーション」ナルモノヲ同時ニ差入レ居レリ又亞米利加ニ於ケル倉庫證券ニ對スル質權設定ノ取扱



佛國ノ倉庫證券  
制度ノ沿革

振リモ大體之レニ同シキガ亞米利加ニテハ「ワールラント」ニ副ヘテ約束手形ヲ債權者ニ差入ル、ナリ又々和蘭ニテハ證券ノ外ニ特別ノ貸借證書ヲ副ヘテ銀行ニ差出シ居レル等多少ノ相違ハアレトモ皆之レ學者ノ所謂一枚證券制度ヲ採用セルモノナリ、

次ギニ二枚證券制度ハ我現行商法ノ採用セル所ニシテ倉庫ニ關スル此二枚證券制度ノ沿革ハ其根原ヲ佛蘭西ニ發シタルナリ初メ十九世紀ノ中頃ニ於テ佛國ハ財政上及ビ商業上ニ頗ル恐慌ヲ來タシ諸般ノ取引非常ニ滯シ貨物市場ニ堆積シ製造業者ハ金融ニ困ミタルヲ以テ同國政府ハ之レガ救濟策トシテ法律ノ規定ヲ以テ質入ニヨル金融ヲ保護シ以テ先ツ質入ヲ爲シ置キ尙ホ其殘額ヲ預證券ニヨリテ融通セシムルコトニ付キ特ニ獎勵シタルニ基因セルモノナリ故ニ其精神ニ於テハ利息制限法等ト同シク佛蘭西民法ノ主義ナル債務者(即チ荷主)ヲ救ヒ流質禁止ノ趣旨ヲ掬ミタルモノナリ而シテ其法律上ノ議論トシテハ多少巧ミナル所アレトモ實際ノ

運用ニ至リテハ次節ニ述フルガ如ク反ツテ債務者ノ信用ヲ薄弱ナラシメ且取扱ノ不便ヲ來タシ經濟社會ノ圓滑ヲ害スルモノナラント思ハル現ニ「ソーゾー」氏ハ佛國倉庫法ヲ以テ民間ノ必要ヨリ發生セシモノニ非ラスシテ上ミ政府ヨリ施行セシモノナリ即チ國內ノ窮狀ヲ救ハシガ爲メニ發布セラレシヲ以テ從ツテ之レヲ單純ナル繙譯的法律ナリト云フヲ得ベシト論セリ、唯タ將來荷主ノ信用増加シ且余カ既ニ第二章第二節(三)ニ於テ述ヘタルカ如ク質入證券ノミニヨル流質制度ヲ採用スルニ至ラハ銀行トシテモ必ラスシモ貸附ノ爲メニ預證券ト質入證券トヲ取得スルカ如キコトヲナサ、ルベク一般ニ商取引ニ於テモ預證券ヲ以テ倉庫業者ノ保證アル商品トシテ取扱フニ至ラバ充分ニ其效果ヲ顯ハスコトアルヤモ知レザレドモ今日ニ於テハ到底理想ノ如ク兩證券ハ互ヒニ分離シテ活働シ得サルナリ如此キハ唯机上ノ空論ニ過キササルベシト信ズ因テ次節ニ於テ兩制度ノ得失ヲ論セント欲ス、

權實權表顯  
論究シタルハ以テ  
マレモ基礎ナリ  
若眼ノモナリ

註「ソーズ」氏ハ佛國法律ヲ批評シテ曰ク佛國倉庫ハ擔保者ハ爲メニハ  
ミ組織セラレタルモノニシテ露骨ニ之ヲ言ヘバ實ニ商法上ノ必要ヨ  
リシテ餘義ナク設ケラレ且ツ僅カニ完全セル質屋ノ如キモノニシテ  
單ニ其形式ヲ異ニシタルモノニ外ナラズト而シテ「コストネツキ」氏  
ガ英國及ビ大陸ニ於ケル倉庫證券ノ觀念ヲ比較スルニ先ツ二者與モ  
ニ二枚證券制度ナリト断定シ且ツ英國ノ制度ハ「ウエートノート」ニヨ  
ル解除條件付所有權取得ニシテ即チ「潛レタル質權」ナルガ大陸法ハ「顯  
ハレタル質權」ノ制度ヲ採レルノ差異アルノミト論シタルトモ余ハ之  
ヲ以テ強ヒテ單ニ質權ノ方面ハ「ミヨリ論」シタル偏狹ノ議論ニシテ英  
國倉庫法ヲ大陸倉庫法ノ觀念即チ質入ヲ第一目的ト爲ス觀念ヲ以テ  
相比較シ得ル方面ハ「ミヨリ觀察」シタルモノニ過キサル僻論ナリト信  
ス

## 第二節 一枚證券制度ト二證券制度トノ得失

倉庫證券ノ二枚證券制度ヲ主張スル論者ハ寄託貨物ヲ一方ニハ質入證券  
ニヨリテ融通シ乍ラ別ニ預證券ヲ以テ讓渡其他ノ作用ヲ爲サシメ貨物ノ  
價額ヲ充分ニ資金ノ運用ニ供セシメ以テ質權者ノ爲メニ所有權ヲ奪ハル  
、コトナカラシメントノ議論ニ出テ、一見巧妙ナルカ如ク殊ニ又タ對物  
信用ニ加フルニ對人信用ヲ以テセントシ手形法ニ關スル償還請求ノ法理  
ヲ應用シテ債務者第一質權設定者及ビ質入證券ノ總テノ裏書人ニ連帶責  
任ヲ負ハシメタルニ至リテハ實ニ預證券ヲ離レタル質入證券流通獎勵ノ  
爲メニハ盡サ、ル處ナキガ如シト雖モ之レ商取引ノ實際ヲ知ラザル迂論  
ニシテ余ハ一方ニ斯クマテニ質入證券ノ流通轉帳ヲ計ルノ必要ナク又タ  
同時ニ斯クマテニ所有權ヲ保護スヘキ必要ナシト信ス因テ順ヲ逐テ之ヲ  
細論セント欲ス、

法制進化ノ上ヨ  
リ論ス

先ツ今日二枚證券制度即チ我國現行倉庫證券制度採用ニ關シテ我國ニ於ケル一部ノ法學者ノ意見ニヨレハ近世立法ノ大勢ナリトシテ佛國ハ千八百四十八年ノ一枚證券制度ヲ千八百五十八年ノ法律ヲ以テ二枚證券制度ニ改メ白國モ千八百六十二年ノ法律ヲ以テ二枚證券制度ヲ採用シ埃國モ千八百八十九年ノ倉庫法ヲ以テ二枚證券制度ヲ採用シ其他伊太利、葡萄牙、匈牙利、亞爾然丁等ハ最初ヨリ此二枚證券制度ヲ採用シタルモノニシテ法制進化ノ上ヨリ見ルモ二枚證券制度ハ最モ進歩シタル立法例ナリト論ズル者アリト雖モ其立法例ニ關スル立論ノ如キハ皆ナ此レ所謂佛蘭西法系ナル唯一ノ環内ヲ脱セザル同一法制ナルコトニ著目セザル議論ニシテ若シ夫レ法律思想ノ系統ヨリ云ハ、英米法系ニ屬スルモノハ皆ナ一枚證券制度ヲ採用シ殊ニ又タ獨逸ノ如キハ最近ノ立法例トシテモ尙ホ一枚證券制度ヲ本則トシ露國ノ如キハ一枚證券制度ト二枚證券制度ト併用セルノ事例ヲ隱蔽セルモノト云フヘキナリ、

二枚證券制度ノ取扱上ノ不便

次、**キニ之ヲ實際ノ取扱手續上ノ便否ヨリ論センニ必ラス常ニ證券ヲ二枚發行スヘキモノトセハ兩證券ニ列記事項ヲ一々記入スルカ如キ取扱上ノ不便アリ而シテ倉庫證券發行ノ取扱上其證券記載ノ必要事項商法第三百五十九條列記事項中少シニテモ差異スヘキモノアルトキハ必ラス個々別々ノ證券ニ分割シテ之ヲ發行セサルヲ得ス從ツテ質權設定ノ際ニハ又タ此等多數ノ雙方ノ證券ニ質權事項ヲ記入スヘキ必要アリ此レ當事者其手數ニ苦シム所ナリ、**

又タ我現行商法ノ精神トシテハ恐ラク質權ノ設定シアル倉庫證券ノ儘ニテ一部出庫ヲナサシムルコトヲ想像セサリシナランモ(既ニ此斷定ニ付テハ余ノ論述シタル所ナリ)今日寄託者ノ多數否ナ大多數ハ皆ナ質入證券裏書以後即チ質權設定以後ニ於テ一部出庫ヲ爲シ居レルナリ而シテ此ノ一部出庫ヲ證券ノ二枚發行シアル際ニ於テ適法ニ行ハントスルハ既ニ第二章第三節ニ於テ述ヘタルカ如ク繁雜ナル手續ヲ要シ其出庫ノ度毎ニ兩證

券ヲ呈示シテ之レニ同一ニ其事項ヲ記入スルノ必要アリテ頗ル其煩ニ堪  
エ難キ處ナリ、

更ニ手數ノ繁雜ナルコトヨリモ一步ヲ進メテ兩制度ノ内容ヨリ謂ハ、既  
ニ第三章第四節ニ於テ論シタルカ如ク我現行法ハ預證券及質入證券雙方  
ノ流通轉帳ヲ目的トシタルヲ以テ質權ノ辨濟ナキトキハ拒絕證書ノ作成  
ヲ以テ競賣ノ條件トシ且ツ其流通轉帳ヲ扶ケントシテ對人信用ヲ併加ス  
ルカ爲メニ償還請求權ヲ認メタルモノナレトモ此對人信用ヲ利用セント  
セハ預證券ノ伴ハサル質入證券ノ轉得者ハ期限後短期間内ニ先ツ拒絕證  
書作成ノ如キ大々的煩勞ヲ要スルノミナラス二週間以内ニ之レカ競賣ヲ  
モ請求セサルヘカラサルノ不利益ニ陥ルヘシ故ニ寧ロ斯如不便且不利益  
ナル權利關係ハ當事者ノ爲メニモ之ヲ認ムルノ必要ナキコトハ既ニ第三  
章第四節ニ於テ論シタル處ナリ此ニ對シテ「コスタネッキ」氏ノ如キハ其不  
便且不利益ナルコトヲ認メ乍ラ此償還請求權ハ選擇的權利ナルヲ以テ之

レカ爲メニ利アルトモ害ナシト辯解スレトモ余ハ立法者ガ手形ト同一ニ  
視ルベカラザル倉庫證券ニ對シテ徒ラニ手形ニ關スル理論ヲ準用セント  
スルノ非ヲ斷言セント欲ス、

蓋シ以上ノ如ク二枚證券制度ニ對シテハ非難スベキモノアルニモ係ラズ  
此制度ガ發達シ來レルコトハ亦願ミテ其因來スル所ヲ察スレバ不得已モ  
ノアルガ如シ蓋シ佛國ノ千八百五十八年ノ法律ハ其當時ノ英國倉庫法ヲ  
研究シタルノ際ニ英國倉庫法ハ多年ノ商業取引ニ因源シテ發生セル處ナ  
ルヲ以テ商業道德上實際ニ圓滿ニ行ハレ得ルモ其形式ノミヲ見ルトキハ  
如何ニモ不完全ニシテ「シモンソン」氏ガ英國ニ於ケル狀態ヲ評シテ「ソーラ  
ント」ニ白地裏書ヲ爲シタルノミニテ債權者ニ交付シ質入ナルカ讓渡ナル  
カヲ明示セズ又タ辨濟期限ヲモ記載セザル裏書ハ詐欺行爲ニ門戸ヲ開放  
シ債務者ヲ全ク債權者ノ手ニ委スルモノト云フベシト謂ヒシハ此レ實ニ  
法ヲ死物トシタルモノニシテ成文法律以外ニ商業道德ノ存在ヲ無視セハ

（注意）若シ一  
頁擔保物ハ分  
スルトキハ其  
ヒ其主キ得テ  
トナスヲ得サ  
ニ至ルヘシ立  
者タル者深ク  
點ヲ考フヘキ  
ナ

又々不得已結論ト云フヘシ當時佛國ニ於ケル商業ノ衰頽ハ法律以外何等  
頼ムベキ處ナカリシガ爲メナランモ余ハ白地ノ裏書又々質入ナルカ讓渡  
ナルカヲ明示セザル裏書又々辨濟期限ヲモ記載セザル裏書ハ此レ最モ進  
歩シタル商業道德ヲ基礎トセルモノト信ズ此レニヨリテ質權者ハ最モ完  
全ナル對物信用ヲ利用シ得ベク從ツテ充分ナル資金ヲ融通シ以テ貨物所  
有者ノ希望ヲモ満足セシムルヲ得ヘク又々辨濟期限ニ強ヒテ拘泥セズシ  
テ擔保物ノ眞ノ價額ニマテ近キ信用ヲ與ヘ且ツ利息取立ヲ猶豫シテ貨物  
所有者ノ利益ヲ満足セシムルヲ得ト云フベキナリ而シテ又々余ハ質入證  
券ノ流通轉帳ノミナラス預證券ヲ別個ニ流通轉帳セシムルハ或ル場合ニ  
ハ貨物所有者ヲシテ質權者ニ對スル對人信用ヲ失ハシメテ自カラ益ル、  
ノ愚ヲ演ズルコトアルベキヲ斷言シ得ベシト信ズ故ニ論シテ此ニ至ラバ  
二枚證券制度ヲ採用シ預證券ト離レタル質入證券ヲ強ヒテ轉帳セシメン  
トシタル彼ノ佛蘭西法系ノ立法例ガ採用シタル償還請求權即對人信用利

用策ハ反ツテ經濟上ノ着眼ヲ誤マレルコト明カナルベシ殊ニ反對論者ハ  
立法ノ遠因トシテ其裏面ニ於テ佛國ガ預證券ヨリ分離シタル質入證券ノ流  
通轉帳ヲ特ニ獎勵シ以テ商工業ノ窮ヲ救ハントシタル保護政策ニ出テタ  
ルコトヲ考フヘキモノナリ蓋シ佛國ニ於テハ佛蘭西銀行及ビ「スー、コントア  
ール、デスコント」ノ如キハ他ノ銀行ニ比シテ確實ヲ重ンジ通常ノ信用アル商  
業手形ヲ割引スルニモ佛蘭西銀行ハ正確ナル三人ノ保證人ヲ要シ「スー、コン  
トアール、デスコント」ハ二人ヲ要セリ然ルニ質入證券ニ付テハ實際上普通  
ノ商業手形ト同様ニ割引流通スルモノナレドモ特ニ兩銀行トモ一人ノ保  
證人ヲ省ケリ其理由トスル所ハ一方ニ於テ質入證券ハ保管貨物ヲ其擔保  
トシテ之レニヨリテ大ニ其信用ヲ確保サル、ノ長所ヲ有スルノミナラス  
選擇的償還請求權アリトナスニアランモ之レ實ハ主トシテ沿革上其當時  
流通ヲ獎勵スルノ保護政策ニ出テタルニ外ナラス故ニ我國ニ於テモ此ノ  
保護政策ヲ中央銀行ニ於テ果シテ使用セハ兎ニ角ナレトモ我國ノ如キ此

等ノ保護政策ナキニモ係ハラズ實際ノ取引ニ於テ預證券ヲ離レタル質入證券ノ流通轉帳ヲ望ムガ如キハ本ニ縁リテ魚ヲ求ムルノ類ナリ若シ又タ其他ノ佛蘭西法系ニ屬スル白耳義、埃太利、伊太利等ノ立法例ヲ採用シテ法律進化ヲ速斷セントスルカ如キハ最モ愚論ノ甚タシキモノニシテ寧ロ此等ノ法系ニ屬セル諸國ハ皆經濟上ノ貧弱國ニシテ商業取引ノ充分ニ發達セサル結果質屋取引ヲ以テ即チ先ツ擔保ノ道ヲ講スベキ狀態ヲ以テ滿足セザルベカラザル經濟上ノ事情ニアルモノニシテ之レヲ以テ法制進化ヲ云々セントスルハ到底其資格ナキモノナリ然ルニ我國ニ於テ此等ノ立法例ニ倣ヒテ得々然タラントスルハ寧ロ我國商業發達ヲ害スルモノト信ス、上述ノ次第ナルヲ以テ余ハ質權設定以後ニ於ケル證券ノ流通轉帳スルコト殊ニ預證券ヲ離レタル質入證券ノ觀念ヲ擔保付手形ノ觀念ト結付ケタルコトハ到底今日ノ我經濟界ニハ行ハレ得サル現象ナリト信ズ現ニ質入證券ニ對シテ第一ノ質權設定以後ハ一部出庫ノ便宜ノ爲メニ貨物所有者

倉庫證券ノ活動範圍

モ銀行モ互ヒニ特約シテ預證券及質入證券ノ裏書禁止ヲ記入スルモノアルニ考フルモ我國ニテハ預證券ノ伴ハサル質入證券ノ流通轉帳ヲ以テ寧ロ重要視セサルコトヲ知り得ヘシ又タ預證券ノ流通ノ如キモ之ヲ賣買ノ目的ニ使用セサル限りハ銀行ヲ二重ニ利用スルコト、ナリテ反ツテ信用制度ヲ害スルノ恐レアリ結局債務者ノ不利益ナルヲ以テ寧ロ禁流通トナスカ或ハ一步ヲ進メテ初メヨリ質權者ニ交付シ置キテ質權者ヲ安心セシメテ對人信用ヲ充分ニ利用スルニ如カスト信ス殊ニ禁流通トナスコトカ一部出庫ノ場合ニ重要ナルコトハ既ニ本書第二章第三節ニ於テ論シタル處ナリ故ニ一方ニ二枚證券制度ヲ採用シ乍ラ第一ノ質權設定以後ハ預證券ヲモ質入證券ヲモ禁流通トナシ若クハ雙方トモニ質權者ニ交付スルヲ得策トスル以上ハ二枚證券制度ノ精神ニ付テハ摸範トスヘキ長處ナシト信ス唯將來預證券ヲ以テ倉庫ノ保證アル商品トナシテ尊重スルニ至ラバ物權的效力アル證券ヲ二枚發行スルコトヲ以テ利益トスルニ至ラン、

要之余ノ意見トシテモ單純ニ物權的證券一枚ヲ以テ足レリトスルニ非ラサルモ法律學者ノ所謂一枚證券制度ヲ採用セント欲ス即チ其活働ノ方面ヲ始メヨリ限定セントスル現行法ノ二枚證券制度ヲ革メントスルニアリ即質入證券ナル特種ノ名稱及ヒ特種ノ觀念ヲ打破シテ預證券ノ正本及ヒ複本ノ名稱ヲ以テ英國ニ於ケル倉庫證券ノ觀念ヲ實行セント欲スルニアリ故ニ此見解ヨリ見レハ東京商業會議所ノ商法修正建議案(本書附録參照)ニ於テ預證券ト質入證券トヲ分割請求シ得ヘキモノト革メ乍ラ尙ホ質入證券ナル名稱ヲ保存シタルハ全ク無意義ノ修正ト信ス又大阪商業會議所カ現行ノ二枚證券制度ノ存置ヲ主張セル理由トシテ同地ニテハ現今ニテモ手附賣買ヲ殘金ニ關シ質權設定ノ形式ニテ證券ヲ使用セリト主張セルハ之レ二枚證券制度ノ沿革ヲ無視セルノミナラス虛欺ノ意思表示ノ法律上無効ナルコトヲ思ハサルノ暴言ニシテ其結果質權事項タル利息ノ定メナキニ窮セルヲ明言セルカ如キハ主義ノ一貫セサルカ爲メナリトス

## 第五章 我商法ノ倉庫ニ關スル規定ノ

### 缺點

前章ニ於テ述ベタルガ如ク我商法ノ倉庫ニ關スル部分ハ保護政策ヲ採リタル佛蘭西法ノ倉庫規定ニ倣ヒタルヲ以テ之レヲ保護政策ヲ採ラザル我國ヨリ見ルトキハ自ラ木ニ竹ヲ繼キタルノ觀アリ殊ニ匆卒ノ起草ニ係ルヲ以テ缺點トスベキ所尠ナカラズ而シテ其缺點ノ内經濟上ノ意見ニ關スルモノ及ヒ既ニ本書第三章ニ於テ疑問トシテ論シタルモノハ爰ニ之レヲ述ベス今單ニ本書第三章ニ論シタル處ヲ補ヒテ法律上ヨリ見タル缺點ヲ指摘セント欲ス、

一、先ツ商法第三百六十六條ニ預證券又ハ質入證券カ滅失シタルトキハ所持人ハ相當ノ擔保ヲ供シテ更ラニ證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得トアレトモ若シ質入證券ニ裏書アル場合ニ之レヲ滅失シタルトキハ本條ニ

新證券ノ交付ニ付テハ証券ニ記載スル事項ニ關シテハ証券ノ記載ニ依リテ之レヲ證明スルコトヲ得トス

ヨリ倉庫ハ元ノ證券ヲ交付スルモ其證券ニ第一質入裏書ヲナシタル債務者及ヒ其後裏書ヲナシテ保證ノ地位ニ立ツヘキ裏書人ハ滅失シタル質入證券ニ對シテ先キニ爲シタルト同一ノ裏書ヲ爲スベキ義務ニ應スルヤ否ヤハ問題タルベキニ我商法ニ其規定ナキ結果トシテ此場合ニハ先キニ保證ノ地位ニ立チタル裏書人ハ皆其責任ヲ免カレントシテ之ニ應セサルベシ又タ預證券ニ質入裏書ノ記載アリシ場合ニ新證券ニ對シテ第一ノ質權者ハ質權事項ノ記載ヲ他人ノ爲メニナスコトヲ承諾スルヤ否ヤハ疑ヒナキヲ得ス故ニ其裏書事實ヲ倉庫業者ニ證明セシムルノ道ヲ講スヘシ、

質權設定ニ付テハ倉庫ヲシテ署名セシムヘシ

(二)次ギニ我商法ハ預證券ノ讓受人ヲ保護スルガ爲メニ第三百六十七條ヲ以テ第一ノ質權者ガ債權額其利息及辨濟期ヲ預證券ニ記載シテ之レニ署名セザレハ質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルヲ得ズトアルハ預證券ノ所持人ヨリ見レハ敢テ不可ナルニ非ラザルモ之レヲ質權者ヨリ見レバ不

完全ナリ若シ質入證券ノ裏書讓渡ヲナサントスル場合ニ取得者即チ質入證券ノ被裏書人ハ裏書人カ果シテ預證券ニ此等ノ事項ヲ記載シ且署名シ置キタルヤヲ確ムルノ必要アルヘキニ預證券ノ轉帳シタル場合ニハ之レヲ確ムルニ途ナク然カモ之レヲ確メサレバ質入證券ノ所持人トシテ其權利ヲ他人ニ對抗シ得サルコトアラシク憂フヘシ故ニ預證券ニ記載セラレタル質權事項ヲ知ラスシテ流通轉帳シ得ヘキモノト想像スルハ恰モ之レ人ニ惡意又ハ過失ナキヲ斷定スルモノト等シク實際ニ適合セサルノ言ナリ余ハ質權設定ノ爲メニ質入證券ヲ交付スルノ際預證券ノ所持人ナル質入義務者ヲシテ倉庫ニ對シテ質權事項ノ通知ヲナサシムルハ必要ノコトナリト信ズ否ナ單ニ通知セシムル義務ノミニテハ未タ不完全ニシテ第一ノ質入裏書ニハ倉庫營業者ヲシテ干與セシメ之ニ署名セシムルノ必要アラシメサレハ質入證券ノ所持人ハ到底満足シ得ル筈ナキナリ(附錄東京商業會議所意見及ヒ大阪商業會議所修正案參



倉庫證券ノ移轉  
ハ其度毎ニ倉庫  
シニ通知セシムル  
ハ

照、又タ商法第三百八十一條同第三百八十三條第二項ノ規定ノ如ク倉庫  
ガ寄託物ノ返還ヲナスガ爲メニハ常ニ預證券ノ所持人ヲ知り得ベキコ  
トハ實ニ我商法ニ於テモ精神トシタル處ニシテ我商法ニ質入證券及ヒ  
預證券ノ移轉ニ關スル通知規定ナキハ此等ノ規定ニ考フルモ前後相一  
貫セザルモノナリ殊ニ又質入證券ノ移轉ニ付テハ既ニ一部出庫ニ付テ  
述ヘタルカ如ク質權者ヲ知り得ルコトハ頗ル便宜ナルノミナラス我商法  
三百七十九條ノ規定ヲ見ルニ預證券及ヒ質入證券ヲ作リタル場合ニ於  
テハ之ト引換ニ非サレバ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ズトアリテ  
假令商法第三百八十條ノ特別規定(全部供託)アリト雖モ本則トシテハ預  
證券ノ所持人ハ質入證券ノ所持人ヲ知り之レニ對シテ債權ヲ辨濟シテ  
質入證券ヲ回收シタル上ニテ返還請求スベキコトノ精神ヨリ見レハ質  
入證券ノ讓渡アリタル場合ニモ其讓渡事實ヲ預證券ノ所持人ニ知ラシ  
ムルノ方法ヲ立ルヲ相當ト信ズ又タ商法第三百八十條ニ付テ云ハハ債權

ノ辨濟期前ニ預證券ノ所持人ガ寄託物ノ返還ヲ求メントスルモ質入證  
券ノ所持人ヲ知ルヲ得ストセハ常ニ一方ニハ無益ニ辨濟期迄ノ利息ヲ  
供託セサルヘカラザル不便アリ又タ倉庫トシテハ其法定利息ノ處分ニ  
窮スルノ愚ヲ見ルニ至ルヘシ故ニ第一ノ質權ノ設定ハ勿論尙ホ預證券  
ノ移轉及ビ質入證券ノ移轉ハ其度々之レヲ倉庫ニ通知セシメテ倉庫ハ  
之レヲ問合ハス者ニ對シテ周知セシムルノ義務アラシムヘキナリ而シ  
テ預證券ニ第一ノ質權事項ノ記入セラレアルコトニ付テハ倉庫ヲシテ  
保證セシムルノ必要アルコトハ既ニ前述シタル所ナリ、  
又タ第三百八十一條ニモ倉庫ガ寄託貨物ヲ返還スル場合ニ付寄託者又  
ハ預證券所持人ガ寄託物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ受取ルコト能ハサル  
場合ニ其貨物ヲ供託スルカ又ハ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲シ之レヲ  
競賣シテ其金ヲ供託シ其事實ヲ寄託者又ハ預證券ノ所持人ニ通知スベ  
キモノト定メアルモ預證券ハ裏書ヲ以テ轉帳シ行クコトヲ本旨トスル

拒絕證書作成ハ  
無用ノ手續ナリ  
又タ假ヒ必要ナ  
リトスルモ便宜  
方法ナシトセス

以上ハ預證券ノ所持人ニ對スル通知ナルコトハ無意義ニ終ルベシ之レ  
亦タ預證券ノ轉讓ニ付テハ轉得者ヲシテ之ヲ倉庫ニ通知セシムルノ必  
要アル所以ナリ、

(三) 第三百六十八條ニヨレバ辨濟ヲ受ケサル質入證券ノ所持人カ其權利ヲ  
行使セントスルニハ競賣ノ請求ヲナスニモ又タ償還ノ請求ヲナスニモ  
常ニ拒絕證書ヲ作成スルノ必要アレトモ元來拒絕證書ノ作成ナルコト  
ハ本書第二章第二節ニ於テ述ベタルカ如ク現行法ノ規定ニヨレハ非常  
ニ手數ヲ要スルノミナラズ手形ノ如キ無擔保物ニ對シテハ償還請求權  
行使ノ必要アランモ對物信用ヲ主トスベキ倉庫證券ニハ競賣權ノミニ  
テ足り左程必要ニ非ラス現ニ二枚證券制度ヲ採用セル白耳義及ビ澳地  
利ノ倉庫法ニテハ與モ之ヲ不必要ト認メ居ルナリ殊ニ我手形法ニテ  
ハ一方ニ拒絕證書作成ノ免除ヲ認メ乍ラ倉庫證券ニ對シテハ特ニ之カ  
免除規定ヲ設ケサルハ(商法第三百六十八條)其權衡ヲ失シタルモノト云

質入證券所持人  
ニハ償還請求權  
ナクハ預證券  
ナクハ預證券  
ナクハ預證券

アベキナリ然ノミナラズ我商法ノ規定ニヨレバ手形ニ關スル規定ニ從  
ヒテ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ストアリテ立法者ハ素ト倉庫證券  
ノ拒絕證書作成ヲ手形ノ場合ト同様ニ簡單ナルモノト誤解セシヲ以テ  
左程念頭ニ置カサリシナランモ第三百七十三條ノ結果トシテ一定ノ短  
期日內ニ非常ナル手數ヲ要ス拒絕證書ヲ作成セシメサレバ償還請求權  
ヲ失フニ至ルベク之レ實際上償還請求權ノ蔑視セララル、所以ナリ、  
尙ホ万一拒絕證書ノ作製ヲ法律上相當ナリトスルモ倉庫證券ハ其發行  
ノ度毎ニ其記載事項ヲ倉庫業者ノ帳簿ニ記載シアルヲ以テ拒絕證書ニ  
一々其記載事項ヲ附記セサルモ單ニ證券ノ番號ヲ記載スレハ其呈示シ  
タル證券ノ性質ハ相手方ノ爭ヒ得サル所ナルヲ以テ強ヒテ拒絕證書ノ  
作製ヲ複雜ナラシムル必要ナシト信ズ、

(四) 我商法第三百七十二條ニヨレハ質入證券ノ所持人ヲ保護スルカ爲メニ  
債務者及ヒ其他ノ質入證券裏書人ニ對シテ其不足額ヲ償還請求スルコ

トヲ得ト規定シ乍ラ同第三百七十三條ヲ以テ拒絶證書作成ノ日ヨリ二週間内ニ寄託物ノ競賣ヲ請求セサリシトキハ裏書人ニ對スル請求權ヲ失フトアリ故ニ質入證券ノ所持人ガ償還請求權ヲ失ハサラントセハ辨濟期限後直チニ競賣ヲ請求スヘキ必要アリ之レ實ニ法律ハ競賣ヲ獎勵スルモノニ等シク一方ニ質入證券ノ所持人ノ權利ヲ強ヒテ勵行セシメ其結果預證券ノ所持人ヲ窮地ニ陥レ乍ラ其預證券ノ轉帳流通ヲ計ラントスルハ實ニ愚論ト云フベシ蓋シ商品ノ如キハ時期ニヨリテ非常ニ價額ニ高低アルヲ以テ一旦債權ノ辨濟期來レリトテ直チニ競賣セシムルガ如キハ經濟上不利甚タシキモノニシテ現ニ我商法ノ下ニ於テモ債權者タル銀行ハ償還請求權ヲ獲得セントシテ此暴舉ニ出デタルコトヲ未タ嘗テ聞カサル處ナリ蓋シ債務者ヲ漫リニ苦シムルハ反ツテ債權者ノ爲メニモ永遠ノ不利益ナレバナリ然ルニ論者或ハ之ヲ以テ撰擇償還請求權ナルカ故ニ差支ヘナシトカ償還請求權ヲ認ムルハ質入證券ノ流通

ヲ謀ル上ニ於テ不得已議論ナリト云ハンモ此ノ如キハ實ニ立法ノ根本ヲ誤マレルコト既ニ余ガ本書第三章第四節ニ詳論シタル所ナリ但倉庫證券ノ無記名式ヲ認メサル今日ニ於テハ第一債務者ノミハ償還義務アリトスルモ幾分カ立論ノ餘地アランモ余ハ之ニ反對セント欲ス、

(五)次キニ我商法第三百七十五條ニヨレバ寄託者又ハ預證券ノ所持人ニ見本ノ抽出ヲ求メ得ルコトヲ當然ノ權利ト爲シ乍ラ其抽出シタル見本ノ數量ヲ證券ニ記入セシムルコトヲ條件トセサルナリ(獨逸商法亦然リ)然ルニ我保税倉庫法施行細則第十六條ニテハ之ヲ記入スベキモノトセリ故ニ先ツ立法論トシテモ何レカノ主義ニ一定スルヲ當然ト信ス而シテ余ノ意見トシテハ我商法ノ規定ニテハ見本抽出ハ質入證券ノ所持人ガ有セサル特種ノ權利ニシテ寄託質物ノ減少即價額ノ減少ヲ生スルモノナルヲ以テ嚴格ニ保税倉庫ト同一ノ主義ヲ採ルヲ相當ト信ズ特ニ洋酒等ノ如キハ見本トシテ一本ヲ抽出スル能ハス若シ一本ヲ抽出セバ少ナク

トモ其同一函中ニアルーダースハ其價格ヲ失スルニ至ルベシ又々若シ見本抽出ヲ證券ニ記入セサルモノトセバ見本抽出權ハ少ナクトモ見本品ノ備アル貨物ニ限ルベキモノト信ズ、

商法ノ用語一定ナルガ爲メニ解釋上疑義ヲ生ス

(六)次キニ我商法第三百七十條ト同第三百七十七條トハ法律上ノ用語前後相差異セルコト甚シクシテ頗ル曖昧ナリ蓋シ第三百七十條ハ倉庫業者ノ先取特權ノ方面ヨリ規定シ第三百七十七條ハ此請求權行使時期ノ方面ヨリ規定シタルモノニシテ其列舉セル處ハ何レモ與モニ倉庫ニ關スル費用ナルニ一方ニテハ保管料其他保管ニ關スル費用ト云ヒ他方ニテハ報酬其他受寄物ニ關スル費用ナル法語ヲ使用セルハ法典トシテ用語ノ一定セサルコト亦極端ナリト云フベシ論者或ハ第三百七十條ハ倉庫業者ノ有スル先取特權ニシテ其性質ハ動産保存費用ナレトモ第三百七十七條ニヨル倉庫業者ノ請求權ノ範圍ハ必スシモ先取特權ヲ有スル動産保存ノ費用ニノミ限レルニ非ラサルカ故ニ立法者カ特ニ廣ク受寄物ニ關

保管料其他立替金等ノ出庫以前ニ於ケル請求ハ我商法ノ禁スル處ナルカ

スル費用ナル文字ヲ使用シテ之ヲ區別シ先取特權ナキコトヲ明ラカニシタルモノト曰ハンモ若シ然ラバ一方ニハ其文字ノ相類似セル處多キヲ以テ實際ニ於テハ反ツテ誤解ヲ生スルノ恐レアリ即チ倉庫業者ハ法文ノ字句ニ迷ハサルベク汎ク受寄物ニ關スル費用ヲモ立替金ト同様ニ出庫ノ時ニ請求シテ先取特權アルモノト解スルハ決而解釋者ヲ咎ムルヲ得スト信ス、

此ニ商法第三百七十七條ノ規定ニ付キテ一言スヘキモノアリ即同條ハ公益規定ナリヤ否ヤ解釋上疑義ヲ生ズレバナリ若シ万一之ヲ公益規定ナリトセバ保管料ノ如キハ倉庫業者ノ主タル目的ナルヲ以テ濫リニ之レニ干涉シテ法律カ公益規定ヲ設クルハ立法上其當ヲ得スト信ス而シテ現今我國ニ於ケル倉庫業者ノ營業規約ヲ見ルニ大抵各會社共保管料ハ月末拂ト規定シ居レトモ此營業規約ハ無効トナルニ至ルヘシ蓋シ此疑問ノ生スルハ一方ニ獨逸商法第四百二十條第二項ニハ前項ノ規定ニ

因リ倉庫營業者ニ歸スヘキ金額倉庫ノ費用中現金ヲ以テ支拂フタル立替金ハ直ニ之ヲ返還スルコトヲ要ス云々下アルニモ係ハラヌ我商法ニハ出庫ノ時ニ非ラサレハ一切請求スルコトヲ得ストアルヲ以テナリ而シテ余ハ法文ノ解釋上本條ヲ以テ立法者カ公益規定ト見タルモノニ非ラズト考ヘテ保管料支拂ニ關スル出庫前ノ特約ヲ有效ト信ズレトモ法文トシテハ此意義ヲ明示セサルハ缺點ナリト信ス、

(七) 第二百七十八條ニハ保管ノ期間ヲ定メサリシトキハ倉庫營業者ハ入庫ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタル後ニ非サレハ返還スルコトヲ得ストアルノミナルカ故ニ保管期間ノ定メアル場合ニハ期間經過後ハ何時ニテモ返還スルコトヲ得ベク之レヲ獨逸商法第四百二十二條ニヨレハ期限經過後ト雖モ豫メ期限前ニ契約解除ヲナサ、リシトキハ猶ホ一ヶ月前ニ豫告セサレハ寄託者ニ對シテ取戻ヲ強要スルコトヲ得ストノ規定ト比較シテ頗ル寄託者ノ爲メニ不利益ナリト考フ特ニ今日我國ニ於ケル倉

倉庫營業者ノ意思  
ハ通知主義及  
ハ公告主義ヲ以  
テ表スヘシ

庫業ノ現況ヲ見ルニ保管期限ニ到ルモ別ニ倉庫證券ヲ更新セサルノミナラス之レ證券ノ再製ハ倉庫營業者ニトリテモ又タ寄託者ニトリテモ手數ヲ要シテ不便ナレハナリ保管期間ヲ特約セスシテ其儘ニナシ置クモノ少ナラサルヲ以テ此ニ一言シテ營業者ノ注意ヲ促サント欲ス、

(八) 次キニ倉庫證券ヲ發行シタル場合ニ於ケル根本問題アリ即チ寄託者又ハ預證券所持人ナル特種ノ人ヲ主トナスヘキカ又ハ預證券ノ所持人ハ之ヲ特定スルヲ得ストノ見解ヲ以テ汎ク公告主義ヲ採ルヘキカノ問題是ナリ即チ我商法ハ第三百七十二條ヲ以テ質入證券ノ所持人ハ先ツ寄託者ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙不足アルトキハ債務者其他ノ裏書人ニ對シテ其不足額ヲ請求スルコトヲ得トテ債務者即チ寄託者ノ責任ヲ主トセリ又同第三百八十三條第二項ニハ寄託物ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ倉庫營業者ガ預證券ノ所持人若シ其所持人ガ知レサルトキハ寄託者ニ對シテ其滅失ノ通知ヲ發シタル日ヨリ之ヲ起算ストアリテ公告主義ヲ採ラ

サルコト明ラカナリ之レ法律カ倉庫證券ノ轉帳流通ヲ主義トシタルモノト相矛盾セルモノト考ヘラル然ルニ我保稅倉庫法ニテハ此等ノ場合ニ於テ寄託者又ハ預證券所持人ヲ主トセスシテ汎ク公告主義ヲ採ルベキモノトセリ即チ同法第十六條第一項ニハ「藏置期限ヲ經過シテ貨主貨物ヲ引取ラサルトキハ無請求品トシ當該官廳ハ其貨物ノ記號番號品名箇數等ヲ公告スヘシ」トアリ又同法第十七條「藏置ノ貨物腐敗其他ノ事故ニ因リ倉庫又ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ當該官廳ハ公告シテ指定ノ期限内ニ其引取ヲ命スベシ云々」トアリテ法律ノ規定トシテハ我保稅倉庫法ノ規定ハ主義一貫セリト信ス尤モ反對論者トシテハ我商法ニ如此キ規定アルハ立法ノ主義ヲ一貫センヨリモ寧ロ實際上ノ便宜ヲ重シタルモノト辨解センモ然シ余カ先キニ論シタルカ如ク債務者即寄託者ハ預證券讓渡後ニ於テハ既ニ貨物ニ對シテ權利ヲ有セサルヲ以テ商法第三百七十二條ノ如キ償還義務ヲ負ハシムヘカラス又々商法第

三百八十三條第二項寄託物滅失ノ通知ニ付テハ馬耳東風ヲ以テ倉庫營業者ヨリ受タル通知ヲ觀過スヘシ故ニ余ハ立法論トシテハ重複主義ヲ採リテ商法第三百八十一條及ヒ第三百八十三條第二項ノ場合ニハ我現行商法ノ規定ナル特定人ニ對スル通知義務ト公告義務トヲ併加スルヲ相當ト信ス但シ今日實際ニハ倉庫證券ノ流通轉帳ナルコトハ未タ汎ク行ハレサルヲ以テ或ハ公告義務ヲ以テ左程重要ナルモノニ非ラストナスモノアラン、

(九)終リニ一部出庫ニ關スル優先權及ヒ殊ニ破産法ノ規定ニ付キ注意スヘキモノアリ即チ質入證券取得ニヨル質權設定ノ場合ニ於テ今日銀行業者(質權者トシテ)ハ一部出庫ナルコトヲ汎ク認ムレトモ若シ債務者又ハ預證券ノ所持人ガ破産シタルトキハ其辨濟シタル金額ハ我破産法第九百九十條ニヨリ所謂期限前ノ辨濟トナルヲ以テ銀行業者ノ手ヨリ引戻サレテ破産財團ニ歸スヘシ而シテ其辨濟ニヨリテ一旦質權解除ノ上引

一部出庫ノ爲メ  
ニ對シテ優先權  
ヲ認ムベシ

渡サレタル貨物ハ無論他人ニ賣却セラレタルヘク又タ其賣却代金ニ對スル先取特權ニ付キテハ豫メ貨物ニ對スル法律上ノ差押ナキヲ以テ銀行ヨリ引戻サレテ其財團ニ歸シ一般配當ニヨルヲ以テ質權的優先權ヲ失フニ至ルヘシ而シテ殊ニ此事實ハ債務者又ハ預證券ノ所持人カ破産セントスル際ニハ先ツ擔保付債務ヲ處分シテ其差金ヲ以テ一時タリトモ一般債權者ノ取立ヲ免レントスルノ不得止勢アルヲ以テ實際上ニ屢々遭遇スルノ恐レアリトス故ニ倉庫法若クハ破産法ノ規定中特ニ一部出庫ニヨリ銀行業者ノ取得シタル債權辨濟金ハ假ヒ期限前ノ辨濟ナリト雖モ之ヲ特ニ保護スヘキ理由アルヲ以テ一旦倉庫會社ニ於テ保管セル一部辨濟金及ヒ銀行カ直接ニ受入レクル一部辨濟金ハ法律上差押ト同一ノ効力アルモノトシテ之レニ優先權ヲ與フルノ條項ヲ設クヘキモノト信ス現ニ此レト相似タル性質ヲ有スル民法第三百六十七條第一項ニヨレハ質權ノ目的カ債權タル場合ニハ民事訴訟法ノ規定ニヨリテ其

債權ヲ直接ニ取立ツルコトヲ得ヘク又タ同條第三項ニヨレハ右ノ債權ノ辨濟期カ質權者ノ債權ノ辨濟期前ニ到來シタルトキハ質權者ハ第三債務者ヲシテ其辨濟金額ヲ供託セシメ供託金ノ上ニ質權ノ存在セル旨ヲ規定シテ特ニ保護セルノ精神ヨリ見テモ相當ノ主張ナリト信ス  
註、民法第三百四條、先取特權ハ其目的物ノ賣却、貸貸、滅失又ハ毀損ニ因リテ債務者カ受クヘキ金錢其他ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但先取特權ハ其拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スコトヲ要ス  
民法第三百五十條、第二百九十六條乃至第三百條及ヒ第三百四條ノ規定ハ質權ニ之ヲ準用ス、

(十)以上述ヘタル缺點ノ外ニモ尙ホ我商法ノ規定トシテハ缺點少ナカラヌ假ヘハ第三百六十五條ニハ第三百三十五條ノ規定ハ預證券ニ之ヲ準用ストアレントモ商法第三百三十五條及ヒ第三百六十五條ノ規定ノ如キ此等ノ有價證券ヲシテ物權的效力アラシムル爲メノ重要規定ナルニ之ヲ

單ニ預證券ニノミ準用シ質入證券ニハ準用セサリシヲ以テ質入證券ノ效力ニ付テハ條文解釋上疑問ヲ惹起スヘキナリ特ニ質入證券ノ被裏書人ヲ以テ動産質權者ナリトノ根據ハ我商法ノ解釋トシテハ全ク之レカ爲メニ主張ノ餘地ナシト信ス、

尙ホ我商法第三百七十六條ニハ「倉庫營業者ハ自己又ハ其使用人カ受寄物ノ保管ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ其滅失ニハ毀損ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免カル、コトヲ得ス」トテ保管上ノ注意ヲ自カラ怠ラサリシ立證ヲ必要トシ乍ラ一方ニハ寄託ニ關スル總則ナル第三百七十五條ニハ「旅店、飲食店、浴場其他客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ主人ハ客ヨリ寄託ヲ受ケタル物品ノ滅失又ハ毀損ニ付キ其不可抗力ニ因リタルコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス」トテ舉證ノ方面ヲ異ニセシメタルハ法典ノ體裁トシテ前後一貫セスト信ス、

## 第六章 我商法ニ關シ倉庫業者ノ注意 スヘキ事項

我商法ノ規定ニ付倉庫業者ノ特ニ注意スヘキ事項トシテハ既ニ述ヘタル第四章商法解釋上ノ疑問及ヒ第五章商法規定ノ缺點ハ勿論其他余ガ先キニ述ヘタル所ヲ參照セハ自ラ注意スヘキモノアランモ余ハ尙ホ茲ニ商法ノ規定上倉庫業者ニ對シテ特ニ注意スヘキモノアリ、

(一) 先ツ倉庫證券交付ノ請求ニ付注意スヘキハ商法第三百五十八條ノ規定ナリ即チ倉庫業者ハ寄託者ノ請求ニヨリ寄託物ノ預證券及ヒ質入證券ヲ交付スルコトヲ要ストアルヲ以テ寄託者ハ之ヲ請求セサルモ可ナレトモ何レカ一券ノミヲ請求スルヲ得ルヤ否ヤハ問題タルベシ而シテ松波法學博士ハ其著商法私論ニ於テ必スシモ此二者ヲ不可分トシテ請求スルヲ要セスト云ハレタルモ余ヲ以テ見ルニ之レ誤解ナルヘシト信ス

倉庫業者ハ預證券ノミヲ發行スルコトヲ得ス



我商法ノ規定ノ可否ハ別問題ナレトモ其精神トシテハ寄託者ガ之ヲ請  
求スル以上ハ二券ヲ不可分トシテ請求セサルヘカラスト信ス之レ法文  
ノ規定ニ預證券及ヒ質入證券トアリテ預證券又ハ質入證券トナキノミ  
ナラス我商法ニハ預證券ノミヲ發行シタル場合ニ關シテハ何等ノ規定  
ナシ殊ニ我商法ノ精神トシテハ二者各其使用ノ目的ヲ區別シ居ルノミ  
ナラス其發達ノ沿革ニ於テモ質入證券ヲ以テ先ツ質權ヲ設定シタル後  
ニ其所有權ヲ行使セシムルノ方法トシテ否ナ寧ロ質債務者ヲシテ所有  
權ヲ滅却セシメサルガ爲メニ特ニ初メヨリ二様ニ活動セシメントシタ  
ル精神ヨリ考フレハ一點ノ疑ナキコト、信ス徒ニ文字ノ末ニ疑問ヲ挾  
ミテ沿革ヲ無視セハ法ノ精神ヲ誤マルニ至ルヘシ若シ強ヒテ文字ニ拘  
泥セハ寄託者ハ一券ノミヲ請求スルハ勝手ナレトモ倉庫業者ハ預證券  
及ヒ質入證券ノ二券ヲ同時ニ交付スヘキ義務アルナリ然シ余ハ此解釋  
論ヲ主張シタリトテ蓋シ現行法ノ精神ニ同意ヲ表スル者ニ非ラサルコ

船荷證券又ハ貨物引換證ニ對シテ發行スルヲ得ス

トハ既ニ第四章第二節ニ論ジタル處ナリ、  
(二)今日普通ニ各倉庫業者トモ船荷證券又ハ貨物引換證ト引換ニ倉庫證券  
ヲ發行シ居レトモ之レ荷主ヲシテ一日モ早ク賣買若クハ金融ノ便ヲ得  
セシメントスルノ主旨ニ出テタルモノナランモ法律上ハ不完全ナル手  
續ト信ス元來此レ等ノ證券ハ倉庫證券ト同様ニ貨物ト同一視スルヲ得  
ヘキ物權的證券ナルヲ以テ實際ニハ左程ノ不都合ニ遭遇スル場合稀ナ  
ランモ倉庫證券ハ倉庫業者カ寄託貨物ノ現實ナル占有ヲナシテ後ニ發  
行スヘキモノナリ然ルニ船荷證券又ハ貨物引換證ノ占有ハ未タ貨物ノ  
現實ナル占有トナラス唯タ其讓渡ニ關シ運送品ノ讓渡ト同一ノ效力ヲ  
有スルノミ(商法第三百三十五條同第六百二十九條)ナルヲ以テ此等ノ證  
券ト引換ニ倉庫證券ヲ發行スルモ万一其貨物カ其後入庫前ニ滅失毀損  
シタルトキハ勿論其他船荷證券若クハ貨物引換證カ現實ニ貨物ト引換  
ヘラレサリシトキハ倉庫業者ハ事實上ハ勿論又ハ法律上ヨリ云フモ空

倉庫證券記載事項  
性質ハモ貨物ノ  
性質ニ係リテ表  
示スルコトヲ得  
ザルコトヲ得

券ヲ發行シタルコト、ナリテ一方ニハ絶對ニ其責任ヲ負フノ義務アル  
カ爲メニ其倉庫證券ノ取得者ニ對シテ引渡ノ請求ヲ受ケタル當時ノ價  
額ニ應ジテ直接ニ賠償ノ責ヲ負ハナルヲ得ズ而シテ倉庫業者ハ自己ニ  
過失ナキコトヲ主張スルモ之レカ責任ヲ免カル、ノ理由タルヲ得ス之  
レ商法第三百六十二條ニヨル證券所持人保護ノ公益規定ナレバナリ、  
三、次キニ倉庫證券ノ記載事項ニ付キテ注意センニ我商法第三百五十九條  
列記ノ事項ハ預證券及ヒ質入證券ノ記載要件ナリ其事項ヲ缺クトキハ  
證券トシテ效力ヲ有セサルモノナリ蓋シ倉庫證券ハ特ニ物權的效力ヲ  
有スル證券ニシテ其記載事項ノミニ依リ權利義務ノ關係ヲ決定スルヲ  
得セシムルカ爲メ法律ハ之ニ必要ナル記載ノ最少程度ヲ特定シタルモ  
ノナルヲ以テ其程度ヲ滿ササル證券ハ法律上ノ效力ヲ付與セシムルニ  
足ラサルモノト解釋スルヲ至當ナリト信ス但シ證券記載事項中ニテモ  
品質及ヒ記號ノ如キハ或ハ品質ニ二様ナキ物アルベク或ハ貨物ニ記號

ノ標ナキモノアルヘシ其等ノ特別ナル場合ニ於テハ強テ之レヲ記載セ  
シムルノ必要ナキヲ以テ之ヲ記載スルヲ要セスト解スルモ恐テクハ不  
當ニ非ラサルヘシト思ハル今マ法律上倉庫證券ト略ホ同一ノ性質ヲ有  
スル貨物引換證及ヒ船荷證券ニ比較シテ考フルニ品質ノ記載ハ此等ノ  
證券ニテハ必要的記載事項トシテ何レモ列舉セラレス故ニ品質ノ如キ  
ハ常ニ左程重要ナルモノニモ非ラサルヘキヲ以テ其一定セル場合ニハ  
之ヲ記載事項ト爲スノ必要ナキモノト考フ又運賃ニ付テハ之ヲ記載ス  
ルコトノ必要ナキ場合ニハ強テ必スシモ明示スルヲ要セストノ大審院  
判例アリ故ニ假令證券記載事項ナリトテ貨物ノ性質及權利義務ノ關係  
ヲ表示スルニ必要ナキ事項ハ之ヲ記載セサルモ足レリト信ス  
イ 大審院判決録明治三十五年第十卷第八十頁

貨物引換證ニ運送貨ヲ記載セサルヘカラサル必要アル場合ニ於テハ商法第三百三十  
三條第二項ノ規定ニ依リ要件トシテ之ヲ記載スヘキハ勿論ニシテ若シ其記載ヲ缺ク

トキ即チ運送貨先拂トノミ漠然記載シ運送人ト所持人トノ間權義ノ所在ヲ明確ナラシメサル場合ニハ其效力ヲ喪フコトアルモ常ニ其記載ヲ必要トスルモノニ非ス

大審院判決録明治三十七年第七百六十三頁

貨物引換證ニ記載スヘキ要件トシテ規定セラレタル事項ハ必要アル場合ニ於テハ縱令其一項タリトモ之ヲ具備セサルハ該證券ハ效力ヲ有セサルモノトス是故貨物引換證ニ記載スベキ運送貨支拂濟ノ場合ハ特別其未拂ナル場合ニ於テハ必スシモ其數額ヲ明示スルコトヲ要セスト雖モ之ヲ算定スルニ足ルヘキ標準ヲ知り得ル程度ニ記載セサルヘカラス

大審院判決録明治三十七年第八百五十二頁

荷送人ガ運送貨ノ前拂ヲ爲シタルトキハ縱令貨物引換證ニ之ヲ掲ケサルモ其要件ヲ缺キタルモノニアラス

四

次キニ倉庫證券ノ種類ニ付テ注意スヘキモノアリ之レ倉庫證券ハ無記名式即チ持參人拂ト爲スコトヲ得ルヤ否ヤノ點ニシテ余ハ貨物引換證ト同シク記名式又ハ指圖式ナラサルヘカラスト信スレトモマニワ一氏ハ無記名式ヲ認メスタウブ氏ハ反對セリ又タ我控訴院民事第三部ニ

倉庫證券ハ無記名式トナスヲ得ス

テハ貨物引換證ニ付キ無記名式ヲ認メタリ其判旨ニ曰ク

凡ソ貨物引換證ハ特ニ之ニ付キ無記名式ノ發行ヲ許ササル規定存セサルヲ以テ商業證書ノ一般ノ性質上無記名式ニテモ之ヲ發行スルコトヲ得ルモノト云ハサルヘカラスト商法第三百三十三條ニ依レハ貨物引換證ハ荷受人ノ氏名又ハ商號ヲ記載スヘキモノナルモ這ハ是レ貨物引換證ニ記載スヘキ事項トシテ規定シタルニ止マリ記名式若クハ指圖式ニ非サレハ貨物引換證ノ發行ヲ許サストノ趣意ニ非ラサルコト論ヲ俟タクサルナリ云々

然レトモ余ヲ以テ見ルニ我商法ノ精神ハ貨物引換證及倉庫證券ハ勿論手形ノ如キ商業證券ニ對シテモ無記名式ノ發行ヲ實際上ニ必要ナシト認メタルモノト信ス蓋シ商業證券ノ取引ヲ敏活ナラシメンニハ之ヲ無記名式トスヘキモノナレトモ未タ之ヲ認ムルニ必要ナル程度ニ達セストノ意見ヲ立法上採用セシモノニシテ小切手及船荷證券ハ特ニ受取人又

ハ荷受人ノ氏名若クハ商號ヲ記載セサルモ所持人拂トナシ得ルコトヲ法律カ認メ(商法第五百三十條及第六百二十二條)又タ手形ニ關シテハ金額三十圓以上ノモノニ限リ特ニ之ヲ無記名式ト爲スコトヲ得トノ規定ヲ設ケタルナリ(商法第四百四十九條)又タ商業證券ノ發達上ヨリ見ルモ一般ニ無記名式ヲ當然ニ認メタルノ法制ヲ採ルニ至リシモノトハ未タ思ハレサルナリ故ニ立法ノ可否ハ別論トシテ現行法ノ解釋トシテハ倉庫證券ノ無記名式ヲ認メラレタルモノト云フヲ得ザルヘシ、

註、商法修正案理由書第三百五十九條理由

既成商法第六百二十一條ニ於テ受託物ノ受取證書ハ寄託者ノ名ヲ以テモ指圖式ニテモ無記式ニテモ之ヲ發行スルコトヲ得且反對ノ明記ナキトキハ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定スト雖モ無記名式ノ預證券ハ現今慣習上行ハレサル所ニシテ且現今之ヲ認ムヘキ立法上ノ必要存セサルヲ以テ本條ニ號ハ預證及ヒ質入證券トモニ記名式ニ限リ而シテ其性質上當然裏書ヲ以テ之ヲ讓渡シ若クハ質入スルヲ得ヘキモノト規定セリ

倉庫證券ニ記載スルべき貨品之種類及數量ヲ明シスルヲ要ス

倉庫證券ノ記載事項ハ其家父ノ責任ヲ以テ記入スルべきモノニ非ラス

五

次キニ倉庫カ證券ニ記載シタル文言ニ對シテ責任ヲ負ハサル可カラサルコトハ商法第三百六十二條ノ當然ノ結果ナルガ證券記載ノ文言ニ關スル此絶對的ノ責任アルト同時ニ數量品質等ヲ商法カ證券ノ必要事項トシタルガ爲メ此等記載事項ニ付キ倉庫ハ實際ノ取扱ニ於テ其責任ヲ免レントシテ數量ニ付テハ「大凡幾千位」トカ又タ種類品質等ニ付テハ「荷姿品内容ヲ検査セス」トカ又タ「見本ニ依リテ種類品質ヲ定ム」トカ「船荷證券ニ依リテ記載ス」ト云フガ如キ漠然タル記載即免責文句ノ記載ヲ爲サント欲スヘキモ然シ之ヲ漫リニ許スヘカラスシテ相當ノ注意ヲ用ユルモ不得已場合ナラサルヘカラス而シテ此證券記載事項ノ記載ニ關スル注意ノ論據ハ商法第三百五十九條カ證券ニ記載スヘキコトヲ命シタル結果ナリ此點ニ關シテ「ゴールドシュミット」氏ハ荷姿品ナル漠然タル記載ヲ爲スモ差支ナケレトモ唯此等ノ事項ヲ定ムルコトヲ得タルニ係ラス之ヲ記載セサリシ場合ニハ責任アリト論セリ即チ單ニ手數及責任ヲ省カ

シカタメニ斯ノ如ク漠然タル文字ヲ使用スルハ不都合ニシテ相當ナル注意ヲ用ヒタルモ此等ノ事項ヲ明確ニシ得サリシコトヲ必要トスヘキ旨ヲ論セリ若シ夫レ此ノ如ク證券ノ記載ヲナスニモ相當ノ注意ヲ用ヒタルコトヲ必要トセハ此レ單ニ證券ノ形式ノ完全ヲ求ムル寄託者ノ便宜問題ニ止マヌシテ法律上ノ義務トナルナリ故ニ倉庫業者トシテハ此等ノ場合ニ於テモ單ニ「内容不明」ト記載スヘカラスシテ「薦包ナルヲ以テ内容不明」ト「箱入ナルヲ以テ内容不明」ト云フカ如ク不明ナル記載ニ對シテ相當ナル注意ヲ用ヒタルコトヲ反證シ得ル狀態ニ證券面ニ記載シ置クヲ相當トスヘキモノニシテ單純ニ寄託者ノ満足スル限りハ如何様ニ注意ヲ用ユルトモ用ヒサルトモ倉庫ハ其責任ナシト謂フヘカラス然レトモ固ヨリ此責任ノ基礎ハ商法第三百五十九條ナルヲ以テ特ニ良家父ノ注意ヲ要スヘキモノニアラスト信ス尤モ立法論トシテハ倉庫證券ノ如キモノハ其發行ニ付テモ特別ナル注意ノ責任アラシムルヲ相當ト

倉庫トシテ證券  
取得者ニ對スル  
方法

信スルノミナラズ其注意ヲ用ヒタルコトヲモ倉庫業者ヲシテ舉證セシムルヲ相當ト信ス(本書附錄第二、株式會社百三十八銀行對中外倉庫株式會社取締役某々ニ係ル損害賠償請求事件第一審判決及ヒ控訴人準備書面參照)而シテ倉庫業者ハ法律上此證券記載ノ文言ニ付テ善意ノ證券取得者ニ對シテ絶對ノ責任アルヘキヲ以テ或ハ内容不明等ノ記載ヲ以テ其免責文句トナス場合アレトモ尙ホ如此キ免責文句ヲ記載シ難キ事情ノ下ニ證券ヲ發行スル必要アル場合ニ於テハ裏書禁止ノ形式ニテ發行セハ單ニ寄託品ノ引渡ヲナサハ其責任ヲ全フシ得ルヲ以テ之ヲ相當ノ手段ト信ス、註「ゴールドシユミット」商法論所載

證券面ニ種類數量又ハ品質ノ不明ナルコトヲ記載セルトキハ證券所持人カ實際ニ寄託セラレタル貨物ト受取リタル貨物トカ種類數量品質ノ異ナルコトヲ證明シ又ハ種類數量品質ヲ定ムルコトヲ得タルニ拘ラス之ヲ記載セサリシコトヲ證明スルニアラサレバ倉庫業者ハ責任ヲ受ケス

註 一コサツク獨逸新商法論所載

倉庫證券ニ内容不知重量不知等ノ表示ヲ包含スル場合ハ否カラス若シ貨物カ包裝ノ儘交付セラレタル旨ヲ倉庫證券ニ指定シタルトキハ内容不知ナル表示ハ自明ノ事ナリト推定スヘキコト貨物引換證ノ場合ニ於ケルト同シ

寄託貨物ノ價格ヲ記載セサルニ至リシ理由

(六) 次キニ注意スヘキハ寄託貨物ノ價格ノ記載ナルカ以前我國多數ノ倉庫證券ニハ皆ナ之ヲ記載シタレトモ今日ニテハ之ヲ記載スルノ事例ハ寧ロ稀レニシテ僅カニ澁澤倉庫及杉村倉庫等ノ倉庫證券ニ見ル處ナルカ其之ヲ記載セサルニ至リシハ或ハ我商法カ價格ノ記載ヲ以テ證券記載ノ要件トセサリシカ爲メナルカ或ハ價格ノ如キハ之ヲ正確ニ知リ難シト爲セシニヨルカ或ハ之ヲ記載セハ其記載價格ヲ信シテ金融ヲ與フル銀行其他ニ對シテ若シ實際ニ於テ其價格ヲ有セサリシトキニ倉庫ハ不法行爲ニヨル賠償責任アリト考ヘタルモノナルカ又タ或ハ證券ニヨリテ賣買質入セラルヘキ貨物ノ價格ヲ汎ク他人ニ知ラル、ノ不利益ヲ恐レタル寄託者ノ希望ニ出テタルモノナルカ何レニセヨ其因テ來ル處

寄託貨物ノ價額ニ付倉庫ナシテ保險セシムルシテ方法ヲ開クヘシ

ヲ知ラサルモ元來貨物ノ價格ノ如キハ一定不動ノモノニ非ラサルヲ以テ倉庫ハ其記載ヲナシタリトテ證券取得者ニ對シテ事實上其價格ノ範圍ニテ常ニ保證ノ義務ヲ負フカ如キ重大ナル責任ニ堪ヘ難キノミナラス殊ニ倉庫ハ法律上ノ責任トシテハ寄託物ヲ完全ニ其儘保管スルニアリテ若シ寄託者又ハ證券取得者ニ受託貨物ヲ完全ニ引渡ス以上ハ其内容ニ付テハ全ク責任ナク唯故意若クハ過失ヲ以テ不當ノ價格ヲ記載シテ預證券又ハ質入證券取得者ニ損害ヲ負ハシメタル場合ノ外ハ何等其記載價格ニ對シテ責任ヲ負フヘキ法律上當然ノ義務ナキヲ以テ其記載價格ハ左程重大ナル効力ナカルヘシト信ス(第六章四參照)

雖然寄託貨物ノ價格ヲ評價スルハ寄託主ト倉庫ト銀行ト保險業者トノ四者中ニテハ直接ニ其貨物ヲ取扱フヲ以テ倉庫ハ最モ便宜ニシテ且適當ノ地位ニアリトス從フテ倉庫ニ於テ評價額ヲ定メ其評價額ニ對シテハ充分ノ注意ヲ用ヒテ記載ヲナシタルコトニ付倉庫ヲシテ特ニ保證セ

シムルノ目的ニテ之ヲ證券ニ記入セシムレハ此等ノ關係者ニ對シテハ頗ル便宜ナレトモ之レ果而倉庫トシテ其責任ニ堪ユル處ナルカ疑ナキ能ハス又倉庫カ其責任ヲ負ハントスレハ必ラス評價額ヲ低カラシムルヲ以テ寄託者ハ之ヲ満足セザルヘク結局之ヲ記入シ得サルニ至ルベシ、次キニ又タ火災保險金額ノ記載ハ幾分カ評價ノ標準ト見ルヲ得ヘキモ固ヨリ完全ナルヲ得ス何ントナレハ保險業者ハ保險料ノ多キヲ欲シ寄託者ハ其信用ノ大ナランヲ好ムカ故ニ共ニ寧ロ火災保險金額ノナルヘク多額ナランコトヲ欲スヘシ故ニ證券ニ記載セル評價額若クハ火災保險金額ナルモノハ到底當業者ノ總テニ對シテハ満足ヲ與ヘ得ヘカラサルヲ以テ實際ノ取扱ニ於テハ特ニ銀行業者ニ對シテ又タ少ナクトモ火災保險業者ニ對シテ倉庫カ保證ノ地位ニ立チ得ヘキ方法ヲ講究スルハ斯業發達ノ爲メニ急務ナリト信ス、

(七) 次キニ入庫貨物ノ火災保險方法ニ關シテ述フヘキコトアリ即チ倉庫

業者ハ寄託貨物ヲ火災保險ニ付スヘキ權利若クハ義務アリヤ否ヤ及ヒ若シ之レヲ付スル場合ニハ如何ナル方法ヲ以テ保險ニ付スルヲ相當トスヘキヤノ問題ナリ元來我商法ノ規定ニヨレハ倉庫營業者カ有スヘキ先取特權ノ内ニ保管ニ關スル費用ナル文字(商法第三百七十條)アリ之レニ對シテ余ハ保險ハ假令ヒ間接ニハ保管ニ關係ヲ有スレトモ法律ノ解釋トシテハ保險料ハ保管ニ關スル費用トシテ先取特權ヲ與フヘキ性質ノモノニ非ラスト考フ從ツテ其費用ヲ請求シ得サル點ヨリ見ルモ保管者ノ當然ノ權利ニアラスト考フ更ニ又其責任ノ方面ヨリ考フルニ現ニ獨逸商法ニハ其第四百十七條ヲ以テ第三百九十條第二項ヲ倉庫業者ニモ準用セルガ其第三百九十條ニハ「問屋ハ委託者ヨリ保險ニ附スベキコトヲ指圖セラレタルトキニアラサレハ貨物ノ保險ヲ怠リタルガ爲メ責任ヲ負フコトナシ」ト規定シアル位ナリ又我商法第三百五十九條第六號ニ「受寄物ヲ保險ニ付シタルトキ云々」トアリテ必スシモ保險ニ付スルモ

ノニ非ラサルコトヲ察知スヘキナリ、  
 以上ノ如クナルヲ以テ之レヲ證券ニ記載セサレハ保險料ニ付キ倉庫ハ  
 先取特權ヲ有シ得サルモノト考フ(尙此保險料ノ請求ナルコトニ付テハ  
 保險料ヲ立替金ノ内ニ入レテ請求セハ我法文ノ解釋トシテ或ハ之レヲ  
 請求シ得ル餘地アルヤモ知レサレトモ特ニ此ニ論及セントスルモノハ  
 保險料ノ請求問題ニ非ラスシテ保險ノ性質其モノヲ云ハントスルナリ)  
 然ルニ今日倉庫業者ノ取扱振ヲ見ルニ保險料トシテハ別ニ取立テ居ラ  
 ス其理由トシテハ或ハ保管料ノ内ニ保險料ヲ包含セシメ居ルモノナル  
 ヤ若クハ倉庫會社カ營業ノ競争上保險料丈ケ割引シテ保管ヲ引受ルモ  
 ノナルヤヲ知ラサレトモ二者何レニセヨ保險料請求ノ如何ニ拘ラス倉  
 庫業者ノ付スル保險ノ性質ヲ明カニスルハ必要ノ事項ナリト信ス何ソ  
 トナレハ我商法ハ火災保險ニ付二種ノ別ヲ設ケアルナリ即チ寄託主ノ  
 爲メニ寄託主ニ代リテ倉庫カ付スル火災保險(商法第四百一條)ト又々倉

倉庫ヲシテ寄託  
 者ノ委任ニヨリ  
 代リテ保險ヲ付  
 スヘキ義務ヲ付  
 券ニ明示セシム  
 ン

庫カ萬一自己ノ責任トシテ火災ニ因ル賠償義務ヲ生シタル場合ニ償フ  
 ヘキ所ノ損害ニ對スル保險(商法第四百二十一條)トノ別アリ而シテ今日  
 カ付スル火災保險ニ付テハ其取扱手續上火災保險ニ關スル事項ハ凡テ  
 倉庫ト火災保險會社トノ特約ニ一任シ寄託主ニハ其特約ノ内容ヲ示サ  
 サルカ故ニ果シテ此二者ノ何レノ種類ニ屬スルカハ實際上問題トナル  
 ヘシ殊ニ實際ノ取扱ヒニ於テハ前述ノ如ク別ニ保險料ヲ取立テ居ラサ  
 ルノ點ヨリ見レハ寧ロ倉庫カ自己自衛ノ爲メニ付シタルモノト思ハル  
 ヘキノ恐レアリ是ヲ以テ寄託者カ自己ノ利益ノ爲メニ保險ヲ付セシメ  
 ントノ意味ナラハ商法第四百二條ノ規定ニヨリ寄託主ノ爲ニ保險ヲ付  
 シタルコトヲ明ラカニナスノ必要上寄託主ノ委任ヲ受ケタルコトヲ明  
 瞭ニ倉庫ニ於テ保險業者ニ對シ明言シ吳レナハ幸ナレトモ此委任關係  
 ヲ明言シタルヤ否ヤハ倉庫ト保險業者トノ契約ノ内容ナルヲ以テ寄託  
 主ニ於テハ之レヲ知ルヲ得ス故ニ寄託主カ自己ノ地位ヲ自衛セント欲



セハ特ニ其委託ヲ受ケタルカ爲メニ寄託主ニ代リ保險ヲ付スヘキコトヲ倉庫カ義務トシテ負擔セル旨ヲ倉庫證券上ニ明瞭ナラシムルノ必要アリト考フ然ルニ今日多數ノ倉庫證券ヲ見ルニ一ツトシテ此關係ヲ明瞭ニシタルモノナキハ寄託主ノ爲メニ私カニ危フム所ナリ、

(註十) 澁澤倉庫ノ證券ニハ

- 八 火災保險ニ關スル事項ハ總テ當倉庫部ト保險者トノ特約ヲ以テ之ヲ定ム
- 九 火災保險付寄託物ノ一部ヲ出庫シタルトキハ保險金額ハ其割合ニ應シ減額スヘシ

三井銀行箱崎倉庫ノ證券ニハ

- 一 火災保險ニ關スル事項ハ凡テ當倉庫ト火災保險會社トノ特約及當該火災保險會社ノ規則ニ據ル

商業倉庫ノ證券ニハ

- 八 火災保險附寄託物ノ内受取ヲ爲シタルトキハ其割合ニ應シ保險金額モ減少スルモノトス
- 十 火災保險金ハ當會社ヲ經由シテ授受スルモノトス

東京倉庫ノ證券ニハ

- 三 火災保險ニ付シタル受寄物ノ一部ヲ出庫シタルトキハ其割合ニ應シテ保險金額モ亦減少スルモノトス

大阪住友倉庫ノ證券ニハ

- 十 本證券記載貨物ニ對スル火災保險ニ關シテハ總テ當倉庫ト保險者トノ特約及ヒ保險者ノ保險規則ニ據ルモノトス

横濱中央倉庫ノ證券ニハ

- 十 火災保險附寄託物ノ内受取ヲナシタルトキハ其割合ニ應シ保險金額ヲ減少スルモノトス

神戸棧橋倉庫ノ證券ニハ

- 一 寄託主ノ望ニ因リ受寄物ニ對シ當會社ノ特約火災保險會社ノ火災保險ヲ附セサル場合ニ於テ受寄物火災ニ罹リタルトキハ其原因如何ニ係ラス當會社賠償ノ責ニ任セス

大阪倉庫ノ證券ニハ

- 七 當會社ハ保險契約者ト爲リ寄託主ノ爲メ火災保險ニ附ス當會社ト保險者トノ間

ニ於ケル特約及保險規則ハ寄託主又ハ本證券所持人ニ於テ認諾セラレタルモノト  
ス

寄託貨物ノ差押  
命令

(八) 次キニ倉庫在中ノ貨物ハ之レヲ差押ヘ得ルヤ否ヤノ問題ナリ此問題  
ニ付テハ若シ倉庫ニシテ保管證書ヲ發行シ居ル場合ニハ無論其寄託者  
ノ貨物ナルヲ以テ其寄託者ニ對スル債權ノ爲メニ之レヲ差押フルヲ得  
ヘキモ若シ寄託貨物ニ對シテ預證券質入證券ヲ發行シタル場合ニハ預  
證券ハ轉帳スヘキ性質ノモノナルヲ以テ從ツテ在庫貨物ハ寄託主ノ物  
ナリトシテ常ニ特定セルニ非ラスシテ倉庫ハ汎ク證券ノ所持人ノ爲メ  
ニ貨物ヲ保管セルモノト見ルヘキヲ相當トス從ツテ假令入庫當時ノ貨  
物ガ未タ倉庫ニ存在スルモ其貨物ハ必スシモ寄託者ノモノタリト之レ  
ヲ推定スヘキ理由ナク即チ寄託者ハ尙ホ預證券ヲ保管セルモノト推定  
スヘキ理由毫モ之レナキヲ以テ寄託者ニ對スル債務ノ爲ニ差押ヲ許ス  
ヘキモノニ非ラスト信ス少クトモ斯クノ如キ場合ニ於テ差押ヲ許可ス

ルニハ現ニ其寄託者ガ預證券ヲ占有シ居リ他人ニ未タ轉帳セサルコト  
迄ヲモ立證シタル後ナラサルヘカラスト信ス因テ此點ニ關スル意見ヲ  
述ヘテ裁判所ノ行動ニ付豫メ注意ヲ乞ハント欲ス、

(九) 次ニ注意スヘキハ商法第三百七十六條ノ倉庫營業者ハ自己又ハ其使  
用人カ受寄物ノ保管ニ關シ注意ヲ怠ヲサリシコトヲ證明スルニ非サレ  
ハ其滅失又ハ毀損ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ル、コトヲ得ストノ規定ハ  
公益規定ナルヤ否ヤノ問題ナリ若シ之ヲ以テ公益規定ナリトセハ倉庫  
證券ニ其舉證ノ責任ヲ免除スルコトヲ記載スルモ其效ナキナリ勿論此  
ノ如キ規定ハ倉庫營業者ノミナラス運送業者ニ關シテモ同様ナル規定  
ヲ設ケラル、處ナルカ(商法第三百三十七條)今日多數ノ倉庫證券及倉庫  
營業規約ニ見ルカ如キ寄託貨物ニ對シ當會社賠償ノ責任ハ雨漏、竊盜、紛  
失ノ場合ニ限ルモノトス、下ノ規定及ヒ當會社ハ天災、事變、強盜又ハ鼠喰  
蟲入氣候ノ變遷自然ノ消耗荷造ノ不良等ニヨリテ生シタル損害ニ對シ

倉庫證券ニ責任  
免除ノ規約ヲ揭  
クヘキカ

テハ其責ニ任セストノ規定ヲ設クルハ倉庫業者ハ初メノ場合ニ對シテ常ニ必スシモ損害ヲ負擔スヘキ當然ノ義務アルニ非ラサレトモ進ンテ此等ノ場合ニハ立證ノ權利ヲ拋棄セントスルモノナルヤ又後ノ場合ニハ倉庫業者ハ自己カ注意ヲ怠ラサリシコトヲ立證セスシテ常ニ損害賠償ノ責ヲ免カレントスルノ意ナランモ若シ商法第三百七十六條ノ規定ヲ公益規定ナリトセハ後ノ場合ニ於テモ保管ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ自ラ進ンテ舉證セサレハ其賠償責任ヲ免ル、ヲ得サルニ至ルヘキガ倉庫業者ハ果シテ如此キ點ニ關シテ如何ナル意見ヲ有スルヤ疑ナキヲ得ス、

今マ商法第三百七十六條ノ精神ヲ考フルニ本條及ヒ運送業者ニ關スル商法第三百三十七條ノ如キハ自己ノ營業トシテ他人ノ貨物ヲ取扱フ者ノ責任規定ナリ而シテ我法律上不法行爲ニ關スル一般ノ原則トシテ過失ナケレハ責任ナシ即チ民法第七百十五條但書ニ所謂相當ノ注意ヲ爲

スモ損害カ生スヘカリシトキハ免責ヲ與フルモノナルニ此等ノ場合ニハ之ヲ與ヘスシテ區別シタル點ハ幾分カ公益上ヨリ制限シタルカ如キ觀アルモ然シ商法第三百五十四條ニヨレハ旅店飲食店浴場其他客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ主人ハ客ヨリ寄託ヲ受ケタル物品ノ滅失又ハ毀損ニ付キ其不可抗力ニ因リタルコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ル、コトヲ得スト規定シテ反テ相當ノ注意ヲ爲シタル場合ニテモ不可抗力ニヨラサル限ハ其責任ヲ負フヘキモノト規定セルハ立法者カ特ニ此等二個ノ場合ニ付責任上輕重ノ別ヲナシタルニ非ラスシテ用語ノ統一ニ注意ヲ缺キシモノト信ス若シ万一立法者カ特ニ用語上ニ注意シテ區別シタルモノトセハ商法第三百五十四條即不可抗力ノ場合ハ第三百七十六條即注意ヲ怠ラサリシ場合ヨリモ稀有ノ事實ナリ即注意ヲ怠ラサルトキニテモ不可抗力ハ來ルモノナルニ尙其責任ヲ負ハシムレハナリ然ルニ商法第三百五十四條ノ場合ニハ第三項客ノ携帶品ニ付キ

出庫貨物ニ對スル倉庫業者ノ責任時効

責任ヲ負ハサル旨ヲ告示シタルトキト雖モ塲屋ノ主人ハ前二項ノ責任ヲ免ル、コトヲ得ス」トノ規定ヲ以テ特ニ公益規定トシタルニモ拘ラヌ  
 商法第三百七十六條即チ倉庫業者ニ付テハ此ノ如キ公益規定ノ主旨ヲ設ケサリシ點ヨリ見ルモ別ニ公益上ノ制限ニ非スシテ本條ノ規定ハ唯普通ノ程度ノ責任ニ付キ其舉證ノ義務ヲ負ハシメタルニ過キスト信ス」  
 (十)次キニ倉庫業者ノ注意スヘキ事項トシテ其出庫貨物ニ對スル責任時効ニ關スル商法第三百八十二條及第三百八十三條ノ意義ヲ説明センニ  
 我商法第三百八十二條ニハ第三百四十八條ヲ準用ストアルヲ以テ出庫貨物ニ關ルス倉庫業者ノ責任トシテハ先ツ寄託者又ハ預證券所持人が何等ノ留保ヲ爲サスシテ寄託物ヲ受取リ且保管料其他ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ直チニ其責任消滅スヘキヲ本則トス但寄託物ニ直ニ發見スルコト能サル毀損又ハ一部滅失アリタル場合ニ於テ寄託者又ハ預證券ノ所持人が出庫ノ日ヨリ二週間内ニ其通知ヲ倉庫ニ對シテ發シタル場

質權者ハ質權消滅ノトキニ戻裏書ハ危險ナリ

合ニ於テハ出庫ノ日ヨリ一ケ年經過セサレバ其責任ヲ免カル、ヲ得ス。  
 (第三百八十二條第三百八十三條)又寄託物ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ預證券ノ所持人若シ其所持人ノ知レサルトキハ寄託者ニ對シテ其滅失ノ通知ヲ發シタル日ヨリ起算シテ一ケ年經過セサレハ其責任ヲ免カル、ヲ得ス(第三百八十三條第二項)又タ倉庫業者ニ若シ惡意アリタル場合ニ於テハ總テ此免責ノ特典ヲ受クルヲ得サルガ故ニ普通ノ時効タル五年間其責任ヲ免カル、ヲ得ス(第三百八十二條第三百八十三條)  
 (十一)終リニ倉庫證券ニ對シテ資金ノ融通ヲ與フル債權者ノタメニ一言センニ若シ銀行カ質權ノ辨濟ヲ受ケタルトキニ更ラニ其質入證券ニ裏書ヲナシテ(即寄託者カ其證券ヲ再ヒ使用セントスル場合ニ證券更新ノ手數ヲ省カントノ主旨ニ出テ、債務者ヲ被裏書人トシテ裏書ヲナスコト)返還シタルトキニ寄託者ニシテ再ヒ同一質入證券ヲ更ラニ他人ニ裏書交付セバ先キノ銀行ハ形式上質入證券ノ裏書人トナルヲ以テ商法第

倉庫證券記載ノ  
約款ニハ當會社  
ノ營業規約ヲ約  
諾シタルモノト  
スレドモ如キ包  
的記載ヲ以テ足  
スレトスヘカ  
ラフ

三百七十二條ニヨリ償還請求ニ應スヘキ義務ヲ負擔スルノ危険アルヘシ故ニ此ノ如キ取扱ハ辨濟者ニ於テ倉庫證券更新ノ手數ヲ省カントスルノ主旨ニ出テタルモノナランモ其結果銀行ハ萬一ノ裏書責任ナシトセス尤モ倉庫證券ノ裏書ニ付テハ手形ニ關スル商法第四百五十六條ノ如キ裏書ヲ認メタル條文ナキヲ以テ裏書ハ無効ナラントノ論アラシクモ銀行ハ尙萬一ヲ慮リテ質權ノ辨濟ヲ受ケタルトキニ假ヒ債務者ノ依頼アルモ更ニ之ヲ裏書讓渡スヘカラス若シ債務者ニ於テ保管期間中再ヒ同一質入證券ニテ金融ヲ計ラントノ意思アラハ債務者ヲシテ自ラ其初メノ質入裏書ヲ抹消セシムルヲ以テ得策ナリト信ス、

(十二)次キニ注意スヘキハ各倉庫證券ニ掲ケラレタル約款ヲ見ルニ概テ各種ノ重要ナル事項ヲ列記セルノ外ニ末文ニ茲ニ記載ナキ事項ハ總テ商法及ヒ當倉庫部營業規則ノ規定ニ依ルトカ又ハ冒頭ニ「寄託主又ハ本證券所持人ハ當會社ノ營業規則及ヒ左記事項ヲ認諾セラレタルモノト

ス」ト云フカ如キ主旨ノ規定アレトモ證券所持人ハ之レガ爲メニ當業者ノ營業規則ヲ當然ニ知リテ受授シタルモノト見做サル、義務アリヤ否ヤナリ之ニ對シテ余ハ斯ノ如キ漠然タル規定ニテハ單ニ證券ヲ一見スルモ直チニ證券所持人ノ權利義務ノ關係ヲ明確ニ了知シ得サルモノト信スルヲ以テ我商法第三百六十二條ノ主旨ニ顧ミテ證券面丈ケニテ一見直チニ明瞭セサル規約ハ特別ナル拘束力ナシト信ズ而シテ普通一般ニ各倉庫業者ノ取扱振トシテ認メラル、モノニ對シテハ特別ナル規定ヲ設ケサルモ商慣習トシテ大抵其存在ヲ認メラル、ガ故ニ當事者間ニ此慣習ニ從ハサル明示ノ意思表示ナキ限りハ各所持人ニ對シテ其效力ヲ有スベキヲ以テ結局此規定ノ如キハ其記載アルモ無意義ニ終ハルモノニシテ特ニ規定スルノ必要ナキモノト信ス然ルニ其營業規則中自己ノ會社ニ關スル特種ノ事項ハ總テ之ヲ證券ニ列記セサレバ證券取得者ニ對抗シ得サルヲ以テ此等ノ事項ハ之ヲ列記スヘキ必要アリ、

## 第七章 倉庫證券記載事項ニ付テ

倉庫證券カ信用社會ニ重視セラレテ物權的效力ヲ有シ讓渡及ヒ質入ノ用ニ供セラル、ハ商法第三百六十三條ノ規定ニヨルモノナレトモ其對抗力ノ内容ハ主トシテ我商法第三百六十二條ニ規定セラレタル「寄託ニ關スル事項ハ倉庫營業者ト所持人トノ間ニ於テハ其證券ノ定ムル所ニ依ル」トアルニヨルナリ從ツテ倉庫證券ノ記載事項ハ法律ノ必要トスルモノト寄託契約ノ内容ニヨリテ定マルモノトヲ問ハス之ヲ明確ニシテ解釋上ノ疑義ヲ避ケサレハ其證券ノ價值ト信用トヲ失スルニ至ルヘキナリ因而余ハ本書ニ於テ既ニ前述シタル各種ノ問題ニ鑑ミテ倉庫證券ニ記載スヘキ事項ニ關スル注意ヲ此ニ掲ゲントス、

一、先ツ倉庫證券ノ種類ニ付テハ之ヲ無記名式トナスヘカラス之レ既ニ本書第六章(三)ニ論シタル處ナリ而シテ我商法第三百六十四條ニヨレハ

指圖式證券ヲ本則トス

價額ノ記載ニ換  
ヘテ銀行ニ對シ  
テ保證ヲ特約ス  
ヘシ

其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ讓渡シ又質入スルコトヲ得ヘキ  
モノトセルカ故ニ寧ロ指圖式トシテ之ヲ發行スルヲ相當ト信ス、

二、倉庫證券ニハ寄託貨物ノ價額ヲ記載セサルヲ相當ト信ス何ントナレ  
ハ倉庫營業者ハ此記載ニ對シテ當然ニ保證ノ責ヲ負フモノニ非ラサル  
カ故ニ之レヲ信シテ質權者トナルモノヲ誤解セシムルノ恐レヲ生セサ  
ラシムルカ爲メナリ且商法ハ之ヲ證券ノ記載事項トセサリシカ故ニ寧  
ロ之ヲ記載セスシテ若シ金融上其必要アラハ倉庫業者ト銀行トノ間ニ  
於テ又タ火災保險ニ付キ必要アラハ倉庫業者ト保險業者トノ間ニ於テ  
別ニ特約保證書ヲ取交ハスヲ相當ノ方法ナラント考フ(第六章(五)參照)

證券記載事項ノ  
豫備欄

三、倉庫證券ニハ特ニ摘要欄ヲ設クルノ必要アリ元來手形ニ關シテハ商  
法第四百三十九條ニヨリ特ニ本編ニ規定ナキ事項ハ之ヲ手形ニ記載ス  
ルモ手形上ノ效力ヲ生セストノ規定アル結果トシテ摘要欄ヲ設クルハ  
無用ノコトナレトモ倉庫證券ニ關シテハ如斯規定ナキヲ以テ證券ニ記

裏書ニ關スル豫  
備欄

載シタル事項ハ特ニ當事者ニ於テ之ニ拘束セラレサル慣習ナキ限ハ法  
律上有效ナルモノニシテ本欄ヲ設ケテ重要ナル事項ヲ記入スルノ豫備  
トナスハ相當ト信ス假ヘハ倉庫業者カ質入證券ノ所持人又ハ預證券ノ  
所持人ニ對シテ先取特權ヲ對抗セントスル入庫以前ノ運賃若クハ入庫  
ノ際ニ於ケル未済費用等ニ付テハ證券ニ記載セサル場合ハ其對抗力ヲ  
有セサルヘキヲ以テ此等ハ總テ摘要欄ニ明示スルヲ相當ト考フ而シテ  
此等入庫以前ニ生シタル運賃及ヒ立替金ヲ倉庫證券上ニ記載シテ第三  
者ニ對抗センニハ之ヲ運賃若クハ立替金トシテ請求スヘキモノアル旨  
ヲモ特ニ記載セサレハ證券所持人ニ對抗力ナシトス(第三章第五節參照)  
尙ホ此摘要欄若クハ豫備欄ヲ設クルコトハ裏書ニモ特ニ必要アリ元來  
預證券ハ單ニ讓渡ノ爲メノミニ裏書スルモノニ非ラスシテ或ハ取立委  
任ノ爲メニモ又タ質入證券ニヨラサル質權設定ノ爲メニモ裏書セラル  
、コトアリ得ヘシ(本書第二章參照)然レトモ此等ノ場合ハ寧ロ稀レナル

倉庫證券ニ掲ゲ  
アル特約ハ其文  
言ノミニテ明瞭  
ニセサヘカラス

ヘキヲ以テ讓渡裏書欄ノ外ニハ特種ノ各欄ヲ設ケサルモ此摘要欄内ニ  
記入セシムレハ足ルヘシ又ク質入證券ニ付テモ質權ノ讓渡ノ爲メノミ  
ナラス更ラニ其質權ヲ以テ轉質ノ目的トナスコトアリ得ヘシ(本書第三  
章第三節參照)故ニ摘要欄ハ何レノ證券ニモ其必要ヲ見ルヘキナリ、

四、一部出庫ハ質權設定以前ニモ行フコトアリ故ニ質權設定ノ際ニハ特  
ニ之ヲ明瞭ニスヘク又ク假ヒ質權設定後ニ於テ一部出庫ヲナス際ニモ  
常ニ之ヲ明瞭ニスルハ重要ナルコトニシテ今日普通ニ各倉庫業者カ證  
券ノ表面ニ記載シ居ル規約ヨリモ個々ノ場合ニ常ニ必要アルヲ以テ一  
部出庫ノ記載ハ證券ノ表面ニ記載スルヲ相當ト考フルニ今日多數ノ倉  
庫證券中此例ヲ行ヘルハ東京倉庫ノミナルハ余ノ私ニ怪ム所ナリ、

五、次キニ倉庫證券ニハ皆ナ約款ヲ掲ケアリテ倉庫業者ノ取扱振ヲ列記  
シタルノ外カ尙ホ概括的ニ營業規約ニ依ルモノトス(下ノ規定ヲ設ケア  
レトモ之ヲ以テ絶對的ノ效力ヲ有セシムルヲ得スト信ス(本書第六章第

賠償責任ヲ舉證  
ノ問題ト離レテ  
類別スルヲ得ス

十一參照從ツテ重要ナル事項即チ倉庫業者ニ於テ特種ノ事項ヲ約定セ  
ンニハ之ヲ一々明示セサルヘカラスト信ス、

今マ左ニ普通ニ約款トシテ倉庫證券面ニ記載セラル、事項ニ付テ考フ  
ル所ヲ述ヘントス、

第一、先ツ倉庫業者ノ賠償責任ニ付今日行ハル、倉庫證券ニハ概ネ皆  
ナ寄託貨物ニ對シ當會社賠償ノ責任ハ雨漏、竊盜紛失ノ場合ニ限ル(天  
災事變強盜又ハ鼠喰蟲入氣候ノ變遷荷造ノ不良等ニヨリ生シタル損  
害ニ對シテハ當會社其責ニ任セズ)下ノ規定ヲ設クルハ倉庫業者ニ於  
テ天災事故等ニ關シテハ注意ヲ怠ラサリシコトノ舉證ヲ爲サスシテ  
常ニ免責ヲ得トシ又タ一方ニハ雨漏、竊盜紛失ノ場合ニハ常ニ責任ヲ  
負フモノトシテ我商法第三百七十六條ノ規定ナル舉證ヲ條件トスル  
免責權利ヲ拋棄セントスルモノナルカヲ問ハント欲ス、

若シ如此キ約款ノ文字ヲ普通ニ解釋セハ即チ之レ商法ノ規定ト全ク



倉庫法第一  
ノ質權設定事項  
ハハシ

異ナリテ責任ノ原因ノ種類ニ從ツテ便宜ニ分類セントスルノミナラ  
ス天災事變以外ニ鼠喰蟲入ニ付テモ特ニ責任ヲ免カレントスルモノ  
ト云フヘシ

第二、第一ノ質權設定ニ關シテハ倉庫業者ヲシテ預證券面記載ノ其質  
權事項ニ署名セシメ且其質權事項ノ確實ナルコトヲ保證セシムルノ  
必要アリ此レ第一ノ質權設定ノ保證ハ將來ニ質入證券ヲ轉得セント  
スル者ノ爲メニハ最モ重要ナルコトニシテ此保證ナクンハ質入證券  
ハ預證券ト離レタル後ニ於テ獨立シテ流通シ得ヘキ筈ナシ、  
尙ホ我商法ノ規定ニ從ヘハ倉庫業者ニ於テ證券ノ所持人ヲ知レルコ  
トヲ以テ便宜ナリトセル場合少ナカラス(第五章ニ參照)故ニ各證券所  
持人ノ移轉セル度毎ニ其移轉事項ヲ倉庫ニ通知セシメ之ヲ通知セサ  
ル者ハ倉庫業者ニ於テ權利者トシテ取扱ハサルコトアルモ不服ヲ申  
立ツルコトヲ得サルモノトスヘシ而シテ前記ノ事項ニ付大阪商業會

質權設定後ニ於  
ケル一部出庫ノ  
方法ヲ明示スヘ  
シ

議所カ之ヲ商法修正案トシテ希望シタルハ誠ニ至當ノ意見ナリ然シ  
現行法ノ下ニ於テモ之レカ約款ヲ設クルトキハ其急ヲ救フニ足ルヘ  
シ、

第三、質權ノ設定シアル寄託貨物ノ一部出庫ハ特約アル場合若クハ一  
部出庫ノ條件ヲ質權者ニ於テ證券ニ記載シタル場合ニ限ラサルヘカ  
ラズ何ントナレハ如斯キ場合ニ於ケル一部出庫ハ直接ニ當事者間ノ  
辨濟トナレハナリ然ルニ此等ノ規定ニヨラサル一部出庫ハ法律ノ認  
メサル處ナレハナリ尙ホ第一回ノ一部出庫アリシ後ハ各證券ノ流通  
ヲ禁止スルコトモ亦タ其理由アルハ既ニ本書第二章第三節ニ論シタ  
ル所ナリ

第四、保管料立替金其他受寄物ニ關スル費用ヲ出庫以前ニ於テ請求ス  
ルノ權利ヲ規定スヘシ蓋シ我商法第三百七十七條ニヨレハ此等ノモ  
ノハ出庫ノ時ニ非ラサルモ豫メ請求シ得ヘシト考フルモ今日各倉庫

保管料ニ付テハ  
出庫以前ノ特  
約ヲシテ其他  
受寄物ノ費用  
ニ關スル其  
他受寄物ノ  
費用ヲ持約セ  
サルハ旨趣一  
貫セ

火災保險ハ寄託者ノ爲メニ付スルコトヲ保險業者ニ申込ムヘキ義務アル旨ヲ明示スヘシ

トモ單ニ保管料ニ付テノミ出庫以前ニ請求シ得ル旨ヲ證券ニ特約セ  
ルハ之レ自カラ無益ナル制限ヲ加ヘタルモノト云フヘキナリ

第五、倉庫カ付スル火災保險ノ性質ヲ明瞭ナラシムルカ爲メニ寄託者  
ノ爲メニ付スル旨ヲ保險業者ニ申込ミタルコトヲ證券上ニ保證セシ  
ムヘシ何ントナレハ今日行ハル、倉庫證券ニハ皆單純ニ火災保險契  
約ノ内容ニ關シテハ倉庫業者ト保險業者トノ特約ニ一任シアレトモ  
倉庫證券ノ信用ヲ確實ニセンニハ倉庫業者カ寄託者ノ委任ニヨリ保  
險ニ付スル旨ヲ保險業者ニ申込ミタルコトヲ證券上ニ於テ保證シ以  
テ万一ノ場合ニハ寄託者又ハ預證券所持人ニ於テ直接ニ保險金請求  
ノ權利ヲ主張シ得セシムヘシ又タ假ヒ保險金ノ受取ニ付テハ倉庫業  
者ノ手ヲ經ヘキ旨ヲ證券ニ記載シタルトキニモ尙ホ其記載ヲナスノ  
必要アリ之レ火災保險ニ二種アルヲ以テ單ニ保管者トシテ倉庫カ自  
己ノ賠償義務ノ爲メニスル保險ニ非ラサルコトヲ確實ニスルニアリ

以上ハ一般普通ノ倉庫證券ニ關シテ述ヘタル所ナリ故ニ尙ホ特別ノ規約  
ヲ設クル必要アルモノハ此限ニ非ラサルノミナラス今日多數ノ倉庫ニ於  
テハ腐敗シ易キ物及ヒ發火ノ危險アル物ハ之ヲ取扱ハサルモ若シ特別設  
備ニヨリ此等ノ貨物ヲ取扱フヘキ倉庫業者ノ發行スル證券ニハ此等ノ  
ニ點付特別ナル約款ヲ設クル等自カラ緩急其宜シキニ從フヘキモノナル  
ヘシ又タ本書ニテハ特ニ論及セザリシカ余ハ保税倉庫貨物ニ對シテハ質  
入證券ヲ發行シ得サルモノト信ス若シ果シテ然ラハ今日ニ於テハ普通倉  
庫ノ證券ト等シク質入證券ヲモ發行セルカ之ヲ改ムヘキナリ、  
現今行ハル、各倉庫業者ノ使用セル普通倉庫貨物ニ關スル證券記載ノ約  
款中大阪倉庫株式會社ノ約款ヲ以テ最モ完全ニ近キモノナラント考ヘタ  
ルヲ以テ此ニ掲載シテ參考ニ供セント欲ス、  
但其ニ於テ火災保險ヲ付セザリシ場合ヲ如何ニセントスルカ又タ其  
四ニ於テ一部出庫ノ記入ニ對シテ倉庫業者ノ認印ヲ押捺セシムルノ必

要ナキカ又タ其五ニ於テ一部辨濟金ヲ質權者ニ代リテ受取リ乍ラ質入證券ト引換ニ非ラサレハ交付セサルハ干涉ニ失シタルモノニ非サルカ又タ其八ニ寄託物ニ關スル費用ヲ出庫以前ニ請求スルノ方法ヲ講セスシテ獨リ保管料ノミニ付其六ニ特例ヲ設ケタルハ首尾一貫セサルカ如キヲ以テ一言注意セント欲ス、

大阪倉庫株式會社發行ノ倉庫證券記載約款左ノ如シ

寄託主及預證券又ハ質入證券ノ所持人ハ當會社ノ營業規則及左記事項ヲ認諾セラレタルモノトス

- 一 保管貨物カ天災事變其他抗拒スヘカラサル災厄ニ罹リ又ハ鼠喰出入貨物ノ性質若クハ瑕疵荷造ノ不完全氣候ノ變遷ニ依リ生シタル損害ハ當會社賠償ノ責ニ任セス
- 二 當會社カ損害賠償ヲ爲スヘキ責任ハ如何ナル場合ニモ本證券記載ノ保險金額ヲ超ヘサルモノトス
- 三 保管貨物カ腐敗變質シ或ハ損傷ノ虞アルトキハ新聞公告又ハ書狀ヲ以テ出庫ヲ催告ス若シ其出庫ヲ怠ルトキハ當會社營業規則第十八條ニ依リ競賣其他ノ處分ヲ爲シ且損害賠償ヲ請求スルコトアルヘシ

- 四 預證券所持人ニ於テ寄託物ノ一部出庫ヲ要スルトキハ其割合ニ應スル保管料立替金其他ノ費用ヲ支拂ヒ預證券質入證券ノ出庫記載欄内ニ指定要件ヲ記入シ記名又ハ捺印ノ上引渡ヲ求ラルヘシ
- 五 當會社ハ質權者ト特約アル場合ニ限リ預證券所持人カ質權設定後預證券ト共ニ當會社カ相當ト認ムル一部辨濟金ヲ提供シ又ハ質權者ノ指圖書ヲ持參シ寄託物ノ一部出庫ヲ求メラルトキハ債權ノ辨濟期前ト雖モ當會社ハ寄託物ノ一部返還ヲ爲スヘシ
- 前項ノ一部辨濟金ハ當會社ニ於テ質權者ニ代リ辨濟トシテ受取リタルモノナレハ質入證券ト引換ニ其所持人ニ交付スヘシ
- 六 保管料ハ其月十五日ノ前後ニ依リ全月分若クハ半月分ヲ當初又ハ現在ノ寄託主若クハ本證券所持人ヨリ申受クヘシ
- 七 當會社ハ保險契約者ト爲リ寄託主ノ爲メ火災保險ニ附ス當會社ト保險者トノ間ニ於ケル特約及保險規則ハ寄託主又ハ本證券所持人ニ於テ認諾セラレタルモノトス
- 八 寄託物ノ出入運搬公告検査保存防疫等ニ要シタル費用ハ寄託主又ハ本證券所持人ノ負擔トス

附

錄

附  
錄

第一 商法中倉庫ニ關スル規定修正意見

- (イ) 東京商業會議所ノ法典修正意見中倉庫ニ關スル意見
- (ロ) 大阪商業會議所ノ發表シタル倉庫規定ニ關スル修正案
- (ハ) 大阪商業會議所特別會員三谷帆秀氏ノ發表セラレタル  
倉庫證券ニ關スル修正案

第二 第三百三十八銀行對中外倉庫株式會社取締  
役各個人ニ對スル訴訟事件記錄摘要

- (イ) 東京地方裁判所判決
- (ロ) 控訴代理人提出ノ準備書面

## 附 録

### 第一 商法中倉庫ニ關スル規定修正意見

商法中倉庫ニ關スル規定修正意見トシテ東京商業會議所及ヒ大阪商業會議所ノ發表シタルモノアリ依テ參考トシテ之ヲ掲ケント欲ス尙ホ大阪商業會議所特別會員三谷軌秀氏カ法律新聞紙上ニ掲ケタル修正意見實際論トシテハ頗ル參考ノ値アリト信ス故ニ併而之ヲ轉掲セント欲ス

#### イ 東京商業會議所カ政府及議院ニ建議シ

タル法典修正意見中倉庫ニ關スル件

#### 第二十六 倉庫證券ニ關スル件

倉庫營業者ハ寄託者ノ請求ニ因リ預證書ヲ交付シ寄託者又ハ預證券ノ所

持人ノ請求ニ因リ質入證券ヲ交付スルヲ要スルコト

二

預證券ニハ其預證券ナルコト質入證券ニハ其質入證券ナルコトヲ示スベキ文字ヲ記載スルヲ要スルコト

質入證券ヲ交付スルトキハ預證券質入證券及ビ倉庫營業者ノ帳簿ニ質入證券ノ所持人ガ一定ノ期日ニ一定ノ金額ノ支拂ヲ受クベキ旨ヲ記載シ預證券ノ所持人ニ質入證券ヲ交付スルトキハ其所持人ノ氏名又ハ商號ヲモ記載スルヲ要スルコト而シテ質入證券ニハ預證券ト同一ノ番號ヲ附シ且質入證券ノ所持人ノ受クベキ支拂ハ單純ナルヲ要スルコト

質入證券ノ交付ヲ求ムル者ハ倉庫營業者ニ對シ質入證券ノ所持人ガ支拂ヲ受クベキ金額及ビ期日ヲ指定スベク又預證券ノ所持人及ビ質入證券ノ所持人ハ倉庫營業者ニ對シ質入證券ノ所持人ガ支拂ヲ受クベキ金額又ハ期日ノ變更ヲ求ムルコトヲ得ベキコト但質入證券ノ所持人ガ預證券ノ所持人ヨリ一部ノ支拂ヲ受ケタルトキハ其支拂金額ニ應ズル金額減少ヲ求

ムルヲ要シ又金額ノ増加若シクハ期日ノ變更ハ其以前ニ於ケル質入證券ノ裏書人ニ效力ヲ及ボサルコト

質入證券ノ所持人ガ支拂ヲ受クベキ旨ヲ記載セザル預證券ノ所持人ハ單獨ニテ又其旨ヲ記載セル預證券ノ所持人及ビ質入證券ノ所持人ハ共同シテ倉庫營業者ニ對シ寄託物ヲ分割シ其各部分ニ付キ證券ノ交付ヲ求め又證券ト引換ニ寄託物ノ返還ヲ受クルコトヲ得ベキコト

質入證券ノ所持人ニ支拂フベキ旨ヲ記載セル預證券ノ所持人ハ倉庫營業者ニ對シテ質入證券ノ所持人ニ支拂フニ足ルベキ金額ヲ供託シ預證券ト引換ニ寄託物ノ返還ヲ受ケ又其金額ノ一部ヲ供託シ預證券ト引換ニ寄託物ノ一部ノ返還ヲ受ケ又預證券ト引換ニ寄託物ノ競賣代金及ビ寄託物ノ滅失毀損ニ因ル損害賠償金中ヨリ質入證券ノ所持人ニ支拂フニ足ルベキ金額ヲ控除シタル剩餘ノ支拂ヲ受クルコトヲ得ルコト但倉庫營業者ガ預證券ノ所持人ニ對スル債務ノ全部ヲ履行セザルトキハ預證券ニ一部ヲ履

行シタル旨ヲ記載シテ之ヲ所持人ニ交付スベク又競賣代金並ニ損害賠償金中ヨリ控除スベキ金額及ビ供託金額ハ兩者ヲ通ジテ質入證券ノ所持人ニ支拂フベキ金額ヲ以テ限度トスベキコト

質入證券ノ所持人ハ倉庫營業者ガ預證券ト引換ニ寄託物ヲ返還シタル場合ニハ倉庫營業者中ヨリ質入證券ト引換ニ其記載ニ從ヒ支拂ヲ受クルコトヲ得ベク又倉庫營業者ガ寄託物ノ一部ヲ返還シ寄託物ヲ競賣シ若クハ滅失毀損ニ因ル損害ヲ賠償スベキ場合ニ於テハ質入證券ニ記載セル期日以後之ニ記載セル金額ヲ限度トシ質入證券ト引換ニ預證券ノ所持人ノ供託スベキ金額競賣代金若クハ損害賠償金ノ支拂ヲ受クルコトヲ得ベク尙ホ質入證券ニ記載セル期日ヨリ一週間ヲ經過セル後ハ競賣代金ノ支拂ヲ受クル爲メ寄託物ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得ヘキコト但倉庫營業者ガ質入證券ノ所持人ニ對スル債務ノ全部ヲ履行セザルトキ又ハ質入證券ノ所持人ノ請求ニ因リ競賣ヲ爲シ倉庫營業者ガ債務ノ全部ヲ履行スルモ質入

證券ニ記載セル支拂ヲ爲スニ足ラザルトキハ其所持人ニ支拂ヒタル金額ヲ記載シテ之ヲ其所持人ニ交付スベキコト

質入證券ノ所持人ガ支拂期日ヨリ二週間内ニ競賣ヲ請求シタル場合ニ於テ倉庫營業者ガ其債務ノ全部ヲ履行スルモ質入證券ニ記載セル支拂ヲ爲スニ足ラザルトキハ質入證券ノ所持人ハ其證券ト引換ニ各裏書人ニヨリ不足額ノ償還ヲ受クルコトヲ得不足額ヲ償還シタル裏書人モ亦其證券ト引換ニ其前者ノ各員ヨリ後者ニ支拂ヒタル金額ノ償還ヲ受クルコトヲ得ベキコト

預證券又ハ質入證券ハ裏書ヲ禁ズル旨ヲ記載シタル場合ヲ除ク外裏書ニ依リテ之ヲ讓渡シ又ハ權利質ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ入質スルコトヲ得ベキコト

預證券又ハ質入證券ノ所持人ト倉庫營業者トノ間ニ於テハ寄託ニ關スル事項ハ各其證券ノ定ムル所ニ依ルコト



理由

爲替手形及ビ船荷證券ハ必要ニ應ジテ一通又ハ數通ヲ作ルコトヲ得ルニ  
 モ拘ハラズ倉庫證券ニ付テハ必ズ預證券ト質入證券トヲ交付スルコトヲ  
 要シ預證券ヲ交付スルニ當タリ必要ナキ質入證券ヲ交付スルコトヲ強ユ  
 ルハ甚ダ迂遠ニ失ヌ又證券ノ預證券タリ質入證券タル旨ヲ示スコトヲ命  
 ゼザレバ頗ル不完全ナリ又質入裏書ニ付テハ毫モ倉庫營業者ノ參與ヲ要  
 セザルガ故ニ質入裏書人ト第一ノ質權者ト通謀スルトキハ債權額利息辨  
 濟期ニ關シ兩證券ノ間ニ其記載事項ヲ異ニシ後者ノ利益ヲ害スルコトヲ  
 得ベク甚シキニ至リテハ一人ニシテ一方ニハ質入裏書人ト爲リ他方ニハ  
 第一ノ質權者ト爲リ以テ不正ノ記載ヲ爲スコトヲ得ベク質入證券ノ所持  
 人ノ權利モ預證券ノ所持人ノ權利モ極メテ危險ナルヲ免レズ又質入裏書  
 人及ビ其後者タル質入證券ノ裏書人ト質入證券ノ所持人及ビ預證券ノ所  
 持人トノ關係即チ寄託物ヲ競賣セザル場合ニ於テ質入證券ノ所持人ハ其

前者ニ對シテ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ルヤ否ヤ預證券ノ所持人ガ供託ヲ  
 爲シ若クハ寄託物ヲ競賣シタル場合ニ於テ預證券ノ所持人ハ質入裏書人  
 及ビ其後者タル質入證券ノ裏書人ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル  
 ヤ否ヤ明瞭ナラズ又質入證券ノ所持人ガ寄託物ノ競賣ヲ請求スルニハ拒  
 絶證書ノ作成ヲ要スルモノト爲スモ競賣前ニハ辨濟ヲ請求スルコトヲ得  
 ズ既ニ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ザル以上ハ之ヲ請求シテ辨濟ヲ受ケザリ  
 シコトヲ證スベキ拒絕證書ノ作成ヲ要スベキ所以ナシ又預證券及ビ質入  
 證券ニ付キ各自ノ獨立シテ其效力ヲ有スルコトヲ認メザルガ故ニ一方ノ  
 所持人ノ權利ハ其毫モ與リ知ラザル他ノ證券ノ記載ニ依テ定マリ一方ノ  
 證券ノ所持人ヲシテ大ニ不安ヲ感ゼシム此等ノ理由ハ相俟テ本文ノ改正  
 ヲ加ヘテ倉庫證券ノ圓滿安全ナル流通ヲ見ルコトヲ望ム所以ナリ

### 大阪商業會議所ノ發表シタル倉庫規定ニ關スル修正案

但環點ヲ附シタルハ余カ特ニ注意スヘキ價値アリト信スル處ナリ

第三百五十八條 倉庫營業者ハ寄託者ノ請求ニ因リ寄託物ノ倉庫證券ヲ交付スルコトヲ要ス

第三百五十九條 倉庫證券ハ預證券及ビ質入證券ノ二通ニ分テ各左ノ事項及ビ番號ヲ記載シ倉庫營業者之ニ署名スルコトヲ要ス(事項省略)

第三百六十條 倉庫營業者ガ倉庫證券ヲ寄託者ニ交付シタルトキハ其帳簿ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス(事項省略)

第三百六十三條 倉庫證券ヲ作リタルトキハ寄託物ニ關スル處分ハ其證券ヲ以テスルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第三百六十四條 倉庫證券ハ其ノ記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡シ又ハ之ヲ質入スルコトヲ得但シ證券ニ裏書ヲ禁ズル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス前項但書ノ場合ニ於テハ質入證券ヲ交付スルコトヲ得ズ(以下省略)

第三百六十五條ノ二 預證券ノ讓受人ハ倉庫營業者ニ對シ速ニ預證券ノ日附番號及ビ自己ノ氏名住所ヲ通知スルコトヲ要ス前項ノ通知ヲナササル者ハ寄託物ニ關スル通知ヲ受クルノ權利ヲ失フ

第三百六十七條 質入證券ニ第一ノ質入裏書ヲナスニハ債權額其利息及ビ辨濟期ヲ記載スルコトヲ要ス第一ノ質入裏書ヲ爲シタルトキハ倉庫營業者ヲシテ前項ニ掲ケタル事項ヲ預證券ニ記載シテ之ニ署名セシムルニ非ザレバ質權ヲ以テ其第三者ニ對抗スルコトヲ得ス倉庫營業者ハ前項ノ事項ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第三百六十七條ノ二 前條第二項ノ記載アル預證券ノ所持人ハ質債務ヲ引受ケタルモノト看做ス質債務ノ辨濟ハ倉庫營業者ノ營業所ニ於テ之

附錄

九

評一、質入裏書ニ付テハ必要トシタル署名ハ相當ノ干渉ナリ

評二、第三百六十七條ノ二ハ最終修正ナルモ適當トモ信ス

ヲナスコトヲ要ス

第三百六十八條 質入證券ノ所持人ガ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受ケザルトキハ手形ニ關スル規定ニ從ヒテ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス支拂請求ノ爲ニスル質入證券ノ呈示及ビ拒絕證書ノ作成ニ付テハ倉庫營業者ヲ以テ支拂擔當者ト看做ス

第三百六十九條 質入證券ノ所持人ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ一週間ヲ經過シタル後ニ非ザレバ寄託物ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得ス競賣ハ倉庫營業者之ヲナス

第三百七十二條 質入證券ノ所持人ハ先ヅ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アルトキハ引受人及ビ裏書人ニ對シテ其不足額ヲ請求スルコトヲ得質入證券ノ所持人ガ裏書人ニ對シテ前項ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ寄託物ノ競賣代金倉庫營業者ヨリ辨濟ヲ受ケタル金額及殘存債權額ヲ記載シ且其請求ヲ爲サント欲スル者ニ對シ辨濟金受取ノ翌日マデニ

償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス第四百八十八條ノ規定ハ質入證券ノ後者又ハ預證券ノ前者ヨリ前項ノ通知ヲ受ケタル裏書人ニ之ヲ準用ス但シ其通知ニハ前項ニ掲ゲタル通知事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百七十三條 質入證券ノ所持人又ハ裏書人ガ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受ケザリシ場合ニ於テ拒絕證書ヲ作ラシメザリシトキ又ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ二週間内ニ寄託物ノ競賣ヲ請求セザリシトキ又ハ前條ノ通知ヲ發セザリシトキハ裏書人又ハ其前者ニ對スル償還請求權ヲ失フ

第三百七十四條 引受人及ビ裏書人ニ對スル質入證券所持人及ビ裏書人ノ請求權ハ辨濟期ヨリ一年間之ヲ行ハザルトキハ時効ニ依リテ消滅ス

第三百七十八條 當事者ガ保管ノ期間ヲ定メザリシトキハ倉庫營業者ハ受寄物入庫ノ日ヨリ六月ヲ經過スルニ非ザレバ任意ニ其返還ヲナスコトヲ得ズ但シ已ムヲ得ザル事由アルトキハ此限ニ在ラズ

第三百八十條 預證券ノ所持人ハ質入證券ニ記載シタル債券ノ辨濟期前

評四、倉庫ニ依  
保辦ニ關スル  
此メシテハ  
如シムルハ  
ナリト信ス

ト雖モ其債權ノ全額及ビ辨濟期マデノ利息ヲ倉庫營業者ニ供託シテ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得但寄託物ノ一部ノ返還ヲ請求スル場合ニ於テハ倉庫業者ガ指定スル時價又ハ其時價ガ寄託物ト債權額トノ割合以下ナルトキハ其割合ヲ以テ定メタル金額ヲ供託スルコトヲ要ス

第三百八十一條 第二百八十六條ノ規定ハ質入證券ノ所持人ガ辨濟期日ヨリ一月間ニ競賣ノ請求ヲナサズ又ハ預證券ノ所持人ガ寄託物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハザル場合ニ之ヲ準用ス

ハ、大阪商業會議所特別會員三谷輒秀氏ノ  
發表セラレタル預證券及ヒ質入證券ニ關  
スル規定改正意見

(法律新聞第三百八十八號乃至第三百九十號轉載)

我が商法ハ倉庫證券ニ關スル規定ヲ設クルニ當リ歐州大陸ニ於ケル二枚

證券制度ニ則リ預證券及ビ質入證券ナルモノヲ設ケタリト雖モ其ノ規定不完全ニシテ之ヲ實施シテ既ニ八ケ年ノ久シキヲ經ルモ未ダ二枚證券ノ效果ヲ實顯セズシテ猶ホ舊法ノ一枚證券制度ノ状態ヲ脱スルコト能ハザルナリ抑モ二枚證券制度ハ立法的作用ニ依リテ出來得ル丈ケ商工經濟利益ヲ擴大センガタメ一商品ニ對シ二箇ノ代用證券ヲ設ケ依リテ以テ一面ニハ物權的作用即チ賣買取引ヲシテ敏捷且ツ正確ナラシメシコトヲ期シ預證券ノ裏書ヲ以テ容易ニ所有權ヲ轉輾移動セシメ又一面ニハ債權的作用即チ其ノ物件ヲ以テ擔保セル貸借取引ヲシテ敏捷且ツ確實ナラシメンコトヲ期シ質入證券ノ裏書ニ依リ質權ノ設定及ビ質債權ノ移轉ヲ利便ニセンコトヲ企圖シタルモノナリ即チ其ノ目的物ハ一ナルモ其ノ商取引タル法律行爲ハ利害ノ關係相異ナリタル多數人間ニ於テ幾多ノ賣買及ビ擔保附貸借契約トナリ又其賣買ニ付キテハ物件移轉ノ外代金ノ受拂ニ關スル債權關係ヲ生ジ又擔保附貸借ニ付キテハ質權ノ設定移轉及ビ債權讓渡